

環境は古來文明を左右することが多い。殊に氣候はその大なるもの、一つで之を抜きにして古代文明も近世文化も考へられない。北米の沃野シベリヤの凍土アラビヤの廢地等皆天候の然らしむるものにして我國の産業分布状況をみても苹果—蜜柑、榛—櫛、馬鈴薯—甘藷、牧馬—牧牛の如く各產地帯は北から南へと移りゆくことは皆氣候の關係によるのである。かゝる重要な氣候を教科書にほんの僅かしか載せてなく、その存在さへ認められざるが如きは惜しいことである。外觀からみて何の意義のない様なことでも其の地の特色に何か關係のあることまで推考を及ぼさねばならない。其の地の自然に對して人はどんなに工夫し順應策を講じてゐるかを考へる。こんな所に今日の地理教授を芽生えさせて行かねばならぬ。例へば筑紫平野の民家は竹や筵を壁に代用してゐる。北陸方面では土を十分使つて厚い白壁を塗り堂々たる體を示してゐる。此の二つを如何に判断したらよいか。常識的にみると前者は貧弱に後者は有富にみえる。然しよく檢べてみるとそれぞれ見方によつて各長短があつて直觀的に決定せらるべきものではない。筑紫平野の土地は肥沃で産物が豊富な爲此の沃土を不生産的な壁にして保存するよりも耕地として使用した方がより價值があるからである。我が北國地方は耕地とす

べきより以上の價值があるからである。氣温・風力・積雪の防備等はそれである。

我國の服裝は低級な様だが氣候生活状態からしてかくなければならないからである。木と紙と土とで作られてあるとて外國人が我が家屋を笑ふさうだが之に幾倍する金力と努力とによつて作られた洋館は彼の大震災で粉砕されたではないか。環境を和らすして人文事項を評するはあまりにも狹見界ではあるまいか、未開の土人も多年の経験によつて自然順應の良策を有してゐる。南洋の土人は身體に油を塗つて害虫のたかるを防ぎ雨をはちいて風邪を防ぐ、又黥をする。それには立派な理由がある。黥をするのと體の表皮と心皮の間に炭素の層を生じ昆虫の毒牙を通さぬのである。之を解せぬ數多主治國は之を禁止した爲土人の死亡率を高め全く政策に失敗した。環境は人類の體格に及ぼす影響も亦大なるものがある。これは新大陸で研究されてゐる。そして永住すればする程純血種と大差を生ずるので、アマゾン附近へ移住せるアングロ・サクソン族は九十%まで足は胸の割合に長くなつてゐるといふ。それは中を渡るべき環境にあるからである。

#### 4. 人類の自然征服

吾人は人類分布圖をドットマップによつて見る時その不平

均なるを認めるのである。それは生活の安易な所により多く集まるのである。吾々はかく自然に左右さる、傍又之を利用征服して發展の範圍をひろめねばならない。こゝに人類の特性があるのである。一般に人類の環境から蒙る影響は人文の進化と共に減少する傾向がある。故に人類力の自然に及ぼす影響は人文の進化と共に増進することになる。不毛嚴寒のシベリヤはいよいよ注目され沙漠タリム盆地が氷河に水源を得、伏流的灌溉法とり、イギリスは濠洲に牧場を作り「天は海を作り我は陸を作る。」と豪語せるオランダ人はポールタを作る等は人類の自然征服の一例である。「文明に北に進む。」といった學者もあるがその論議はさておくとして、唯人類は自然力に打勝つて荒地を拓き寒苦と戦ひ炎熱を侵して新しい文化を作つてゆくことが人間の使命である將來石炭、石油の盡きた時原動力として無限にひびく怒濤の力、永却に輝く太陽の熱に依る時代が來るであらう。そうなると今まで捨てら

れあつた浪荒き海岸や酷熱の沙漠地人類聚落の中心となるであらう。文明は固定するものではなく人類の力によつて移動するものである。それなればこそ人類活動に希望と努力が生じてくるのである。

#### 四、結び

自然を最も利用するものゝみが此の世に於て最もよく繁榮するのである。我々は唯自然の威壓に堪えかねて徒に崇高の感にのみうたれ恐怖の念におそはれることは人類は萎縮するばかりであつて人類の誇がなくなつてしまふ。地はどこまで人類活動の舞臺である。

吾々は人文地理を研究する場合によくこんな所に着眼し、地人相關理法をよく考へ、教授にあたる場合に之が推考に導入する様心得ねばならぬ。之即ち將來に永く生きてゐる地理教育である。



# 産業學習の三大過程

氷見郡氷見區域研究會

南上校 清水卯一郎

人類活動、國家發展の中心、根源をなすものは經濟である。而してその經濟的常識的思想を涵養するに他の教科に於て望むことは難事であるが、獨り地理科のみは産業、産物、交通等によつて經濟に關する内容を最も實際的に陶冶理解し得るのである。地理科の本質の價值づけられてゐる所以はことに存するのであつて、その主要部を占める産業の重要視し得る所以は此の一事によつても容易に推察し得られる所である。随つてその取扱指導の複雑し難澁であることは言ふまでもない。私はこの産業學習に對して三つの作業過程によつてその目的を達したいと思ふ。

## 一、産業分布圖及統計グラフの作製

獨自學習をなしつゝ、絶えず想像推理し産業分布圖を作成して行くことは動的であり構成的である。しかもその地方、その國の産物の種類、産額の狀況を一般的に總括的に身體的感

覺に因つて把握して行くことは知識を明瞭適確に系統的にすばかりでなく觀察を精密にする長所を有する。又作業主義教育の重視せらるゝ今日、作業學習に對して恐らく否とするものはなからう。以上の外に兒童の興味を惹起し劣等兒と雖へども良く之をなし得るからである。無味乾燥に終るべき數量取扱さへも嚙々として學習し得らるる。

### a、産業分布圖

色分、線の組合、文字記入等描圖の方法は種々あるが分布圖の性質によりて之に適當したやうになさねばならぬが要は産物の區域、産地を明かに知らしめたい。

一地方を中心として産するか、一地點に於いて産するものであるか、の見解がなければならぬ、例へば臺灣の甘蔗については、地方を中心として栽培、産出するが砂糖に至りては一工場に於てなされてゐるのであつて、製糖は強ち臺灣に於

てなさねばならぬといふわけではない。たゞ砂糖をつくるのに原料としての甘蔗が必要であればよいわけである。大日本製糖の如きは東京に於て製糖をしてゐる。只經濟關係によつて臺灣地内に製糖されるのが多いと言ふわけである。だから砂糖が産すると言つてもその土地には何にも砂糖的な色彩が見出し得られないのが普通である。

かくの如く取扱つて始めて具體化への導きとなり。實際的に又より深く商品學への研究の緒口ともなるのである。分布の區域を大にすれば養蠶地帯、米地帯、鹽(製鹽、天日法鹽)地帯といふ様に觀察されてそこに産業地帯圖が生れて來る。してそこに超自然的な人力の偉業を推理されし行くのである。パラゴムが東南アジアに移植されて栽培ゴムとして重要産物となり、日本に於ては熱帯に野生した稻が寒帯に近い川上盆まで分布される現象を示し、新潟、秋田の石油産のことから地質上への考究となる等種々の方面の學問の深刻化へのスタートとなつて行くそして地理學上の識見を養成する一要點となつてゐる。

私は一地點の産物は文字に、地方的のものは色別によつて表示するやうに指導してゐる。兒童の中には線の組合によつて表してゐるものもあるが……點の濃淡厚薄による方法は用ひ

たことがない。

### b 統計グラフ

方眼紙(學習ノートに記してゐる)や方眼塗板を利用し描かせ得る。

書き方には

#### イ、象形法

ロ、線法(直線法、曲線法)

ハ、面積法(圓形法、半圓形法、方形法)

#### ニ、地圖法

主に取扱ふのは直線法、及圓形面積法が主となつてゐる。一番容易であつて、割合一目瞭然として分明するからである。その地方の産物の總てを一つの面にかく方法を用ひ、一目に産額を知らしめるが又模式的材料についてはその關係比例を表示するため、全國の分布狀況をも併せ知るため全國的(世界的)の産額統計を取扱ふことも行つてゐる。

教科書には

イ、關東地方……米、麥

ロ、奥羽地方……馬



ハ、中部地方……茶、絹織物、繭

ニ、近畿地方……綿絲、綿織物

ホ、中國、四國地方……牛

ヘ、九州地方……石炭

ト、總説……農産、礦産、銅、金（朝鮮）工業、貿易

チ、其他……貿易統計など皆方形面積法によつて表示されてゐるが尙不足のことは言ふまでもない。

數字のみの書取や聴いただけでは不明瞭であり、無味乾燥であるが、グラフにしたときは變化が出來て興味もあり、確實に一目瞭然に之を直観し得る効果がある。

是には現在の狀況を知るために最新の統計を用ゐるが定數を知るためには平均したものをを用ゐる。しかし一産物を考察する時歴史的觀察を要するものには過去數年前のものをも用ゐる。人為的發達を遂けたる跡、經濟現象の變化などを知らしめることもある。

二、模式的材料

ア、模式的材料として如何なる産業を取扱ふか

イ、地方經濟の中心となれるもの

ロ、日本といふ見地上重要なもの（多く産するもの、又は不足として、年々輸入してゐるもの）

況等を知らしめることである。出來る限り直観に訴ふべきもので、之をなし得ない場合は寫眞や繪はがき、教師の參觀狀況説話、又は映畫などの企てはよい。

例へば紙ならば王子製紙伏木工場を實際に參觀せしめるとか大毎新聞の發行狀況映畫などを見せるとがそれであつて、尙深く、濠洲の羊毛についてその早魁の狀況それに對して掘抜を行つて之を防がうとしてかも掘抜水には鹽分を含んでゐるがために却つて羊毛の質を優良ならしめることや、羊の飼養のありさま等説話するか學習させるかする等である。

エ、販を明かにし經濟價値の存在する所以を知り特に貿易品にはその關係を知らせ又はがため交通機關に、聚落にと人文對人文の聯絡統一的學習を行ふと同時に將來の判斷力をも養成すべき取扱が望まれる。

又輸入品に對しては何がために必要であるかの問題に關して食糧問題、燃料問題等國家的經綸の存在する所以を推究してその概念を與へ、國民的教材に對しては一つの見識を具へしめることが肝要である。

例へば生絲、絹織物が米國に輸出されるが、その品物の本質が必要品ではない。流行を逐ふ贅品に使用されるものである關係上、人造絹絲の勃興から遂に輸出が減少し、その價

ハ、郷土や日常生活と關係の深い産物

ニ、將來有望なるもの

ホ、特殊的な産物

但しこのうちでも主副をつけることは勿論である。

イ、地理的原因を探究する

地勢を取扱ふ時産業への推究は行つてはゐるが、一個の産物を取扱ふにもより以上に深く、明確に、具體的に、雨量圖、氣溫圖等を參考として地勢、氣候等の自然的關係を推究する事は必要であつて産業の擴張性の存する所以はこゝにある。

しかし、是等地理的理法の外に歴史的關係に就いて、個人の工夫、努力、發見による。或は國產獎勵や、個人的改良獎勵に俟つこと入ること、國家的、個人的、偉業の重大なる等人文的事項を知らしめねばならぬ所だと思ふ。

臺灣の甘蔗栽培に於ける總督府の獎勵法、瀬戸の製鹽の個人的努力、近江商人の由來等はその好例であらう。

エ、又是等の題材については全國的の經濟、世界經濟といふ事を對象として取扱ひたい。主にグラフ使用によるものであるが尙不足の分は多い。

イ、具體的説明が必要である

産物の用途、産出の狀況、工產品なる場合はその工場の状態

格の下落を見るに至つた理由や、治萍煤鐵公司の特約、そして鐵礦を日本に輸出し、日本から石炭を輸入する原因、波斯の石油問題等はその適例であつて、現今の國際的時事問題を起す所以を推知する程に進みたい。

三、商圏の部に屬するが一産物についてその處理されること

とは模式教材として忽せにする事の出來ないものであるが、一般すべての産物に對しても、商品としての本質上、その價値的所以を知ることが緊要であつて、是には交通機關の發達即ち運輸狀況に密接な關係を有するのであつて、鐵道省の重要貨物狀況、また簡單に調査し易いが（各港灣の稅關通過であるから）輸出入狀況等によつて良參考書とすること出來、そして世界經濟、國家的經濟、その産物の價値的所以を知り、又それから生ずる經濟現象、種々の交渉から生ずる價値對象の諸問題の大概を推理し、おほろげながらも頭にひらめくことは地理學の本質上重視すべき事項ではなからうかと思ふ。

例へば泉州産の果實が名古屋へ輸送されて始めて他の諸方へ賣捌かれる事や伏木港附近は北海道炭も九州炭も輸送されて、その動力となつてゐるが京濱工業地帯は常磐炭、北海道炭のみ使用されること、近くは氷見の針が京都へ行つて、再び逆移動する如きなどもそれである。即ち産物の移動狀況を



知ることには産業學習に對する整理であつて、産物の種類も復習され、その經濟現象をも推知される好資料たるのである。

かくて日本の世界的地位、一地方の日本の地位、一小地方の地方的地位を自覺し、又交通への導き、都會聚落への推理へと有機的系統的學習をなし得られ、地理學習の實質的目的が達せられ、愛國心、地理的識見の養成等形式的目的にも副ふて來るのでなからうか、勿論一つ／＼産物に對して模式的に取扱つて行くとは良からうが、學習經濟上、又移動狀況を知らば、模式教材等の大體演譯されるわけであるから、その體験的直觀的推理にまかした方が却つて、より以上の好結果を得られるであらうと思ふ。

各單元の指導方法は教師によつて、各異ならうが私は地理書と附圖によつてその要旨を讀破せんとして、獨自學習をなし、整理學習し、作業するものとし、之に教師の具體化的深刻化的直觀取扱が加はつて始めて學習をして興味あらしめ

價值あらしめ、能率をあげることが出来るのであると思ふ。随つて教師は産業取扱にも學習する産物の取捨輕重を誤らず小學校地理科の本旨に副ふやうに常に修養して、地理的見識を高め時事問題を解する必要がある。故に兒童に對しては、參考書を用ゐるよりも先づ教科書、附圖を熟讀するやうつとめてゐる。之は一面、優等兒本位にならうとする學習を劣等兒が少しでも、それに得ることのあるやうにするための長所でもあると思ふのである。

要するに産業學習に對しては先づ附圖を照合して教科書を讀み、作業に訴へて産業一般の概念を構成せしめ、模式的教材によりて、地理的理法の發見、人文への推理、と關聯的に相互學習し、移動狀況を知りて、經濟的所以を知り、且學習を整理とし、實習的に、經濟的に、本科の目的上効果あらしめたいと惱みの果ての産業學習である。忌憚なき御指導を賜はりたい。

## 取る可き小學地理教授

氷見郡速川區域研究會

池田校 堂 前 勇 吉

社會が要求する地理教授をなせ

國家社會の要求する地理教授は、よりよき人間を作る地理教授でなければならぬ。即ち不要なる地理教授でなく、現在及び將來の實生活に適合する地理教授であつて欲しい。しからば如何にす可きか私は思ふ。確固たる着眼の上に、徹底せる活地理教授の促進でなければならぬ。

從來の地理教授の不振及び、地理教授が無味乾燥だとして呼び捨てられたる理由は、斯科の基礎教授の不徹底たるのと、教材に對する着眼點の幼弱なる爲めであつたと思はれる。此の意味に於て、私は地理科の基礎教授の徹底と、教材に對する考慮に力説するものである。

A、基礎教授の徹底

教育の實際化としての郷土地理の尊重

教育を實際的ならしめよとの主張は、随分古くから存りに

繰り返された問題であるが、殊に急激なる時代思潮の變化に伴つて人類の生存競争は愈々熾烈となり、其の日常生活も亦一段と複雑を加へて、や、もすれば優者の強壓の下に永く劣敗者の渦中に投ぜられて、容易に弱者の苦悶を脱す能はざるが如き當今の時運に際會するや、更に其の聲は一層力強く教育界に喧傳されるに至つて、最早現在の問題は、單に教育を實際に接近せしめ、實生活に適合する様にせよと云ふ様な抽象的な論議時代を通り去つて、如何にすれば實際的又は活動的の智識を提供し得て、此の日進月歩の時勢に後れざる、有爲の國民的資格を賦與し得るかと云ふ、其の第二の方法論に進んで來たのだ。

國初以來悠々三千年、未だ些の曇りも止めず、勢威隆々六合に洽ぬき我が國運を維持して、今後愈々其の進運發展を劃策せしめんが爲めに、第二の國民たる我が可憐の兒童に要求



する所は、頗る多く且つ其の程度は甚だ高い。

しからば如何にして此の國家社會が要求する多くの須要なる智識を、心身共に尙極めて幼弱なる兒童に、然も所定の短かい時間内に於て授け、彼等の生活に應用せしむ可きかと云ふ事に就ては恐らく各教授者の均しく頭を悩まして居る問題であらう。此の重大なる問題に對して、唯單に不要の死的智識の抽入を止め、實際的活智識を提供して、専ら國民的資格の賦與に努むべきであると云ふ様な、從來の如き口先計りの抽象的指示のみでは迎も満足する事が出来ない。

近來荐りに論說される郷土科教授なるものは、此の重要問題解決の一良策として、兒童の日常生活に基いて基礎觀念を整理し、緊縮せる歸決點を其の直觀の範圍に與へて、以て正しき理解の根基を培養せしめ、眞に教授の目的を達成せしめんが爲め専ら識者の力説して止まざる所であつて、凡そ基礎の上に築く教授でなければ確實なる効果を齎すものでない。口先による千百の説明よりも實地を踏み、實際を目睹せしめたる一回の直觀が遙かに効果が大きい。

小學校に於ける兒童の多數は、彼等の生れ故郷の郷土に止まつて、郷土民としての生涯を送るものであるから、他日彼等の生活と没交渉な、多くの空漠なる智識を有せしめるより

も、實際生活する周圍の事を正確に理解せしめ、之に適應するやうな指導を十分にして置いた方が遙かに利益であることは勿論、又眞によく郷土を理解する事によつて、郷土に對する研究の興味も起り、やがて之が美しい愛郷心の涵養ともなつて、更に愛國心の源泉として發芽するものである事を考へると、教育究意の目的から觀ても、小學校に於ける凡ての教科が皆郷土的背景の下に其の教授を進むべきであると云ふ事は、何人も否定し得ない所である。

殊に地理科の如くに、實地を對象とする教科でありながら郷土以外の地方は全く未見未踏とも云ふ可きものであつて、唯僅かに不完全なる地圖や模型による外は、殆ど想像のみを以て學習せしむべき所謂架空的の教科に於ては、其の性質上之が理解を求める上の基礎として、殊更に兒童の直觀範圍に屬する郷土の自然、人文上の諸對象から誘導す可きである。彼の自然教育の主唱者であるルソーは、其の著エミールに於て「郷土を以て地理教育の出發點とす可し」と曰つてゐるが、事實郷土は或る意味に於て地理教授の出發點であると共に、また歸着點でもある。

たとへば讀圖の能力を養ふにしても、單に未見未踏の地の有様を地圖に現はしたものと、夫れを説明する文とを結合し

て、つまり想像的に取扱ふよりも、郷土の所謂兒童の最も知り懐んでゐる地域の事柄について、之を地圖に現はし、實際と地圖とを對照して直觀的に指導することの方が、比較的容易に其の目的を達する事を得るので、又郷土の地理的教材を充分に理解せしめ且つ簡單ながら地理的理法を知らしめて置けば、他日他地方の地理的事項並に地理的理法を知らしめる際に、之と比較對照し、且つは又類化することの便宜もあるからして、兒童の理解にも非常に便する次第である。

然らば郷土地理を課する時機及び其の方法、又は郷土の範圍は如何と言つた様な問題になつてくるが、紙頁の關係上、之等の具體的な事柄は茲に畧する。

#### a. 基礎教授としての讀圖力の扶養

今日の地理教授に於て最も大切な事は、如何に地圖を活用するかと言ふことである。地圖活用の如何によつて地理教授の成功は定まると言へば是れである。

而して地圖を如何にして活用するかと云ふことは、地圖を如何によく讀ましめるかと言ふことである。「地圖を讀む」と言ふことは字義通りに之を解釋するならば、至つて簡單であつて、國語の力さへ付いてゐれば何でも無い事の様に想はれるが、併しながら地圖を讀むと言ふことは、單に地圖上に記

載してある固有名詞の詮索をのみ言ふのでは無い、又單に地圖上の記載事項である都邑の分布の如何とか、地勢の状況とか、交通線の有様を見出すばかりでもない。更に又、方位とか、方角を知る、ことのみを言ふのではない。寧ろ夫れ等は讀圖に於ける初歩であつて、夫れによつて其の地の氣候を考へ、生物の如何を察知し、又是等の自然的事項と交通・住民・産業等人文的事項との關係を讀みとらなければならぬのであるから、單に國語の力だけでは地圖は讀めない。

#### b. 基礎教授としての類化・對比の基準體得

本來地理教授の立場としては一々の教材に就いて、夫々實物を提示して、即ち實物の直觀によつて指導すると言ふことは、困難なる事柄であるからして、隨つて萬止を得ず現在行はれてゐる所の、想像的乃至は類推的方法によつて出来るだけ其の真相に近く、指導しなければならぬのである。

而して「易より難に、簡より繁に、近より遠に、具體より抽象に、既知より未知に」と言へるコメニウスの教授原則に倣ひ、先づ兒童の日頃直觀々察してゐる所の郷土に教授の出發を求めて、郷土の實際の地形なり、氣候・風土・産業・都邑・交通の状況並に其の發達又は衰微の理由等、其の他諸雜の地理事項を觀察せしめて置き、他日一般教授を營む場合に、



兒童の過去に經驗してゐる既有觀念を材料として参考書或は人々の談話、又は繪畫・寫眞等を通じて、遠く海波萬里の異郷にある都會地の有様でも、或は山岳・河川等の狀況でも、各自の腦裏に描現し、或は斯くもあらんかと比較對照し、且つ兩者の間に於ける類似點をよく考察して、當該地方の地理を推理判斷して行くことを體得せしめて置く可きである。

e、基礎教授としての讀解練習

地理教科書には、多くの所謂地理的術語が用ひられてゐるからして、之等の術語に馴れさせたいと主張するのである。現行の地理教科書は、此の點には餘程留意してあつて殊更に難解の語句は用ひてないけれども、地理書は矢張り其の教科の性質上、萬止むを得ず地理的術語を用ひて記述してある所が多いからして、之等の點については、本科初發の時に於て、夫等語句の内容を、一通り兒童に了解せしめて置かなければならぬ。斯く言へば、論を好むものは或は言ふかも知れない。「地理は語句の解釋などを教へる教科では無い。語句の解釋などは國語科の仕事である。」と。併しながら夫れは理屈であつて、實際に於てはさうは行かない。即ち地理書には尋常四學年迄の讀本に出て來ない語句なども、前記の術語としての性質上多數に使用されてゐるからである。勿論

之等の術語に就いても、郷土地理の取扱ひに於て、之と關聯的に説明指導して置くことも出来るのであるから、殊更に其のために、時間を必要とはしない場合もあるが、兎に角、何等かの機會に或は何等かの方法によつて、之等の術語に馴れしめて置かなければならぬ。

d、基礎教授としての地理的智識の整理

兒童等は尋常四學年迄の間に、あらゆる場合に、種々なる地理的智識を附與されて來てゐる。即ち家庭に備へられたる地圖、兄弟及び友達の使用してゐる地圖等を見てゐる中に、何時しか不知不識の中に、地圖に關する智識を收得してゐる様な場合もあるであらうし、又それまでの間に於ける學校生活の中に於ても、他教科特に國語讀本等の中に織込まれてゐる地理的教材によつても、相當に地理的智識を附與されてゐるわけである。又郷土地理教授によつても、兒童は尠からず地理的智識を收得してゐる筈である。併しながら家庭その他によつて、兒童の自ら得たる地理的智識は其の都度目に觸れたものによつての夫れであるから、甚だしく斷片的にして、無系統なものである。よつて一般教科の指導に於けるが如く完全なるシステムを辿ることは不可能であるが、色々の場合、種々なる機會を利用して、是非とも一通り初めて地理科の正

式な學習に這入るに當つて、教師輔導のもとに、更に復演的に之を確認せしめ、其の既有觀念を適宜に整理しなければならぬ。

以上の四項は郷土地理と同時に、且つ郷土地理教授に於て基礎教授を徹底ならしめる上に是非とも一通りは取る可き仕事である。

B、教材に對する考慮

a、材料の多過なるに比し教授時間の僅少

小學校に於て、否地理學に於て、材料の多方面にして廣汎たる學科は、恐らく地理科に比するものはなからう。即ち其の教授の要旨に於ても示されてゐる如く、地理科に於ては「地球の表面及び人類生活の狀態に關する智識の一斑を授け、又本邦國勢の概要を理解せしめて延いて愛國心の養成に資する様の指導をしなければならぬ」とになつてゐる。

地球の表面とか人類生活の狀態とか言ふ語句の内容は實に空漠たるもので此の要旨に依つて示せる教材の範圍が、如何に擴く、如何に多方面に亘つてゐるかはその旨もあるまい。斯くの如く地理科は其の研究の對象たる材料が、他學科に比して頗る廣汎に亘つてゐるが故に、本來ならば、他の何れの學科よりも、特に多くの教授時間を必要とするものであるに

も拘らず、現在における其の教授時間數はと言ふと、實に話にならない位僅少の時間しか與へられてゐない。即ち現在小學校に於て理科のために割かれてゐる時間は僅に毎週二時間しかない。されば若し此の時間が何等の事情にも禍されず理科のために費されたとしても、春季・夏季・冬季の休業期間を除かねばならぬが故に、其の尋五・尋六の二ヶ年間に於ける教授時間は僅に二百時間にも遠く満たない状態に置かれてゐる。

b、教材取扱上の留意

之等の僅少の時間に於て、前記の如き多方面なる事柄に向つて研究を遂げようとするのであるから、取扱上に深く考慮しなければ到底其の成果を收むることは困難である。

固より地理科の教材は、教科としての性質上、其の編纂上においても、國家的見地上に立つて、人類生活上の要求の方面からと、兒童の心意發達の程度に應じて其の材料を取捨選擇して、凡そ其の研究の範圍を限定してはあつても、夫れにしても單に夫れだけの教材のみを以てしても、尙且つ其の教材は餘りに多方面にわたつてゐる。されば之等の取扱において譬ひ夫れが教科書中に盛られてゐる教材であるからと言つても、何れの教材に向つても同様の指導をなして居たのでは、



到底一定の期間内において與へられたるすべての教材の取扱を完全することを出来得ない。若し爲し得たとするならば、夫れは恐らく我等の最も忌むところの何事も教科に記載されてゐる事實の取扱ひ以上に出ず、千遍一律にして、所謂羅列的、讀本の講義式なる地理教授ではあるまいかと思惟せざるを得ない。而して從來の地理教授が動もすると斯うした方法によつて爲されてゐたが爲に、地理教授が、教師にとつても、兒童側から言つても、常に無味乾燥な、所謂砂を嚙むが如き無趣味なものとして、一般に歓迎されるに至らなかつたものではないかと想感せしめられるのである。此處に於て私は、之等の行き詰れる現代地理教授打開の一方途として、地理教授における教材の等級的指導と言ふことを提唱するものである。つまり地理科の教材に對して之を價值的に批判し、其の最も重視すべきものと、左程でもないと言つた様なものとを判別して、自ら其處に輕重的階段を設けて之が教授に當つて相當の手心を加へて、然る可きものであると思ふ。

e、編纂者の意圖を充分に盡してゐない地理教科書に對する教授者の態度

今回修正されたる地理教科書には、餘程まで之等の點に就いて考慮が拂はれてゐて、特に力を入る可き教材と、さうま

繰り返すか、或はまた千遍一律、羅列的、大風一過的なる不徹底なる地理教授に終るの外はないのである。併し乍ら斯く言へばとて、私は決して教材に對して或一面的な觀察と、一方的な指導とを主張するものではない。此の點に就いては特に誤解なきことを望むものである。

即ち或る地方に於ては、特に地勢に重きを置いて指導し、又或る地方に於ては、特に産業に就いて、或は交通に就いて都邑に就いてと、個々の地理的要求に對して、夫々之れ等を等級的に觀て指導したいと言ふのではない。地理教材の等級は夫れらの諸要求を對照として附せらる可きものではなくして、諸要素の取扱上に於て、考究さるべきものであることを一言して置きたい。つまり地勢教材ならば地勢教材の中に於て、産業教材ならば産業教材の中に於て、特に重視すべきものと、左程でもないと思惟されるものとの區別を認定して、之が取扱上に於て、相當の手心を加へると言ふのである。

d、特に重視すべき教材

然らば之等の諸要素の取扱上に於て、之を價值的に批判し之を等級的に取扱ふには、如何なる標準に従ふ可きであるか此の點において私は愚考する。所謂輕重價値を認定する上において、私の特に重視したいと思ふ事柄は先づ第一に各地各

で無くてもよいと言つた様な教材とが、それとなく暗示されてゐるやうにも考へられる。併し乍ら教科書は矢張り色々な制禦を受けてゐるが故に、編纂者の意圖を充分に盡してゐない點が多分にあると思ふ。と言ふのは教科書の編纂に當られた人々に於ても必ずや此の教材はもつと詳細に記述して置きたい、兒童に徹底さして置きたいと思惟されながら定價の關係、教授時間の關係等から思ふに任せぬと言ふ様な事があつたに相違無いと思ふからである。隨つて其の記述上に於ては從來のものに比較して若干の進歩を示したとは言へ、まだ夫れ等の教材の中に於ても、當然なければならぬ所の輕重緩急の差が十分に知解されるだけにまで精鍊繁簡の度を明かになされてゐない。

故に之れは特に重視すべき教材と思惟される所の教材に對しても、前記の如き事情から止むなく寸鐵的に概説してあるに過ぎない。隨つて指導者が之等の點に着眼して夫れ等の教材に對する正當なる價値を認定するの見識に乏しかつたならば、勢ひ何れの教材に對しても、同一程度の取扱ひをなすの止むなきに至るは當然すぎる位當然なことである。

隨つて其の結果は教授時間の不足となり、多量の教材を餘した儘、兒童を社會に送り、或は上級の學校に送るの失態を種の地理教授に對する個性、即ち地理的特色を示す所の教材を尊重し、それと共に又夫れ等の共通性を代表してゐるところの所謂模式的教材を重視したいと言ふ事である。而して之等の教材を選定する上において、更に留意したいと思ふ事柄は、單なる一地方的な教材よりも、國家乃至は世界の大局に關係深い教材をより重視し、夫れと共にまた吾々人類が如何に自然に順應し、或は之を利用し、更にまた之を克服しながら生活しつゝ、あるかといふこと、即ち言葉を換へて言へば、如何に人類が文化的生活を營みつゝ、あるかと言ふことを如實に相感せしめ得る所の教材に着眼して行きたい。而して尙此の外特に考慮を拂ひたいと思惟する教材は將來發展する可能性を有する教材とか、或は又兒童の現在及び將來における實際生活に關係深い教材と言つた様な如き事柄である。

即ち之等の事柄は、地理教材の價値を認定する上において、特に重要な點である様に思ふ。故に私は大體以上の如き標準によつて、其の取扱上において、補説敷衍の程度に輕重緩急の差を附け、各教材に對する着眼點を考究して、無味乾燥ではなく、不要な地理教授だと呼び捨てられなく、時代の要求に適する地理教授でなければならぬ。



# 地理科における異学年 異教材取扱上の一経験

氷見郡河尾區域研究會

余川 校 京 田 山 榮

複式編制に於ける學級教授上其の特質として、教科教授の上  
に又訓育の上に種々の効果が一般に認識されて居る事は今  
更の如く之を喋々するの必要はあるまい。且つ此の編制が地  
方の經濟的事情に副ふ所があるので、一方年々就學兒童が激  
増する爲め學校増加に學級増加に腐心し計畫されて居る今日  
尙或地方に至つては此の種の學級編制の多く見られるのも事  
實である。さて私は茲に複式編制の本質について論述するも  
のではなく唯教科教授上地理科に於ける異学年異教材取扱上  
の一ヶ年間の経験を發表するものである。

地理科乃至は國史料における従来の複式學級における教科  
組織を見るに多くは之等の教科を書方圖書又は綴方等の教科

受持であつた複式第五六學年男女兒童に各其の學年當該の地  
理教科書を持たせて教授したものであるが、其の経験時代も  
甚だ短かく自ら疑問とする所も解決されず結局自覺されざる  
經驗時代を通過して終つたといふ譯である故可然御批判を仰  
ぎたいのである。

## 二

今兩學年に同教科異教材として教授して次に記せる數點が  
少くとも其の結果の長所として認められた所である。

### 1、學年の順序として教材を進めらる。

之は異學年に同教材を課した場合に比較してのことである  
が地理科の教授に於ては必ずしも教科書所載の如く、如何な  
る地方に於て於ても如何なる學校に於ても授けねばならない  
といふ必要は無い事であらう。元來現在の如く地方單位とい  
ふ事は本科教授の單元上決して理想的のものではあるまい。  
何となれば地理的事象は悉く運よく此の地方單位に包括され  
るといふ事は甚だ稀であつて、關東地方の如きは比較的理  
想に近い方であらうが、それでも自然的事象は人爲的單元を脱  
して居るのである。それ故に理想は自然にあるのであるが小  
學校の兒童に然も學習の便宜上に於て地方單位は我等小學校  
時代の地理教科書の如く府縣單位に比して餘程自然に近いの

と組合せておくのが通例であるやうに見受ける。然も地理科、  
國史料に配合された書方圖書等は憐にも繻子視扱され、或は  
附帶的從屬性を帯びさせられ甚だしきは全然問題外のもの  
とされて顧みられないやうな感がするのである。或は又程度に  
差異のある兩學年に同一種の教科を與へて無理にも同一程度  
のものを兩學年に授けやうとしたりする。此の組織にして最  
も困る場合は高等科に於ける一二年の複式編制の學級ではあ  
るまいか。此の種の編制は地方種々なる事情に適合するので  
相當多くの編制學級を見る。之にすると或る年度の高等科一學  
年の兒童には外國地理を正當に授けずして補習地理を授ける  
といふ破産があるのであるが、種々なる事情上止む得ざる事  
であらう。私が茲にいふ一経験は私の學校に於ける私の嘗て

である。此の地方單位に基づける各地方の教授は卷頭の大日  
本帝國を授けた後に於ては先づ自己の居住する地方より始め  
て次第に遠き地方に及ぶべし然るべきであらう。即ち地理  
科に於ては斯の如き便宜があるけれども愈々其の學習が進ん  
で外國地理を學習するときになると問題が起つて来る。外國  
地理の教授はいふ迄もなく本邦の地理を學習し終つてからつ  
まり本邦國勢の概要を領得してから學習してこそ始めて其の  
意義があるのであるのに前述せる如く異學年に同教材と果す  
と此の種の難問題に逢着するのである。此の間の事情をまな  
ほ顧慮せず敢てなすといふ事はどうしても本科教授上忠實な  
方法とは首肯されない。之が最も露骨に表現されるのは彼の  
高等科一二年複式學級の地理科教授である。(甚だしきに至つ  
ては其の年度の教授關係上尋五六複式學年に六年の教科をと  
教授し居る所さへ稀にあるのである。)之は地方の經濟的及び  
其の他の事情に據つて高等科一二年學年といふ學年は兎角複式  
に編制される。此の場合に於ける不自然なる學習状態は前述  
の通りである。此の學級の擔任は所謂高學年の擔任として教  
材研究等に忙殺されからこんな組織を探るも止むを得ないで  
あらうが兒童からいふと迷惑至極である。

2、自學自習の精神に基づいて本科の學習態度が建設され



る児童の自治心を養成する事が出来るとか、各児童個別的な實力が養はれるとかいふ事は是れは一般に複式教授の效として認められる點である。即ち教師は兩學年を同時に直接的に教授する事が出来ないから教材の加減によつて交互に教授する方法を採るを以つて何れか一方には自働的作業を課して自己活動を促進することになる。児童は他人の干渉を受けず他の力に依頼することなく或程度まで自分で學習すべく餘儀なく指向けられるから遂には多少なりとも獨立の學習觀が培養される結果ともなる。勿論自習する際には隣人又は同級生と學習上多少言語と交換する事は必要な事であるからこんな事は相當に行はれる。児童は飽くまで地圖をとじて教科書と相俟つて學習するから勢い彼等の慾求を満足さすべく程度に適つた參考書又は相當精密な地圖、中等學校の教科書繪葉書等を持參して來て各自學習の參考にして居た児童もあつた。

3、地理上の實習をなさしめる機會が僅かながらあつた。之も前頁の問題に關連した事で此の種の實習はやがて児童の實力と養ふ上に與へて力ある事と思ふ。地理科教授上に實習の必要であつて、之をなすことは本科の内容を鮮明させるものであるといふ事は誰しもいふ事であるが、之が實際教授上どの程度まで實現されるか甚だ疑問だと思ふ。それで之が思

ふ様に出来ない最大の理由として「時間の不足」であることをあける。勿論小學校の地理教授上教授時間に餘裕のない事は事實であるが之をなすことが本科の本質上然るべきことだとすれば茲に曲りなりにも児童に課すべきものであると思ふ所が異學年に於ける同教科異教材の教授に於てはどうしても何れかの一方には自働作業を課さねばならないので偶然にも此の種の作業が僅かながら出来たのである。併し産業分布圖種々な形式に於ける統計圖表の作製、其の他の數量による地理的實習等は出来なかつたが、描圖として或地方の全體圖、地勢を主としたもの、交通を明示した交通圖、港市等の部分據大圖等であつたが其の他児童が隨時質問を起して距離面積の測量法及概測もあつた。之が爲めに児童の實力を云爲するまでには至らなかつたかもしれないが事實教授作業の分配上之をやらざるを得なかつたのである。然し地理的實習が如何に必要だからとて勞力に對して價値の少いことに迄實習させる事は考へ物であらうと思はれる。

4、問答法で教授を終始した事もある。

大抵の場合、自働作業をなさしむる學年には其の日に學習すべき教材をば地圖を描かせて地圖中心に調べさせた。地圖本位に自習することの出来ない教材では地理帳に下調べした

要項を摘書させた。(此の要項を摘書させるといふ事は児童には大なる難事であつた)かうした結果を教師は全く児童に發表させる。そして教師は誤謬を止すか補説する位にして「それから」と児童に發表させ其の間児童相互間の質疑應答をれもなさしめた。

以上述べた所のものは何も異學年同教科異教材教授に於てのみ其の本領を發揮されるものではなく、寧ろ其の大部分は單式教授に於てこそ一層眞價が發揮されるべきであるが、單式學級に於てはや、もすれば教師本位教授に陥り大切なる児童の活動を妨ぐることを無自覺の中に犯して居る事が多くある。然るに次に述ぶる事は私の經驗上最も困迷した事項中主要なるものである。然も之が救済に適當なる案が發覺れなかつたといふ事は事實であつた。

1、教材の進度が常に遅れ勝ちである。

其の日豫定した教材が豫定通りの進行を見るといふ事は先づ珍らしい。それは豫定する教材が多いからだと思はればそれまでの事であるが少くとも教科書に與へられたる材料を一定の教授時數にて授けるとして適當に按配した豫定材料が進行しないのだから如何ともする事が出来ない。稀に豫定通りの進行を見たのは何れも滑走的に教授をなした時である。こん

な譯てるあから常に教材が遅れ勝ちである。然らば何故に遅れるのであるかといふ事を自省し研究せねばならない。之が私の取扱上最たる問題である。然し不幸にして之が解決の材料は未だに捉へられないのである。然し一般的に思考して若し假に一時間の教授時間を平等分割するものとすれば半時間になるのであるから、豫定の進行を見ざるも當然のやうであるが、私は全然さうは考へたくないものである。之れには教授上の大缺陷があること、内省するのである。多くの場合に於て何れか一方の児童は二十何分かは教材について或程度まで下調べをして居るのだからそれをうまく整理して補説して行けばよい時もあるのにそうはなくて、教師本位に講演式の教授に陥つた事もあるし、或は一方の學年にのみ直接教授して一方の學年は全く留守になつてしまつたといふ事もある。但し一方の學年にのみ直接教授をなして終るといふ事は時に教材の配合上あつて然るべきこと、は思つて居る。

2、補説したとき取扱ひが思ふやうに行かない。

之は前項に關連する事項である。即ち教授の進行を願慮することから來る問題である。此の教材は是非此の程度にまで説示したと思つても時間の過ぐるを思つて痒い所まで手をとゝかさず濟まして終ふ。小學校に於ける地理教育上最も力を



入れたとき人間の施設經營の方面、即ち人間が此の地球寧ろ自然を吾人の棲息所として如何に征服し利用しつゝあるか、又反對に人間は如何に自然に支配せられて居るかといふ所謂地人關係の考察、地理的理法の發見、或は生活の地理學といふ事が悲しいかな複式編制の教授に於て實施するだけの餘力を見出すことが出来なかつたのである。後からと追ひ立てられる様な氣がして造化の神に謀反して陸地を開墾する運河によつて交通系は一新させる人間の仕事も、人工の灌漑によりて荒蕪たる砂漠に農作物を産出せしむる人間の偉力も十分に附説されなかつたのである。

三

## 地理教授に就いて

東礪波郡平區域研究會

下梨校 片岡長三郎

茲に述べようとする所は小學校の地理教育に對する私の信念である。根本精神である。夫は日々の教授を生氣あらしむ

るところの力であり、又其の正しき方向を示す指針であつて本科教育の任にたづさはる者の第一の問題であらねばならぬ

と信するが故に平素の所見を述べて御批正を仰がうとした次第である。

### 地理教育の本質

私は地理學を一箇の文化科學と見、地理科を一箇の人生科と見る。地理學は物と物、物と人、人と人との關係を研究の對象とするのであるが、かの地理物理學の如く、自然を自然として説明する自然科學とは異なる。又地理學は人文を相手にしてゐるが、歴史社會學の如く自然を外にして人文を取扱ふのではない。

私共の小學校地理教育は、所謂應用地理學で地理學的教育的價値を、國民教育に取入れたもので、地人の關係を辿るのが根本問題である。即ち幾萬年の歴史を有する吾々人類が、此の廣い地球乃至國土の上に生活するに當つて、常に偉大な自然力（即ち有利な條件及不利な條件）に支配されつゝ、漸次自然を理解し、順應し、征服し、以て之に親しみ、各國の自然的人爲的區域に應じて如何に人類の文化を創造したか、又現に如何なる文化生活を營みつゝ、あるかを究明する。そして結局大自然と人生、地球と人類、國土と國民との間に結合されてある機微な相關々係……所謂地理的因果の理法を理解させなければならぬ。

二〇六

以上は私の一年に於ける狭く然も淺い經驗より得たる材料に過ぎないので兒童を活動させたとか、効果が怎うだとかいふべき結果は持たないにしても最初に述べたやうに尋常五年の複式學級に地理といふ學科に初めて出會つた五年の生徒に六年用の地理の教科書で教授する豫備や、高一高二の複式學級に於て外國地理も正當に學習せざる兒童に補習地理を課するが如き方法よりは、教師よりすれば、九分通りの思ふやうにならない失敗の授業があつたにしても、兒童としては兒童相當の活動した事だけと認める事が出来れば其の學習態度だけでも學習上の眞生命に第一步を踏みつけたものだと思ふのである。

□地理的に物を見るには、在るといふことを知つたのでは未だ足りない。元來教育の効果は顯現は將來に屬する。在るといふ事實はやがて變動するかも知れない。否、變ずると見なければならぬ。個々の事實はよし變つても亦忘れても止むを得ない。只個々の事實より引出された地理的判斷の眼識が養ひ得ればそれでよい。何となればその眼識は兒童の發達に伴つて益々伸展して、學校で教へられないものに對しても地理的に正當に判斷を下し得る様になるからである。斯くて創造的、獨斷的な態度が體得された上に、各地各國の文化の個性を認識することが出来れば、やがて先人の功績の大なるに感謝しつゝ、尙もこれに満足せず更によりよく生きようとする努力となるのであらう。

□そして吾等は常に連續的發達の過程にあることを自覺せしめ、進んでは國民及び人類文化の創造に參與して之を向上させなければならぬといふ念願を抱かしむるを以て竟極の目的とする。

### 地理科教則の解釋

教則を分解して見ると

- (一)地球表面に關する知識の一斑を得しむること
- (二)人類生活の状態に關する知識の一斑を得しむること

二〇七



(三) 本邦國勢の大意を理解せしむること  
 (四) 愛國心養成に資すること

以上の四項に分つがこれは各獨立して意味をなすのではなくて、地理學の視點が文化である以上、地球の表面をなす自然は文化との關係に意味をなすものと考へる。又本邦國勢の大意とある國勢の意味は廣汎であるが自然に對する加工によつて成つたあらゆる文化は勿論、未だ開拓利用されない自然も其の中に包含される。而して本邦國勢の大意と廣く地球の表面人類生活の状態に關する一般を領得せしめることは聽て本邦の地理的個性を明にする所以である。

個性は全體としてのそれ自然の特徴と、それと他との異同を明かにすることによつて知られる。又兼ねて愛國心の養成に資するとあるは主目的に伴ふ副産物の收穫を豫想してあるもので、地理的材料の道德化を要求してゐるのではない。本邦國勢の大意を理解させて日本の長所と短所とが眞に理解の立場でふり返つて國家を見れば即ち同情心となり、愛國心となるもので國民精神も自ら涵養されることになる。眞向から愛國心や國民精神を振翳すのは下手な方法と云はざるを得ない。況んや排他的な偏狹な愛國心、敵愾心をそゝる様な扱ひは慎まなければならぬ。吾々は日本人であるといふ眞の誇

と自覺のもとに自然に湧出した感情であつてほしい。最近國民精神教育上地理科が必須であることは、現代に於いて切實に要望されてゐる國際知識の養成、本邦國勢の世界的地位の理解、經濟的思想の涵養と國民生活の向上並びに民族發展の鼓舞等國家が本科に要求する所、至大なるを感ずるのである。由來修身の公民科は國民精神や愛國心の養成をねらつてゐるが決して、これが十分のものでない。むしろ是等國家的精神の涵養については、各科を統合し、整理する所に生命を認めたい。此の意味に於いて地理科が修身教授や國史教授になることなくあくまで地理本來の面目を立て當然要望せらるべきものを教授しなくてはならない。

#### 眞の理法的考察

地理教授に於て地人の相關々係を「かうであるからかうだ」と總てを理法的に記述することは不可である。吾々實際家は之を理法的に取扱ふことに依つて教科書が活用されるのである。然らば如何にすれば理法的に考察させ得るか。從來理法と稱せられたるもの、中に眞に理法としての價値のないものが少くない。たとへば「平野には農業發達す」「川の沿岸には都會あり」と云つた。果して平野には農業が必ず發達し川の沿岸には必ず都會が發達するものであらうか……否々何とな

れば農業の發達しない平野があり、沿岸に都會の發達しない河川が可なり多くあるからである。之はあまり理法を簡單に考へすぎた。それは全く理法でなくて公理である。かの獨逸平野は氷河の跡で砂利小石の土地であり、サハラ沙漠の地味は相等によいが水量がない。アマゾン河の流域は水量過多、三方ヶ原は砂利と石灰岩で被はれてゐるので、水を蓄ないので何れも農業に通じない。従つて農業は發達しない。然らば眞に理法的に考察せしむるにはどうするか。實際に於て農業は必ずしも平野なるを要しない。成る程米作なら平坦なる土地を要するが茶作は地形の斜面なるを要し、イチゴ作は階級的斜面を要する。従つて地形は農業發達の必要條件ではなくて、地味、溫度、濕度等が有利な條件を具備することを要する。總て物の關係を考察することは嚴密に云へば複雑で神秘で容易に斷定出来るものではない。さればこの理は移し以つて、日常生活に直ちに適用しなければならぬ。即ち結論に急いではないといふことである。故に地理教授に於て地勢を教へ、地勢から産業を推究させ何か必然的な結論であるかの様に産業へ結んで行くやり方を排して詳細に各方面に亘つて聯關的考究することが大切である。

#### 文化の個性究明

地理科は各地各國の自然と人文との關係を説明し、そこに實現されてゐる文化の個性を究明せんとするものであるといふ。然らば如何にすれば文化の個性を究明し得らる、かを研究せねばならぬ。例を印度に取る。教科書には「ガンジス・インダス兩河の流域に屬する印度平野は地味肥沃にして農産物を産すること多く、隨つて都邑も交通も發達し古來印度の最も重要な部分をなせり。中にも英吉利人最も勢力を得て遂にその政權を握り」とある。之を雨量がいくら産額がいくらと具體化した所でこれだけでは文化の個性にはならない。地味が肥沃で農産物の多い英領は單に印度ばかりではないからである。印度でなければならぬものを印度の自然と人文が具有する獨自性とは果して何であるか。私は獨自性を顯在的・潜在的の二方面から見る。そして顯在的獨自性といふべき英國の寶庫たる印度の濼瀾たる現況を立體的に兒童の前に先づ展開してやらねばならない。次に潜在的獨自性として數項を挙げれば

一、印度の産業は農牧が九割を占めてゐるが、洪水があれば家を流す。もし雨がなければ鐵が焼けた様に極熱である。そこに餓鬼道といふ焦熱地極が見舞ふ。この災害を何ともすることが出来ない。



二、英國は印度に文化的施設をした。電燈もつき交通も盛になつた。印度の産業は發展した。然し鐵道も電燈も皆英人のためであつて印度人のためでない。何故なれば印度からとれる利得は皆英人の懐に入るからである。

三、英國は随分自然と戦つてゐる。随分救済の道を盡してゐる。兩河の上流には一個三百圓もかゝる井戸が二百萬も掘られた。そして人工灌溉に成功して平野の三分の一は井戸水を使ふ様になつた。之を英人は印度の産業革命と云つてゐる。

四、然し印度人は不平だ。英國から獨立したいと希つてゐる。その動機はいろ／＼あるが、印度は英國の殖民地として原料産地であることは其の最もなるものである。然し印度の獨立は世界の識者の理解と同情とを得なければ到底其の目的を達し得るものではない。

五、印度人は尙いふ。旱魃と洪水とをなくしてくれと。

六、印度の階級制度が遂に國民を墮落せしめ亡國の悲調を見るに至らしめた大きい誘因である。

少くとも以上の事項は印度の本質を闡明するに缺くべからざるものであらう。殊に印度の氣候について教科書には説明がないからましてある。斯くの如く其の地方特有の個性、

その國家固有の特徴を明かにすることに依つて始めて地理的事象の真相なり、諸國家の正體なりを捉へて行くことが出来る。何となれば其の地方、其の國家が持つ個性とか特徴とかは、其の地方國土の具有する自然力（有利と不利との兩自然的條件）と人間力との相乗積であつて偶然的のものでない。依つて來る處の根強い本質が存在してゐるからである。

#### 地理教授

自然界及び人生の諸現象を斷片的に教授し之を記憶させて物識を作つてゐた過去の記載的地理に於ては「例へばヒマラヤ山脈がある。印度平野には雨が多い。」と教へるが、何故雨量が多いかと追究しない。況んや其處にどうして文化が發達したかを理解させない。單なる一事象一事物を斷片的に眺めて全體に流動する生命を把束しない。私共の地理教授は推理と批判、比較と對象相互の關係を重視する。而して恰も健康體の如く、切れば鮮血の迸る様に生々活氣に満ちて如何なる突端にも生命の動がなければならぬ。従つて其の取扱は平面的分解的斷片的に觀察することを排して立體的結合的連續的に考察し、現在より過去將來に躍動する不變の原理を洞察することに努め、兒童の生活と本科とが相即して無限に伸展する重點を深く見つけて行くところに地理科教授の使命を全

うし得るものである。

## 地理教授に於ける兒童描圖の價值

### 東礪波郡般若區域研究會

中田 校 金 岡 正 三

地理教授に於ける描圖そのものは何も學習の目的とする所ではない。併し乍ら地理教授を最も有意義に最も有價值に遂行しようとするならば、其の爲の方便として、また色々な方法が案出されなければならない。地理科に於ける描圖作業も亦其の方便の一として考ふることが出来るであらう。

併し乍ら實際教授に於て兒童に描圖せしむる事の可否については、尙色々の異論を唱へる人もあるやうである。また描圖せしめることその事については、之を可なりとして大いに賛意を表はしてゐる人々に於ても、其の深淺に於て、即ち作業として課する精粗の程度に於ては、又人々によつて多少の相違點のあることも事實である。

描圖そのものが地理教授の目的でない以上、また斯うした

異見の生ずることも、やむを得ざる事柄である。私は描圖の有價值なる事を認めて實際に、それを行つてゐる一人であるが、併し固より之を以て、地理教授の絕對唯一なる方法なりと極論するものではない。即ち彼の作業主義に偏した人々の如く、描圖せしむる事によつて地理教授の大半の仕事を終らせたものとして、それに安んぜようとはするものではない。只私は其の教育的價值を認めるが爲に之を遂行してゐるまでである。そして異論者の言ふが如き缺點は、私の思潮する程度の作業に於ては、認め得ないまで、ある。又よし多少のさうした缺點があつたとしても、之を課することによつて受くるところの効果を、より大きいものとして考ふる爲である。次に一、二、異論者の主張する要點を掲げて卑見を加へて見



る。  
○ 異論者はいふ第一に餘りに多くの時間と努力を要すると言ふことである。

即ち教授時數僅か二時間しかない現在の時間割では、到底一々兒童に描圖等やらせる餘裕がない。強いて此の時間内に、描圖せしめやうとすれば、勢ひ教科書そのまゝを講義的に説明して後は描圖に時間を取ることになるから、却つて其の爲めに地理科の質的取扱ひを忘れられる結果となり一般的に見て、本末を轉倒した面白からざる現象を招來する所以ともなる。又之を正課の時間以外に於て課すること、なれば、徒らに兒童に過重なる負擔を與ふることになるからして、何れにしても面白くない。

凡そ之も程度の問題であるが、必ずしも其の弊にす情ると云ふ事は言へないと思ふ。私は現在の時間數に於ても全然兒童に、描圖せしむる、時間がないとは思はない。そして必要に應じて私は或る場合には、時間中と雖も之を課しつゝ、ある尤も描圖といつても、私の所謂描圖と言ふのは即ち最も簡単な畧圖の謂である。

地圖を系統的に嚴密なる意味に於て製圖せしめることは、

やるものである。又兒童が所持してゐる附圖には表はれて居るが、實際と相違する場合とか、或ひは教師が説明しようとする事が附圖に表はれてゐないと云ふ場合には、教師は畧圖を描きながら説明し、説明し終つた後には、其の畧圖を書かせる親切さがある。例へば、今日の兒童用附圖は、さう綿密なものではないから、上海の市街も揚子江の河半にあるものやうに表はれてゐる。香港が支那の大陸に續いて居るもの様に描いてあり、シンガポールも、馬來半島と陸続きであるやうに書いてある。併し事實はさうでないのであるから、教師は實際は、かう云ふ位置にあるのである。随つて汽船はかういふ通路を経て此處に出入するのであると説きながら、畧圖を示して、之を書きとらせるだけの親切がいるだらう。又教師が説明しようとする事が附圖に表はれてゐない場合もある。伏木を紹介する場合に「富山灣の良港である伏木は米を積出すことと少くない」だけ位の説明ならば附圖を讀ませるだけで、用は足る。併し、以前船着きの不便であつた伏木港も、築港の御蔭で汽船が、庄川河口の川岸に横附けになるやうになり、米の積込みなども大層便利になつたことを説き尙折角手を入れた港が淺くなるのを防ぐ爲めに本流を新湊を経て富山灣に導く爲めの新水路を設けたこと、及び高岡と

普通の小學校に於ては到底なし得ない事柄であるから、即ち兒童に描かしむべき畧圖は所謂専門家の夫れの如く海岸線の小屈曲等に至るまで綿密なる注意を以て描かしめねばならぬことはない。只其の大綱を失せざる程度に於て、最も簡單にして、迅速に描かしめねばならぬ。

現在は教授用地圖も兒童附圖も出來てゐるから、兒童に充分なる讀圖力が附與されてある場合は、割合に其の必要も少くなるわけであるが併し、兒童は目によつて、既成の地圖を讀解しし學習し、耳によつて教師又は、學友の話をきいて學習しただけでは、心中によくわかつてゐるやうであつても存外漠然たるものである。それを筋肉運動に訴へ學習させると兒童は全自己の活動をして、非常に興味をもつて學習し作業的に體驗的に明瞭確實なる學習を、させることが出来る。

異論者は兒童は描圖の爲にあまりに多くの時間と努力とを消費せられ、其の負擔の過重に失するが爲に、却つて地理科に對する興味を減殺され學究的の興味を失はしむるかの如く説くのであるが、之は一に、其の方法の如何によることで簡單に其の要點だけを描圖せしめて行くならば、寧ろ兒童は、ヘルバルトの所謂六種興味としての、つまり學究的興味を誘發され、思はざる効果を收め得るに、至るであらうことを信

の水運の便利を圖る爲の高伏運河の説明をすれば、現在の附圖のみで、説くことが出来ない。やはり描圖が必要になつて來る。

○ 其の他、多くの場合は一府縣、或は一地方の都邑とか、産物とか、或は交通線發達の狀態等について描かしめ、或は、各地の位置、輪廓、又は土地の高低、海底の深淺、山川の有様等を、描かしめる場合が多いが、之等は既授の仕事に對する、復習整理の意味でなさせる場合が多い。随つて授業の後、直ちに斯うした仕事を課すことが有効であらうが併し、從來の經驗では、殊に豫定した以外の時間に於ては、大抵の場合、こゝまで行くことが出来ない。併して之等の作業が、多くの場合前記の如き復習整理の意味を有するのであるからして、之等は家庭課業として兒童の自由に殘して置いてよいのである。

○ 異論者は更に、彼等兒童には、到底正確なる地圖は描けない。随つて其の不正確なる地圖を描くことによつて、却つて兒童は誤つた地理觀念を植えつけられることになる。しかし、要は指導である。兒童の描く地圖が、どれ位までの不正確さを以て描かれてゐるかと言ふことである。餘りに正確と



かけ離れた即ち、京都が琵琶湖の湖畔に描かれてゐるとか、横濱が相模灣の方になつてゐると言つたやうな、畧圖であるならば、それこそ論者の如く許すべからざる事柄であるが、而し、児童發達の程度に應じし、比較的正確に近きものを描かせる方法もあるのである。而して又描かせるものが、畧圖である以上さう綿密に描かせるの要はない。多くの時間と多くの努力云々の問題は、斯つた描圖に對する餘りに嚴に過ぎた要求をなす所に生ずるものである。

畧圖はその描かしの要點をさへ逸せないならば、なるべく簡單に平易にそして努力を省き、時間を減じて描き得るやうに指導せねばならぬ。

又児童の描ける不正確な地圖によつて、不正確なる地理的觀念を與へられることを、恐れる人は、餘りに児童と他人になりすぎてゐる。児童の描いたものを児童にまかせきつてしまつて一度も目を注いでやらないならば兎も角、一通り目を注いで見るならば、児童のあやまりは、直ちに氣がつく筈である。

○ 描圖せしめることそれ自身の教育的價值が頗る微弱なものであるならば、さうした手数を、敢へてしてまでも、児童に

る習慣を養成して行くことは、地理學習として最も價值あることである。

○ 真相の理解を驗するため。

前の二項は、主として受領方面から、ながめたものであるが、に述べるのは發表方面からである。地理は學習したことを言語によつて發表しただけでは、まだ本當の知識でない。自分の腦裡に其の地方の有様が、ありありと描かれて居らねばならぬ。これを驗するには言語發表の外地圖を描かして見ることが必要である。

凡そ受領と發表とは相より相まつて其の効果を甚大にするものであるが、描圖はこの二つを共にとり入れることが出来る。

○ 觀察を精密にし併せて地圖の讀解力を増すこと。

既成地圖であると、一見してよくわかつて居るやうにあるが、自分で描いて見るとなかく、出來ない。従つて地圖を描かうとすると、餘程觀察を精密にして、既成の地圖を讀んでおかねばならぬ。

○ 若し之を怠つてゐると地理で大切な位置等が不明瞭となつ

描圖せしめる要はないことである。で私は地理教授の方便として、此の描圖作業を必要とする立場から、その教育的價值と思惟する點を、述べて見ることにする。

○

作業的體験的に明瞭確實な學習をさせること。

前にも述べた如く、既成の地圖を讀解して學習し、教師の話をして學習しただけではよくわかつてゐるやうであるが、存外漠然たるものである。それを筋肉運動に訴へて作業的に學習させるのであるから、児童は全自己の活動をして非常な興味をもつて學習し眞に自分のものとしての學習が出来る。従つて描圖をさせることは、児童の自己活動を促進し體験を通した印象の深い學習をさせることになる。

○

地理を地圖に疊みこんで學習する習慣を養ふこと。

地理學習に於て地圖を離れて事實のみを學習しても効果が少い。又ノートに地圖以外のことを澤山記載しても、それが地圖と結びつけられないで居る時には役に立たない。それで、地理はどうして地圖の中に要點を疊みこんでおかなければならぬ。描圖によつて其の中に學習事項の要點を疊みこまれるだけ疊みこんで行くことは最も賢明な地理學習であつてか、

てしまふ。之によつて大いに觀察を精密にし、同時に地圖の讀解力を増すことが出来る。

○

児童の自發學習を進めること。

教師が既成の地圖によつて説明し或は、地圖を描きながら説話するだけであると、児童は聽聞者の位置にあつて、受動的である。ところが、自分が手を下して、描くことになると、自己活動自發活動が盛んで、自發的の學習が出来る。

○ 描圖による地理學習は獨り學校に於いて自發的の學習をするばかりでなく、家庭に於て豫習復習をする時にも、自分で地圖を描いて見るといふ自發的學習が出来ることになる。

○

實生活上役たせること。

地圖を描く能力が養成されて居ると、地理研究上からは勿論のこと、實生活上にも非常に便利である。遠足や旅行をする時に、其のことにつき必要な地圖を豫め描くことが出来る、又其の道々で觀察したことが、一寸地圖にあらはし、遠足旅行先の様子を地圖に描いてみることは、いろ／＼の點から見て有效なものである。



以上簡単に描圖作業の教育的價值と思惟される點を述べたのである。尙幾多の事柄があるであらう。併し乍ら、其の事は、最早や描圖の必要なる條件として役立つだけであつて描圖の必要を全々否定する何物でもないと思ふ。

大ならしめんが爲であつて、描くことそれ自身を教へんが爲めではないのであるから、餘りに完全を期して美麗にそして精密に描くことを要求する必要はないのである。相當に正確にそして簡単に迅速に描くやう指導すべきである。

## 兒童生活指導としての産業教育の重視

西礪波郡石動區域研究会

若林 稔 早 苗 孝 平

小學校に於ける地理科は謂はゞ地理眼を啓培し、國民生活の理解と指導等に與へ、愛國心を陶冶することが目的である。故に人類が地球をば生活の活動舞臺として、各國各地方に行ひつゝ、ある人文的材料を尊重して、各國各人が自然を利用し、或は自然に順應して享ける國民幸福の増進を圖らねばならぬ。

されば地理學と小學校に於ける教科としての地理は固より、其の内容の範圍と其の程度とを異にするもので、従つて

その任務に多少の相違を生ずるわけである。然し地球をば人類生活の舞臺として自然と人文との關係を考察し、人類文化の向上促進を圖るといふ點に於ては、本質的に何等の相違も矛盾もないわけである。素より小學校の地理は應用地理とも稱すべきで、地理學の教育的價值を國民教育に取入れたもので、地理學の全部でないのは云ふまでもない。

兒童生活指導としての産業教育

地理科はその内容より觀て兒童の日常生活を實際に指導し

得る資料と機會とに富んでゐる。地球及び天體との關係・天文に關する事實及び地球の表面に於ける地文・氣象・生物に關する諸事象は、常識的教材として吾人の宜しと知りおくべきものであるが、更に人類の生活舞臺としての地球表面の各地に散在して、或は自然の理法に支配され、或は順應して各適當なる生活を營み、特殊の文化を創造し、今や世界各國は政治的にも、經濟的にも相倚り、相助けて國際的に影響を與へないものはない。

次に本邦國勢、文化の程度、地位を知らせ、産業、交通、重要な都會等の自然的、人文的狀態を授け世界の諸國に比して本邦國勢の概要を理解せしめるのは國民の日常生活に必要な知識を與へ、公民として必須なる公民的知識或は社會的識見を附與するものである。故に今日やかましく云ふ生活指導の教育こそ、地理科に於て最も適切に出来るものであると考へらる。

よく世間では小學校の地理は人文地理が主で、自然地理が従であるといつてゐる。人文地理が主であるといふことは異論はない。然し徒に旅行案内的遊覽保養的な人文地理に終つてはならない。人類が地球を生活舞臺として營む眞の生活に觸れなければならぬ。人文地理を極めて狹義に解釋して、

人類の衣食住に對する諸種の風習、各地の名所・古蹟・各國の政治・交通・國境等自然と絶縁した人類活動の諸現象を意味する人文地理には贅意を表し難い。さればとて自然地理に偏せよといふのでもない。人類の生活は自然即ち陸界・水界・氣界とは密接不離の關係を有してゐるもので、吾人の生活は自然を最もよく利用し、順應することによつて、生産力を増し繁榮を續けることが出来るものであつて、自然と人文との關係があつてこそ眞の人文的現象を表はすものがある。故に小學校の地理科は自然のみを取扱ふべきにあらず。又人文のみに偏すべきものでもない、兩者の有機的關係を洞察して、其の土地に於ける人類生活の真相を究めるにあるけれども、自然人文の何れに主を置くべきかと輕重を問ふべきものにはあらず、然しながら教科としては、人文方面に材料を多くし人類の自然界に對する施設經營とも稱すべきものには特に注意したい。人類の施設經營と云ふものは、人類生活と經濟を離れて營むものにはあらず。總て自然を人爲化するも、順應し亦支配を受け是を理用するも總て經濟的生存上の爲ならん。

産業教育の重視

故に地理學上産業教育は、時勢上最も重要な位置を占めて居る。素より國民生活の内容は經濟的活動ばかりでは勿



論ない。其の反面文化的活動・政治的活動の存在と其の價値とを認めなければならぬが、經濟的方面に顯著な發達を遂げた現世界に適應してその地點を獲得して行くにはどうして國民を擧げて經濟的活動に着目し、物質的にも、精神的にも能率の増進を圖つて、飽くまで經濟的活力を送らなければならぬ。然らば自己は愚か、一家の安危も國力の發展をも全うすることは出来ないのである。

さて個人の家の經濟は、直接其の人々の勤勞如何に關することが多く、國家の財源の其の地に於ける産業の振不振、即ち生産の多少に直接關係する所が多い。而して生産業の振否、生産品の多少精粗は、結局、國民生活の安定、國家の富力の充實如何に直接關係する。故に一般國民が生産的活動に誠意努力する事がなければ、國家の財源たる生産業の發展は到底望む事が出来ない。それが爲には各國各地の産業、産物、又は需要供給等の關係を明にして、國家の産業狀態を會得せしめねばならぬ。これ現時國家社會に於ける要求でもあるし、又有爲有能の國民たるべきもの、缺くべからざる修養であると思ふ。これ地理教授と經濟中心の教授が重視される所以である。

現に日本が經濟國難に直面して其の取るべき道を考究し極

とが肝要である。然るに産業教授は其の内容からして、是等庶物について取扱ふ機會が比較的多い。然るに従來、産業教授は單に一般産業、産物の意味に止まつて、日常生活に身近な世間的知識を附與することが少なかつた。實に非實際的の教授に止まつて居る様な感じがする。

要するに産業教授に於ては先づ人間は實際生活の上に自然より如何なる直接影響を受け、如何に自然を利用しつゝ、生活して居るか云ふことを特に理解せしめねばならぬと共に、この日常生活に必要な産業・産物が國際的に如何なる關係をにありて、それ等の經濟が如何に進展して來て居るか、又進展しつゝ、あるか、かくなければならぬと——前述に於ても屢々繰返して來た様だが、地理教授に於て産業に關する知識は經濟思想中主要なる地位を占めて居るものである。加之産業教授は本來の性質として、經濟思想の涵養に最も適切な機會と資料とに富んで居る。故に今更繰返すまでもなく經濟思想の涵養を主眼として取扱はねばならぬ。

以上本質的に論述しそれは當然要述されて來る物で、該教授上是等の諸點を貫徹することによつて、大體其の使命を究うすることが出来る。

教授上次ぎの様なる教材は、之を重要視しなければならぬ。

に達してゐる。此の際にあたり本科の指命は重且大なるものがある。素より國民教育に於て他教科にも其の經濟思想を涵養すべき教科はあるけれども、直接最も具體的に實際的に、而も具案的に經濟的知識の主要を理解せしめ得るものは本教科である。取分け産業教授は最も適切なる資料と機會とを有して居る。

斯如く人類の生活は産業、生産の影響を蒙ることが大であり、又産業の發達、産物の種類等は、主として自然の勢力に支配されて居る。即ち産業・産物の如何は地勢・氣候・風土・天産物の分布によつて其の發達の制限を受け、其の種類を異にするものである。同時に人類の生活は衣食住の資料如何によつて日常生活・國民生活が左右されて居る。固より人智の進歩につれ人間の努力・創意は或る程度までは自然を征服して産業狀態を變更し、自然力を活用して居るけれども、多くの場合人類生活は直接間接に自然の支配を受けて居る。殊に産物を吾人は通して多大な影響を蒙つて居るのである故に、産業教授に於ては先づ産業、産物と自然との關係を訪ね、更に産業、産物と人生との直接關係を吟味することが肝要である。

又吾々は日常生活に於て多くの衣食住に要する庶物に接近して居る。是等身邊の庶物について、それ／＼理解を與へるこ

- 1、國家並に國民生活に重要な産業
- 2、郷土並に日常生活に密接なる産業
- 3、輸出品と關係深い經濟産業
- 4、將來有望なる産業
- 5、増收され得る産業
- 6、特に人間の努力の結果勃興した産業
- 7、特に豊富な産物と不足な産物
- 8、新計劃の産業と將來有望な事業

國家的産業と單なる地方的産業とを同一視し、我が國に豊富な産物と不足な産物とを差別なく取扱ひ、又經濟に直接關係あるものと間接なるものとの區別を明瞭に意識しなかつたり、徒に産業を列擧し、物珍しく名物を羅列し、而も無味乾燥な數量を提出して萬事終れりとせんか、それでは眞の教育は出來難い。何んの爲に産業を吟味し、此の産物を説明し居るか、その根底を明に自覺し、等しく經濟思想を養成し、經濟活動の必要を鼓吹し、日常生活指導するにしても、その提出する資料蒐集の方面、並に取扱ふ教材の性質を吟味することが極めて肝要である。

吾人は宜しく現時に於ける經濟生活の推移、産業發達の傾向並に經濟的活動の狀況に顧み、價値ある教材を精選し、主



眼に着目して取扱はなければならぬと考へる。もとより教科書の教材は容喙の餘地がない様であるが、然し以上の立場より前述の如く重視する教材を精選箇條書にしたわけである。

次に取扱上の主なる着眼を簡単に示して見たいと思ふ。

- 1、産業地及び産地の位置、範圍を明瞭に扱ふ事。
- 2、生産の大小、産額の多少産業地の區域の廣狹、産物の性質、並に需要供給の關係に照して具體的に取扱ふ事。
- 3、産業の勃興及び産物産出の原因を訪ぬん、其の歴史的發展を明にして現代の産業状態を知らしめねばならぬ。
- 4、製産品の特徴と其の用途を直觀的、實際的に知らしめる事。
- 5、製造品の販路を明示し、特に海外との關係を知らしめる。
- 6、最近に於ける産業界の變動、國民經濟生活の狀況並に貿易政策の概要を知らしめ、進んで經濟的發展の緊要なることを自覺せしめねばならぬ。

かやうな諸點は取扱上最も大切な事にて、各國が競ふて經濟的發展に努めて居る事實を知らしめ、特に經濟活動を國力の充實及び民族の發展上、一日も欠くべからざるものと感得せしめねばならぬ。

顧るに我が國は國民の所得生産力・國富等に於て、到底比較にならぬ。世界的地位にある。又國民の經濟思想が未だ低級である爲め、世界の市場にて於て、屢々好機會を逸し、經濟的活動に於ては世界の先進國とは云はれない。今後國民の大奮發と馬力の掛くべき方向は經濟的方面に關する努力である。故に産業教授に於ては細心な注意を拂つて國民の經濟思想を高め、着實なる經濟的發展を企圖する志念を培養して行く事が急務であると思ふ。此に於て私は兒童生活指導上地理教育として、産業教育の重視・經濟思想の陶冶を提唱するものである。その實際としてグラフの活用・圖解等の作業を述べたいが紙上の都合之をばはぶく。

## 外國地理教授上考察すべき諸點

### 西礪波郡福岡區域研究會

國吉 校 高 田 喜 直

最近新聞雜誌等に産業之圖、海外移民、不戰條約、經濟國難、國民外交等の論説を掲げて社會人心に大いに反省を促さんとする記事は毎日の様に散見するのであります。

其れと共に吾々日常の生活の上にも精神的に物質的に常に變化を齎しつゝ、あることを如實に知ることが出来るのであります。翻つて兒童を見るに現在起りつゝ、ある或る變動の事象につき質問することも屢々あるので、大いに困り抜くことも一再に止まらないのであります。兒童の耳目でさへ實に驚くばかり擴大されて來た事を誰れもが氣附く所であります。

思ふに社會文化の程度の低くかつた時代ならばいざ知らず、人智の進歩は交通の發達を促し世界の交通は益々頻繁に赴き、經濟關係は益々接近し國際關係は次第に複雑を加へて來た今日、如何なる土地國家の國民と雖も全く民族の文化を度外し、又世界の大勢に無關心なることが出来ない事を見え

出し得るのであります。故に外國地理の教授に際し廣く世界全局を大觀し世界列國との國際關係や世界各民族の活動状態などを考察することによつて、兒童の地理觀をより一層向上せしめ得ると考へます。

以上の見解を徹底せしむるため外國地理教授上考察すべき諸點を左に列記附します。

#### 第七 アジャ洲

- 一、總論 位置と區分、山地と産業、低地と産業、交通。
  - 1、面積人口と獨立國の少きを見て我が帝國の地位想到
  - 2、地理附圖により低地、河流、氣候、産業の種類程度を本邦と比較研究。
  - 3、我國の關係交通路を觀察推究。
- 印は實習事項  
○畧圖記入（山地と低地、山系、水系、産業、交通路）



二、支那 區域、支那本部の農業、工業、鑛業、交通貿易、

滿洲、蒙古、日支關係。

- 1、附圖にて位置、區分調査。
- 2、揚子江と産業、産業と都邑、我が國と揚子江等の關係。

3、青島と我國最近の關係。

4、滿洲と我が國との關係。

5、我が國が將來支那に發展せんとする態度につき考察

6、南滿洲鐵道と東支鐵道につき考察。

7、將來滿洲及外蒙の富源開發に關する所感。

8、古來我が國と支那とは如何なる關係ありしか列記。

○ 支那の畧圖に記入する事項

區分、産物分布、鐵道、都市。

○ 大連より長春に至る哩數と所要時間の概算。

○ 對支貿易一覽表作製。

9、支那民族の持つ長所短所につき附説。

三、シベリヤ 面積、人口、地勢、産業。

1、氣候寒冷なるも將來有望なる産業は何々か。

2、未開の土地多き理由如何。

3、シベリヤ鐵道の價值ある理由考察。

4、日露將來に於ける關係推究。

○ 敦賀浦鹽を經由してシベリヤ鐵道により東京露都間は約何日を要するか。

○ 畧圖を描き主要産物分布の狀、鐵道都邑を記入せしむ。

四、印度

1、ヒマラヤ山脈が印度の氣候と産業とに及ぼす影響につき考察。

2、英國の寶庫たる理由。

3、首府デリーがシジス川上流にある理を考察。

○ 世界棉花の産額表作製。

○ 我が國との貿易關係表作製。

五、東南アジア

1、南京米の産出地及び輸出港考察。

2、南洋と稱する地方と我が國商業交通、軍事上將來益益緊密の度を加へんとする理由。

3、南洋地方の物産表等により國民の海外發展の一地方として考究。

○ 地圖に記入する事項

我が國よりこれ等の諸島に至る航行順を描かしむ。

第八 ヨーロッパ

區域、地勢、産業、交通、貿易、イギリス、フランス、イタリア、ドイツ、ソヴィエツト聯邦、其他、我國との關係。

1、運河、登山鐵道の挿繪等によつて如何に歐洲諸國が天然を利用せるかを我が國と比較考察。

2、産物の世界的なるは何に原因するや。

3、水産業の盛なる理考究。

(北海道の部を追想して)

4、鑛産物と工業、工業と商業、商業と國家經濟の關係をも考究。

5、ヨーロッパの鐵道の密度と我が國と比較考察。

○ 我が國より歐洲各國に至る航路の畧圖。

○ 歐洲各國の領土の比較表作製。

6、日英兩國間の親善と彼我國交及地理上の指導考察。

7、英國の領土が世界に冠たる原因。

8、パリ市の特色。

9、大戰後の現況を附加し、かくなりし原因指導。

10、ロシアの現狀と我國との東方關係。

11、澳洪國の現狀と各分裂せし原因指導。

12、歐洲文明の長所を知らしめ之を探ると雖も心酔の弊に

陥らざる様指導推究。

○ 畧圖に主要事項記入。

○ 左の事項につき考察列記。

我が國の及ぼる諸點。

我が國の勝れたる諸點。

主要列國の氣象と其の長短。

第九 アフリカ洲

1、古代文明(エジプト)が益々發展せずして却つて衰亡したる現狀につき考察。

2、アフリカ分割に留意し且つ歐洲諸國の經營せる領土の經濟價値の考察。

3、スエズ運河の世界に與へられたる利便考察。

4、アフリカの發達せざる原因考究。

○ 畧圖に主要事項記入

○ 本洲に於ける歐洲諸國の各勢力範圍を圖示。

第十 北アメリカ洲

區分地勢、産業、交通、我が國と北米との關係。

1、コロンブスの大陸發見と我が國との歴史的關係。

2、北米合衆國が世界の實業國たる理由考察及工業の發達すべき豫測。



- 3、産業發達と氣候地勢との關係考察。
- 4、交通機關の如何に發達せるかを想像せしめ以て世界に於ける合衆國の地位を考察。

- 5、太平洋岸と大西洋岸との産業交通等の發達狀況推究。
- 6、パナマ運河と交通上軍事上の關係。

○ 畧圖に主要山脈河川を記入し產物分布記入。

○ 北米と我が國との貿易關係圖表作製。

第十一 南アメリカ洲

區分地勢、産業、交通、貿易。

- 1、南米諸國が本邦人の移入を歓迎しつゝあること及び我が移民に好適地なる所以を考察。

- 2、現在の開化程度を知らしめ將來の發展を想像せしむ。

- 3、アマゾン河と人文發達の關係考察。

- 4、畧圖に記入事項

南米航路の圖示及要時日。

第十二 大洋洲

區分、オーストラリア諸島、我南洋諸島。

- 1、我が國民の移住地として大洋洲諸島の適否考察。

- 2、我が南洋諸島が貿易上軍事上の價值考察。

○ 各諸島と航路につき圖上に記入。

第十三 世界と日本

六大洲、三大洋、我が國の地理上の位置。

- 1、地理により六大洲の位置區分を發表。

- 2、歐米諸國が苦心せる發展策につき考察。

- 3、我が國諸外國航路復習。

- 4、我が國體の美、地理上の長所考察。

- 5、世界に於ける我が國勢の地位。

- 6、我が國の發展策と政府の施設。

- 7、國民の覺悟につき推究。

○ 我が國の條約國列記。

○ 強國の貿易富力軍備財政の簡單なる比較表作製。

# 郷土地理教授の一提案

## 富山市研域研究會

五番町校 古川喜一郎

### 一、地人相關の理法探究の必要

「郷土は地理學、學習の練習場である。」とは地理を教へる者の申す所であらう。我等個々の生活は社會的一因子機能であるとするれば、社會生活の底流の一大源泉たる經濟的活動は我等生活上の重要な事象である。この事象は自然が大なる影響を齎してゐることを考察するとき興味が湧き、探究の活動が我等生活に開始される。茲に人文景が開展せられ自然景が存在し地人相互の交渉、交換の作用が行はれる。この機能を探究することが、我等の生活を意味あらしめる必要に迫らる。これが國家生活、社會生活の進展に影響するに相異ないであらう。されば地人相互の關係を眞實に觀察し不知不識の理法が探究されてくる。

### 二、觀察探究の方法觀と郷土地理の使命と其の價值

我等の生活上、種々雑多な有形無形の資料（以下單に資料

とする。）が與へられた結果、にコンデンスされた自然と自然、自然と人文、人文と人文の相關關係の環境意識が生ずるに違ひない。種々雑多な資料とは何であるか。

- 1、地圖類……既成地圖（掛圖類、地圖帳類）、旅行案内地圖、商店ポスター式地圖、産業地圖、氣候圖等の創作的地圖等。

- 2、土地の模型

- 3、活動寫眞……飛行寫眞、地上寫眞

- 4、各種の寫眞……同上

- 5、繪畫類……繪畫書類、古畫其他

- 6、談話……旅行談、或は傳説などの地方話

- 7、文章……風土記、紀行文、日記類

- 8、實地……登山、遠足、郊外教授などによる數學的の測定、史蹟、名勝、天然記念物、居住狀態、生産、販賣狀



況による人文相互の需給消費輸送などの機能を知る。會社等の見學、家庭の消費状況による物品経路の探究等。

9、實驗……地殻運動、氣候等の主として自然現象の類似實驗（川遊び、雪、風などの）

10、作業……氣温、雨量の測定、グラフ作製、各種の實測等。

11、各種の標本類

12、グラフ類……旅行案内（列車運行情報）、各種のグラフ。

13、ポスター……驛々等の名勝、温泉、登山等の案内。

これ等資料が我々生活に密接不離の關係にある。この資料が得易く、感じ易く、考察され易く、結局は我等生活が擴充進展改善されるところに郷土資料の意味があり、郷土地理教授の意味が層一層深まる。されば郷土の理解は愛郷心育成するに充分の價値を見出し得られる。

更に大なる一方の使命は地理學習を一つの築造物の如く假定するならば郷土地理教材は基礎工事である。この地理的基礎工事こそ我等教授者に投げ與へられた大なる使命であらうこの基礎工事とは何であるか。

三、地理的基礎工事と小著編纂の意義

眞摯なる郷土資料研究と軌近地理學の傾向（比較的新しい

科學なる故に）を汲み、兒童の心理的發達に鑑み、適宜に將來大建築をなし得らる、地理的基礎工事こそ郷土地理の妙味のある所である。凡そ各國に特色ある如く、小にして郷土

そのものにも特色がある筈である。この特色こそ地理學を學習する上に於ての眼でなからうか。さてこの重要工事を實際上限られた時間に如何に利用するか。この問題に當面するか、る意味で我等は（富師三井教諭と余）實際教授上の跡を以て經とし、諸種の參考資料をも集め觀察探究などを以て緯とし、茲に小なるものをものして見た。假に「富山縣地理」と名づけた。今これを編んだ主なる要項を列挙して見よう。

四、「富山縣地理」の内容

1、本縣は全國から眺めても、北陸として眺めても明かに一地理區を形成してゐるやうである。單元としての郷土地理には興味がある。

2、人文と人文、自然と人文、自然と自然等の相關的景觀により、各章に亘り小地理區に眺め、それ等の特色を觀るやうにした。

3、本文以外に次の事を加へた。

1、問題——地理的理法の探究の一方法として長々しき本文にかへることとした。

ロ、作業——筋肉による學習は永續的であり確かである。かかる體験的方法も加味した。

ハ、參考欄——「都市計畫」、「測候所」、「川と人生」などの項を掲載した。

ニ、上欄に地理的用語の解説も加へた。

4、地理の本體である地圖は特色あるものを製作した。なほ不足のものは他畫より割愛を乞ふたものもあつた。

5、挿繪は出来る限り特色あるものを精選作製した。

6、グラフは權威ある最近の統計によりこれも精選作製した。

7、變動の甚だしい教材なるも一般に地的能力の陶冶（地理學的基礎工事による）に主を置き、如何なる新事實に當面しても、正確に判斷し適切に順應して行くやうに成るべく

勉めた。

8、なほ卷末に表を附し教科書の模式的教材との聯絡を計るにつとめた。各地方研究の折それ／＼の項を参照し研究を深める動機策としてページをも記入した。（教授者の意見により相違する點も多々あるであらうが單に一案に過ぎぬ）

以上、試みの一端を述べて地理の學習經濟上の資料ともと思つた。この一案が實際教授に於て忠實な批判を仰ぎ御叱正を得たい思ふ。

なほ富山縣管内地圖及び兒童用地圖（本縣の）などに就いても目下研究最中である。

眞に郷土は地理學習のフィールドであり、我等生活の歸着點である。



## 地理的現象の本質的見方

富山縣師範學校附屬小學校

梅崎三郎

鐵道がかつてゐる、飛行場がある等と事實を並べて喜んでゐる子供があります。

人口が幾ら、面積が幾ら等と緻密な記憶そのもののみを誇つてゐる子供もあります。

私達は斯る現はれが地理目録の行くべき妥當な路だとは思はれません。即ち斯くある、斯く知ると云ふやうに事の結論のみを研究の對象とすることには多くの足物りなきを感じさせられるのであります。

吾々が今立山を見てゐるのは、一個の岩石の塊りを見てゐるのではなく、孤立した一個の山を見てゐるのでもありません。續きとしての立山、北日本アルプスの一つである立山、しかも其の立山が、地球の表面に如何様に多方面の關係をし

てゐるか、是と是に關係する人類とか、如何様な相關々係にあるかの複雑多様な地理的な意味を吾々に提供してゐるのであります。

大阪市を中心とした東海道線、關西線を初めとして、阪神、阪急、大軌、南海、高野、京阪の近代的な交通網を一瞥する時、私達の頭に響く地理的な刺戟は、塵埃と文化的な保養、都會と近代人の安逸、土曜日曜の雑踏振り、速力の急速、瞬間的な發車、設備の完備等の事柄であることもありません。或は遊覽地等を指摘して想像を廻らし、甲子園、藤井寺原頭の高なるパットの響や、寶塚の妙なる舞踊に己を忘れ、波か人かを疑ふ濱寺の浴場に、想ひを左右することもあるではありません。或は東京を中心とする交通網と比較研究して、兩者の持つ地理的な現象の必然的な相違を見出さうと努力し、時には公園に恵まれた帝都を羨み、時には煙に包まれた工業的

な都市を恨むこともあるであります。

つまり是等は大阪市を中心とするネットワークに對し、其のもの、保有する地理的な現象を各々意味づけてゐるのであります。

アテネの文化がローマに移り、ローマの文明が中歐に其の實を結びつゝあることや、祖國の帝都が日向に始つて漸次東進したこと、更に銀座や道頓堀が驕奢と繁華そのものを意味し、總曲輪通りが雑踏を極め、魚の水水屋は常に満員で、常設館にはタバコ屋がつきものであります。梶屋敷の列車事故が直に黒部西瓜の市場を攪亂し、露支國交の斷絶は汽船株の暴騰をきたしました。

是等の事象即ち私達を取りまく雑多な地理的な現象は決して偶然性のもではなくして各々が或機能を其の中に含んでゐるのであります。前の交通網の場合と同様にそれ自身が尊い地理的な現象であり、しかも價値多い意味を過分に孕んでゐるのであります。

だが顧みて見ますと斯る本質的な機能を究めることなく、敢へて考へて見ようとしなかつたのが、過去の偽なき地理教育の姿ではなかつたでせうか。

従つて若し時代が、吾々に或る反省を呼びかけ、思潮が地

理教育そのものに何等かの刺戟を促してゐるとしたら、それは吾々に與へられた地理的な現象に對し、多方面なしかも本質的な意味づけをすることではなくてはなりません。即ち各種様式を構成する自然景觀や、文化景觀乃至其等の相關々係を如實に意味づける見方を迫つてゐるのであります。

神通川には畧永久的な堤防が築れてゐます。富岩運河は着々と其の準備を具體的に進めつゝあります。そして岩瀬港は築港を急いでゐます。

上瀧には發電所があつて、千垣には取入口、貯水池があります。真川の工事も達からず完成しようとしてゐます。柳河原の發電所を右に見つゝ、身を鐘釣へと運ぶ人は、誰しも人間の力の豫測すべからざるを痛感するであります。

是等は私達の直観し得る範圍を渦巻いてゐる價値多い地理的な現象であります。是等の現象に對する私達の態度は其の現象に内在する本質的なものを掘むことも忠實な見方でありませんが、斯くする性格の構成といふことはより望ましいことだと思ひます。

山の彼方に消え行く送電線を見て一本の銅線の持つ地理的な意味を其れに求めることも以上の考へからは當然なすべきことであります。黒部川筋と庄川筋との發電狀況の異なること



を川の流れ、水量、川底、兩岸の岩石、川の曲折、勾配等から綜合することも當然でありませう。

長柄町の路上にある荷馬車にも商業地と、生産地との經濟的な關係が充分に盛られてゐます。朝市と云ふ一つの事實にも郊外の野菜栽培と其の需要供給の關係が雄辯に物語られてゐます。富山市が東、北へと發展して行く傾向にも何等かの必然性が働いてゐるやうであります。

各々が自分の家の商賣を本當に知ることによつて、又其の對他の關係に心を注ぐことにも依つて、人々が共存して社會的な調和を保つて行くには、斯くも多方面なしかも周到な關係を必要とするものであるかを體得するでありませう。そして此の事の延長が人類協同、國際親善といふやうな時代的な思想にまで及ぶこともありませう。

つまり私達の關係してゐる現象界は一寸考へて見ても以上のやうなそれ／＼の意味が具體そのもの、中に含まれてゐるのであります。即ち私達を取り巻く現象界は理論の世界でもなく公式の世界でもありません。勿論法則のみの世界でもありません。従つて抽象から抽象へと枝渡りした空虚な誠意のない見方は最早一個の遺物に過ぎないのであります。無内容の抽象界を對象として、事の尖端のみを辿つてゐたところに不

安な地理教育があつたのであります。そして徒らに子供を苦しめ空論を否定しつゝ、空論界を闊歩してゐました。事實を無にした地理はあり得よう筈がありません。私はどこまでも具體そのものを尊重し、如實に響くことを主眼とする。よりよき生活への地理教育を此處に殊更に強調するのてあります。

次に直觀界以外に地理的な現象を私達に齎してくれるものの一つに地圖があります。

中國地方の地圖を開きますと中國山脈が高原狀に走つてゐます。實際授業に當つて此の山脈が中國地方の中央よりも僅かに日本海方面に偏してゐることや、其の走向、地質、高度等を私達は普通取扱つてゐます。又本地方は深成岩たる花崗岩による地盤で構成されてゐることや、老年期の山脈であること、平均の高度が六七百メートルで頂點が零齊一であること、寂地山が一三三九米ある等と見る見方もありませう。然し斯る見方は表面的な意志の働かない讀圖だと心ある人は申しませう。私は之が當然な叫びだと思ひます。

地理學者ブーエー氏は「東西に亘れる山脈は諸般の生物の性質を變ず」と云つてゐます。即ち高さを現はす數字、岩石

を現はす礦物學的知識そのものが、研究の絶對的な對象ではありません。圖上に凡る符號に依つて表現された其れ自體の中から、或は造化の意志、或は人間の意志が如何様に交渉し以つてより多くの文化價值を齎してゐるかを、如實に吟味することが地理的現象の本質的な見方だと思ひます。

山陰と山陽に區分された當地方は此處に二つの地理區が形成されてゐます。兩地方の人々の精神活動は文字通りに陰と陽とに分たれてゐます。支脈多きため多くの小區分を隔絶し、個々の小國を形成してゐます。赤松の簇生は植木屋の店先に列べられてある播州松と關係してゐます。其他長流の少いこと、白砂青松の美觀、瀬戸内海の所謂多島海たる意味、兩地方の聚落の相違等も當然意味づけられなくてはなりません。砂の質と砂の濃とが一部の原因をなして此處に製鹽業が盛んになつてゐます。花崗岩質の砂から溢れ出る灘地方の水は、灘酒をして天下に名をなさしめてゐます。地質と人間の努力とは岡山をして花庭の國と自他共に稱してゐます。降水日數が廣島の一二三・六日を初めとして、概して山陽區に少いことは、中等學校の野球の覇者が多くは同區を根據としてゐること、無關係だとは云はれませう。

中國山脈の含む地理的な意味を種々と眺めて見ました。是

と同様な相關々係はヒマラヤにも、アンデスにも見ることが出来ます。近い吳羽山にも此の機能が働いてゐます。

獨り山脈のみならずパピロニアの文明がシャトエララブ河に恵れ、埃及の文化がナイルに培れてゐることや、揚子江が總べての價值觀から重寶がられてゐること等は各々本質的なものが内在してゐるのであります。

シベリヤの高地帯、森林帶、ツンドラ、ステップ、南米のリヤノス、セルバス、バンバスは單に模様として圖上に色彩を誇つてゐるものではなくして、各々地理的な様式を意味してゐるのであります。

東海道線が複線で特急が走つてゐる。北海道の列車は割合に同一距離を走るのに永い時間を要する。關釜連絡線は貨車の連絡が不可能である。スエッチバック式がある。トリツクル式がある。總てが尊い現象であります。

鐵道の哩數や、汽船の噸數を調べて何等かの意味を求めようとすることも決して徒ら事ではありませんが、圖上の環境を地理的に綜合して、未成線を計劃する小鐵道技師の生れることはより尊いことのやうに思はれます。

地圖上北平を見て、交通の中心、經濟の中心、政治の中心と一も二もなく概念の儘で解決し終ることもあります。雜多



な現象を系統だて、一つの統一されたものへと努力することは科學の立場から大切なことではありますが、無内容でしかも總しの過程を無視し、直に普遍化された概念で現象を眺めることは妥當性をよりよく缺いてゐます。

青色のところは米が取れる。茶色のところは森林地、海には魚獨斷から来る機械化は無神經の人間を作りつゝ、ありません。固定された感覺に甘んじてゐます。従つてより繁雜な將來を持つ子供を思ふとき此處に本質的な見方を叫ばずにはゐられないのであります。

私は直觀的現象の本質的見方を述べてみました。地圖を對象にしての見方も論じてきましたが、更に私達は個々の現象を一つのグループとして見る時に、此處に又新たな意味づけをすることが出来るのであります。

市内の宿屋やカフェエのグループは決定的な或るものを提供してゐます。會社、工場、學校の分布も、地と人、人と人との地理的な現象を明示してゐます。

本縣の賣樂生産及行商人の分布を見て、四方、滑川、東岩瀬、五百石、中田等に比較的多いのに今更驚かされます。

本邦人口分布圖を開く時、兩各野川流域の縦谷としての人

點まで一致して居る。

同國牛のさ豚の生産地帯は中央平原の中部にして全然玉蜀黍地帯と一致する。

即ち此の研究はドットマップによつて地理的な相關々係を意味づけてあるものと云はなくてはなりません。斯る見方こそ地理的現象の本質的見方だと思ひます。

梅雨時毎に來るあの痛ましい早魘騒動も本縣地圖に其の争ひの場所を記入し、雨量圖、等高線、河川等を關係させて見るとき、争ひの解決よりも其の根本の解決を忘れてゐる愚かさを悟るのであります。

津輕平野の苹果畑の分布、靜岡の茶園、密柑畑の分布にも同様な現象があります。

従つて斯る見方からしますと、アフリカを學習する際、少くとも從來の地勢や交通圖、都邑圖以外に更に雨量圖、汽温圖、植物、人口、産物の各分布圖等が用意されなくてはなり

類の聚落様式、山陽區の所謂散在しるる白壁の民家、日本アルプスの無人の境、無言の中に綜合された地理的現象が我々に迫つてゐます。

水力電氣の發電所を向上に分布しますと、東京電燈、日本電力、昭和電力が競つて日本アルプス地帯に其の利權を延してゐること、其のことの必然性とを充分に知ることが出来ます。

北米合衆國の中央平原は綿花地帯、玉蜀黍地帯、小麥地帯と自ら分業的に地域が區分されてゐます。此の事について田中啓爾先生は次の如く説明しておられます。

これ等の生産地帯と同地域の氣温及び降水量を比較すれば、棉花は温度高く降水量多き南部に産し、小麥は温度低く降水量少き北部に産し、玉蜀黍は中間の氣温と降水量の地域に産することを知る。

更に各々の境界につき吟味すればその各の作物の成育時期の氣温分布圖がその原因の探究に必要な材料となる。小麥の南の限界は四月十五日より七月十五日までの平均温度六十八度の線と一致し、玉蜀黍の北限は夏期三ヶ月の平均温度六十五度の線と一致し、棉花の北限の複雑なる曲線の境界は無霜季節二百日の線と全く一致するを見る。而して玉蜀黍地帯の中東北部に於て六十八度以下の氣温の地域二ヶ所島狀に存在するところには玉蜀黍を産せず、棉花地帯の北限より北に離れて二百日の線が島狀をなせる所には棉花の栽培を見るといふ微細な

ません。そして一つの現象そのものから立派な地理的な意味を見出すと共に、一歩進めて現象から來る現象へと漸次仕事が進化されるのが本當だと思ひます。

教科書一冊、地圖一冊を唯一絶対境として、其の中から地理的な現象の眞の姿を掴まうとした大膽さを今更心竊に恥じてゐます。空虚なビルデングの外形のみを兎や角と問題にしてゐたかのやうな感も致します。

時は私達の覺醒を促してゐます。

子供は活きた現象を正から望んでゐます。

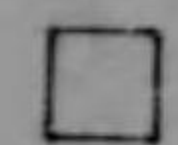
そして私達は事實を暗記する子供よりも、現象そのものに親しむ子供をより多く望んでゐます。

再び云ひます。具體に根ざした本質的意味づけのみが私達の歩むべき路であります。子供の活動すべき地理の世界であります。



第二協議題

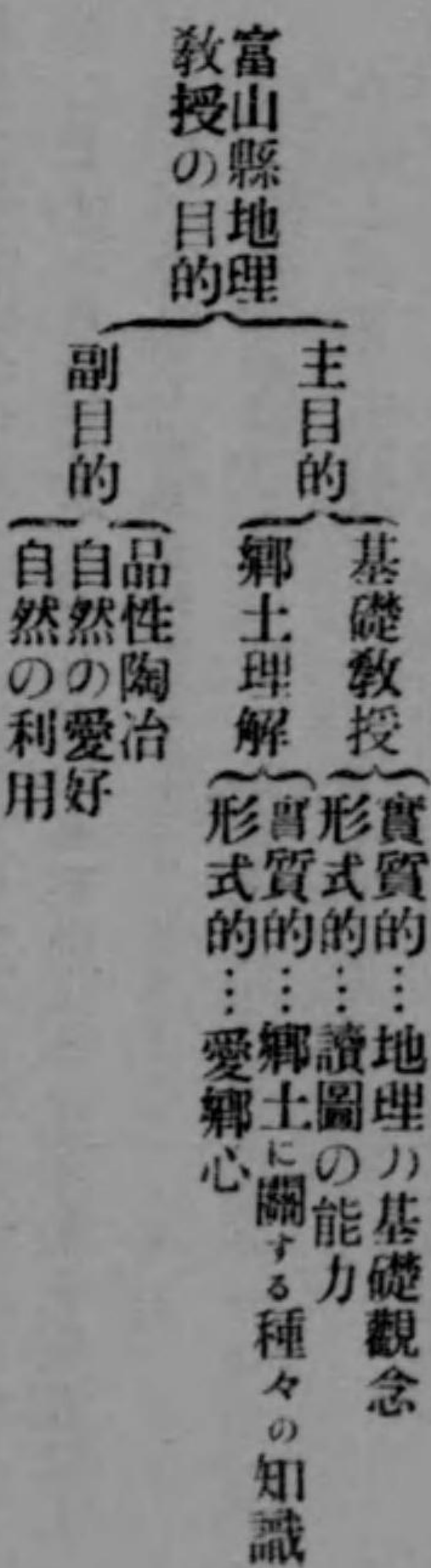
地理教育上郷土としての富山縣を如何に取扱ふ可きか



上新川郡堀川區域研究会  
蜷川校 澤田清茂

一、緒論

地理學習の出發點を郷土の直觀を基礎として發展せしめ、新くて遂には「全日本」を體認し、次には眞の姿の世界を發見して始めて本當に己の郷土を確認しそれ自身の進展が促されると思ふ。此の意味に於いて郷土としての本縣地理は地理教育上の體系の根幹を爲すものであり教育の歸着點を明示するものである。であるが故に本縣を實際取扱ふ上は特別な深き研究と特殊の考察を郷土としての全富山縣に傾注すべきは無論の事である。そこに大體左の如き目的が内在してゐるものと信ずる。



地理教育上本縣地理を取扱ふ學習經過を辿つて見るに地理教授の初歩に要求する基礎觀念の養成は部分的斷片的であり乍らも、他教科殊に國語讀本に聯絡して幼學年より既に指導し置く必要があり、尋常科第五學年の劈頭に於て、地理學として本縣取扱を容易ならしめて大要を的確詳細に指導すべき

であると思ふ。こゝに於いて統合された地理の建設が完ふさるべきもので卒業學年に於いては人文學上より地方文化の進展開發地理的理法の發見等郷土に對する識見を涵養すべきであるまいか。私は本縣地理教授の主體となるべき尋常科第五學年の最初の一般的取扱の實際に就いて、詳述したのである。

二、郷土としての本縣地理學習の實際

どうしても尋常科第五學年の最初の教授は幼學年から地理學的に意識して取扱つた基礎觀念の系統的整理と其の補充から學習を發展せしめなければならぬと信ずる者である。その實際指導の大綱を示すと左の通りである。

第一時 校外教授(遠足、修學旅行)に出でたる方面の精査(郷土模型の利用)

富山市、吳羽山、四方、東岩瀬、伏木、高岡、島尾、八尾、神通川、常願寺、上瀧等の地理的考察。  
第二時 方位、面積、距離、高さの觀念整理。

- (磁石、メートル卷尺の用意)
- 1、教室に於ける方位(東要南北)、面積
  - 2、校庭に於ける——
- 方位——立山、校舍、富山市

面積——校地—アールの實測

高さ——立山、吳羽山—校舍

距離——南富山驛、校門より堀川校迄、校門より役場

西町交叉點まで。

標準の面積、高さ、距離を示して行ふ。

第三時 平面圖、縮尺の觀念整理。

準備として茶碗、コップ——側面より見たる圖、マッチ、

机、教室を一定の縮尺によつて畫かしめ、1/10、1/100

等の縮尺は長さについてのもの面積にあらざること。

尙我が家の間取圖(一間を二棟として)宿題

第四時 蜷川村地圖の觀察。

(1)郷土地圖に依り位置、村落、神社佛閣、交通(鐵道、

道路)、川の名稱を記入彩色せしむ。

(2)蜷川村地圖の觀察により——

一、方位、面積、地勢、地味

二、人口、戸數、官衙

三、産業、(特に富山市との關係)と經濟方面

四、交通と今後發展の傾向

斯く教授を進めて來る時、愈々學習の發展は富山縣へと擴張せられ關係づけられて郷土そのものが躍動するのである。



此の深き基礎の上に郷土としての富山縣を取扱ふことに依つて眞の地理科として姿を凝視するのである。私は直観し得る範圍である學校中心地方を郷土とし富山縣は準郷土として其の實際を考慮するものである。準郷土としての富山縣取扱は次の如くせねばならぬものであると思ふ。

◎富山縣地理(準郷土地理)の實際

第一時 (郷土模型と郷土地圖、縣地理模型と富山縣地圖との聯絡を計る)

△郷土を背景として——(自然地理)

- 1、位置、面積、人口、行政區劃
- 2、地勢

・山脈、河流、平野、海岸——吳山以東、以西の地理的對照比較

・氣候——降雨——溫度——天候

- 3、因果的關係の考察(本時の既習教材を統合して)

第二時 産業經濟——(人文地理)

- 1、農業(越中平野)……米その他、蠶業(山地)……生絲
- 2、工業、賣藥(富山中心)、織物、銅器、漆器
- 水電國としての富山縣の現況と將來を考察
- 3、水産業(富山灣、神通川)——水產物

- 4、左の二者を中心としての産業の考察

A、富山——東岩瀨を中心とする物産の集散

B、高岡——伏木を中心とする物産の集散

- 5、産物の地理的理法の推究

第三時 交通、都邑——(人文地理)

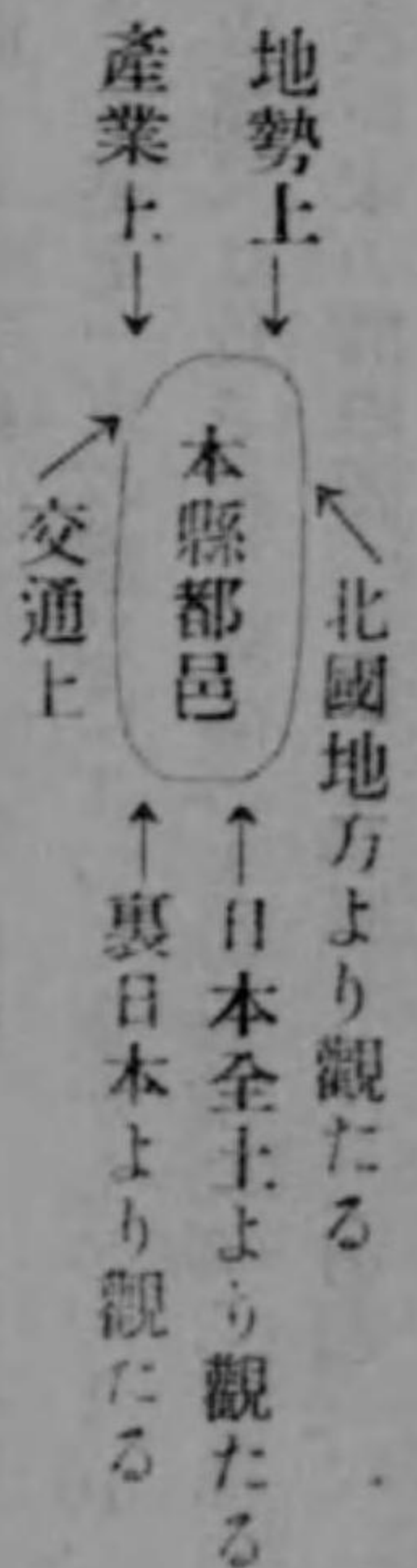
- 1、交通網 陸上——富山、高岡を中心として取扱

海上——伏木、東岩瀨の航路中心

將來の交通と人文の關係

- 2、都邑

左の如く都邑に對する考察を爲さしむ。



第四時 統合されたる富山縣として整理

- 1、産業として縣外と如何なる交渉を有するか 富山賣藥。越中米。高岡銅器。黒部西瓜。
- 2、交通上本縣がどんな位置にあり今後縣外とどんな關係になるか 飛越線の完成。滿鮮航路。富岩運河。東岩瀨港の發

展(築港)。日本海としての伏木港。

- 3、新興地としての宇奈月を研究せしめる

- 4、全國的に觀て水電國としての本縣

- 5、文化の中心として今後の大富山市

三、結 論

斯くの如く統合された基礎から茲に一般地理學習へと發展

上新川郡大久保區域研究會

新 保 校 藤 井 義 謙

協議題に對する意見を方法と内容の二つに分けて簡単に述べて見たいと思ふ。

(一)郷土現代の事情を詳かにしたい

(1)新聞紙の取扱

新聞紙の記述は非常に具體化されてゐて一國の文化に關係の深いことが時々載せられる。かゝる記事や繪畫などを教室にはりつけ兒童に讀ませ教師からも簡単に説明をなして根本觀念を養成したい。

(2)郷土史の取扱

尋常科第六學年の最終に於いて郷土より日本へ日本より世界へと誘はれた眼を更に郷土を顧み己の眞の姿を眺めやる時そこに正して地理教育の本質に觸れた使命を完うすることが出来ると思ふ。「わしが國さ！」の眞の誇り、それは誰もが持つ通有性であり地方色、豊かな總ての文物は人類文化の創造への健やかな歩みである。

夏季休業などを利用して兒童に地方の傳説、史蹟等を調査せしめ、越中史料などを參考としてこれをまとめ子供郷土史を作成したい。茲に注意せねばならぬのは郷土の傳説には随分怪しいものが多いので、餘程吟味の必要がある。

(二)國史を課すべき學年範圍

(1)尋一より國史を課すべし

國史心は幼少の時からもつてゐるものである。繪本を見て歴史的人物の事蹟をしり、玩具を見て歴史的事項を考



へ、繪畫肖像を見て疑問を發する。又童話や日常の小さな事柄から事件の因果關係を發見し、神話をきいて想像の天地をつくる。これ皆國史心の發露である。故にこの國史心を利用生長せしむるには尋常一年から國史を教へる必要がある。

(2) 尋五以下の國史教育の内容と指導

幼少の兒童に一時に多くの事柄を教へ、三十分、一時間の國史學習を課することは無理だから先づ繪畫、肖像畫及模型其他種々の參考物を教室に具へて環境を作り、簡單な説明をしたり幼稚な問題を課したりし、又童話をきかせて簡単に因果關係を考へさせたり、尋四に至つたならば神話をきかせたりするのがよいと思ふ。

(三) 時代觀念の養成

(1) 年代表の取扱

時代文化發展の研究は必ず年代觀念の上に築かれねばならぬ。然らざる時は知識が系統を失つて無意義なものとなる。故に年代表の活用、年代表の作成等により大きい國史の流れをつかませることが大切である。

(2) 書籍、美術品、遺物

書籍としては戯曲、物語、史學物、歌謠等により美術品

としては繪畫、寫眞、彫刻、建築、鑄物、織物等其他遺蹟、古墳、遺物等の實地踏査、標本觀察により各時代の氣質や其他の特質を如實に推究させたい。大きい國史の流は曲折をもつてゐる。その曲折が時代の特色である。

(四) 觀照推究態度の養成

(1) 因果の研究

文化發展の因果關係、時代と人物の相互關係を推究せしめ吾人の生活の困て來る所を知らせたい。

(2) 人物の觀照

各時代に活躍した人物は只事蹟として知らしむるのみならず、よく人物の行爲を批判し又人物と時代との關係等兒童の人生觀によつて深く考へさせたい。

(五) 具體化現實化の方法

(1) 挿繪の活用が第一に必要である。小學校教科書には隨分文化史の取扱に適當な挿繪が多い。次に

(2) 地圖、附圖の活用も餘程具體化の方法となる。更に

(3) 戯曲、物語、歌謠等によれば一層現實化した今日の前に見てゐるやうな取扱が出来る。又

(4) 教具、參考物によつて皮相的抽象的にならぬやうな明確な趣味深い説話をなすべきである。

(六) 課外指導

課外指導としては國史の參考又は背景となるお話を聞かせたり、實地踏査をやらせたりすること。兒童の學習した知識によつて劇作をなさしめることなどの方法がある。

(七) 豫備學習の方法

(1) 兒童の讀書

兒童の讀書は漫然と讀ませるよりも有目的讀書がよい。それには豫め讀書方法や研究内容事項を示した刷物を與へて讀書せしむる必要がある。

(2) 教師から與へる讀物

殊に教師が兒童に使へ、暗示しておきたい事項のあつた場合には印刷物として兒童に與へ實地學習内容の背景をあらかじめつくつておきたい。

(3) 小黑板の記載

學習以前に於てその學習に必要な事項を記載せしむるやう兒童の氣分を喚起し自發的に記載させておきたい。其の内容は問題と兒童の研究した事柄と二通りである。劣等生には自分の分らぬことを問題として記載させるのがよいと思ふ。

(八) 國史學習の内容

(1) 文學美術工藝の材料

法隣寺の釋迦三尊と壁畫 奈良時代の和歌及片假名 正倉院の御物 平安時代の假名文學 空海の文字 鳳凰堂 平安朝時代の朝臣服裝及糸毛車 鎌倉時代の武人の遊戯 鎌倉時代の軍記物 運慶作の仁王 繪卷物 刀鍛冶 室町時代の金閣寺 東山時代の銀閣寺 茶の湯 雪舟狩野元信の繪 寺小屋 連歌謠曲 家屋の裝飾 桃山時代の美術として西本願寺の書院 狩野永徳山樂の繪 左甚五郎の彫刻 江戸時代の漢學 淨瑠璃俳句等の通俗文學 尾形光琳の繪 菱川師宣の浮世繪 寺小屋の發達 文化文政時代 蜀山人の俳句 一九の滑稽小説 馬琴の小説 應學の繪畫 歌麿の浮世繪 明治時代の繪畫として 狩野芳涯、橋本雅邦の作物

(2) 歴史的遺物及遺蹟

上古の土器 玉類 古墳 武器類 反射爐

(3) 民情風俗社會狀態

1. 建築  
穴居時代 堀立小屋 大社造 神明造 寺院建築の發達  
法隆寺 平安時代の寢殿造 平安京 大極殿 鎌倉時代の武家造 室町時代の金閣寺 室町時代の家屋及裝飾



桃山時代の聚樂第 伏見城の書院 築城法の變遷 伏見大阪城 日光東照宮

## 2、服装

上古に於ける木棉の筒袖、股引姿 朝鮮服屬時代の服装 奈良時代の唐衣、裳、着袴 平安時代の冠、直衣、束帯、十二單衣 源平時代の甲冑、狩衣、烏帽子 鎌倉時代の直垂烏帽子姿 室町時代の大紋、素襖、長袴、肩衣、半袴、小袖 徳川時代の肩衣、羽織、袴、半袴、袴、幕末の和洋折衷姿

## 3、社會制度

殉死制度 奴隸制度 氏族制 支那制度の輸入 大化の改新 封建制度 立憲制度

## 4、思想文化に關する考察

神話 佛教 封建時代の思想 戰國時代の思想 キリスト教 漢學 蘭學 國學 尊王論 攘夷と開港 明治維新現代

## 5、生活史觀と時代氣質

上代の人々は素朴で善因善果惡因惡果といふ單純は宗教觀をもち天御主神を天地創造の神、高皇產日神、神皇產靈神を萬物結合の神伊弉諾、伊弉冉尊を我國創造の神天

照大神を日神と考へ月讀命を月神とし素盞鳴命を海神と見てのたやうである。又高大原、黄泉國豊葦原瑞穗圖の三世を立て天國、現世、地獄と見てゐるらしい。

佛教の傳來によつて支那白濟の勝曼經などいへる倫理佛典を輸入し聖德太子に至つて十七條の憲法が出来た。而して太子の佛教弘通によつて世相一變し佛教の無差別論も同時に入り來つて大化改新、口分田法といふ土地國有論を生み、奈良時代に至つては佛教の慈悲を尊び養老の瀧の逸話、聖武天皇の三寶歸依、光明皇后、和氣廣虫などの慈善事業起り、平安時代は最澄、空海によりて佛教の論理研究起り三世因果靈魂不滅の思想、兩部神道の説起り、殊に空海の崇藝種智院に於ける平民教育、社會教化等によつて平民の智能高まり、自由な華美な時代を現出した。而るに藤原氏は遊惰に流れて國司郡司を統制する能はず、地方亂れ武士が四方に起つた。

それが頼朝の幕府となり、甚だしい差別社會となり英雄主義となつて勇ましき文學を好み強率弱從の世態を現出した。建武の中興で一時政權が朝廷にかへつたが又尊氏によつて封建制度となり鎌倉時代の眞宗日蓮宗等が社會を教化し戰國時代といふ個性主義を生み群雄諸國に割據

しそれが秀吉といふ英雄を生み天下を一統し朝鮮征伐をやつた。この英雄的事業は雄大なことを好む世相美術を生み所謂桃山時代をつくつた。

徳川時代には西洋の文化入り來り、漢學の實用學、道德學が重んぜられて元祿時代といふデカタンの社會、近松、西鶴などの通俗文學となり吉宗の政治によつて一層實用現實主義となり蜀山人の狂歌、一九の滑稽小説、浮世繪の發達を見た。次いで蘭學國學起り尊王攘夷論及開港説並び起り、尊王攘夷論が一つとなつて倒幕明治維新となり西洋文化一時に入り來つて模倣文化を現出したが、現今に至つて次第に創造文化に向つた。

## 8、皇室の状態の考察

各時代共に大切であるが、特に吉野朝廷時代と戰國時代に於ける皇室の衰微及源平時代以前に於ける皇族賜姓について深甚の考慮を拂ひたい。

## (2) 經濟に關する考察

## 1、職業

上古の職業には織部、服部、鏡作部、玉作部、土師部、弓削部、矢作部、家部などあり朝鮮の服屬するに及んで漢陶部、鞍部、錦部などといふ職業が出来た。

王朝時代の職業には上代のもの、他に縫部、織部、染戸、漆部、狛部、などが加はり又此の時代に市といふものが起りこ、でこれらの製品を賣買した。

足利時代に及んで小田原、山口を始め各大名は競つて有力な商人を集め城下町をつくつた。職業としては刀劍業の發達と陶磁器製法の進歩である。尙座と名のつく商店を生じた。米座、油座、茶座、鹽座、紙座、布座、小袖座、博多打座、結桶座などで堺、兵庫の二つの普通町に商人が最も多かつたのである。

徳川時代では大坂に蔵屋敷といふものが設置され幕府及諸藩の租調を集めて日々入札拂とし、取引所、兩替屋を初め各種の金融機關が發達し、旗本の武士もいつしか御用商人より金を借り返濟出來ぬために帯刀をゆるした。

かくして商人の勢力加はり浪人俠客等四方に起りこれ等の徒が尊王倒幕の志士の味方をして幕府を倒した。又此の頃は交通が發達して宿場が出来、水路開け、幕府の參勤交代と相俟つて一層商業を盛んならめした。

## 2、貨幣金融

上古一家自足の經濟で他と關係が少なかつた。朝鮮服屬期 物々交換を市に於てなす。



奈良時代 文武天皇が鑄錢司を置いて貨幣を作らせらる。和銅年間に元明元皇銅開寶をつくらる。この貨幣の使用は都會に止まり地方は稻の束數を以て物價を定めた。平安時代の中頃から貨幣が本當に使用され地金銀も地方で使用された。

鎌倉時代には支那との交通により宗元錢が日本に入來り地金銀、切銀なども地方に使用された。足利時代では義滿の明との修好により永樂通寶が輸入され、地方では切銀を、關西では宗元錢を、關東では永樂を使用するに至つた。

戰國時代には大判金、甲州金、加州金などの貨幣が信長、武田信立、前田利家等によつてつくりられ、徳川時代では家康が大判、小判、一分判金、銀、丁銀、豆銀などを造り、次で二朱金、一朱金、五兩判金、五匁

銀、二朱銀、一朱銀、一分銀と改鑄せられ家光の時代に寛永通寶が出来、又各藩では藩札といふ紙廻を使用した。そして兩替屋が起り爲替御用として掛屋、札差などといふものが出來た。

3、税法として

上古 弓弭調、平末調といつて毛織物等をおさめる。

奈良時代 租、庸、調等大化の改新の制度による。

武家時代 酒、油、鹽、米租、通過税(關所、山手、河手)倉役。

徳川時代 年貢米、冥加金、小物成。

(3)政治に關する考察

法令 十七條憲法、大寶律令、貞永式目、武家諸法度等

官制支配 攝政、關白、院政、國造、縣主、守護、地頭、

所司代、大名等

### 上新川郡上瀧區域研究會

上瀧校 眞田清 一

近來地理教育上の諸問題につき種々論議されつる發達の狀

態にあるが、いづれも専門的立場を含める意見を小學校兒童

教材たらしめんとする傾向がある。而て地理學習の目的及方針は相當に明瞭なるも、尙地理教育の効果が不充分なるは一は設備上の問題、地理的基礎觀念の不備もあるが教授者自身も考慮すべきであると思ふ。完備せる地理教授と教材研究の無缺を意味するものではなく兒童して眼識力の助長に對する方法の研究でなければならぬ。今日地理教育をなすものは主に従來の教科書や参考書の順序と研究法の先入觀念を脱しなければ、永久に宇宙の地理的事項が増加するにつれて教授時間上の制限上稍もすれば目的及狀態を濕亂する場合が多くなるであらう。

今月迄に存在及發生せる地理的事項の盡を知ることは大なる必要を感じない。寧ろかくあらしめた理由を基として之が將來する世界を考へ、克く着眼點の精確と運用の萬全を期すべきである。今日の日本地理學習の如く、最初に府縣區劃を一單位として、其の内容を研究する方は一單位毎に羅列的取扱ひに陥り易く、之らの連絡が不充分であり又連絡内容が不充分である。地理的事項には境界がなく、唯政治的のみに必要があるのみである。故に今後の教育に於ては漸次教授者は教材資料の研究により、獨自の立場で出來得る限り教科書の趣意により効果を擧げねばならぬと思ふ。此の意味に於て私

は、「自己の郷土より、他の郷土へ」の見解のもとに教材の取舍と教授の研究を主張するものである。勿論紙數に限りあるからして、全論旨の各部の一部を無理にまとめたものであるから機會を得ば發表して各位の御高見、御批正を希望する次第であります。

#### 1、郷土的研究

地より起つた現象を研究する際に當りて、我が郷土は地表の一部にある以上、又地球全面も亦我が郷土の延長である。而して郷土地理研究上其の範圍につきては、

フインゲル、ライン 郷土地方と稱す

プロシヤ諸校 狹義一郡、廣島一(州)

ルーデ 一日至達直觀知得の地

普通の見方 學校中心とせる村落

郷土の意義はかゝるものであるが其の郷土の地理的資料の研究は、是國民常識の涵養となり又兒童の實生活との密接なる關連である。外國には此の二方面の目的を以つてゐるホームデナグチファイがある。郷土地理の目的たる郷土の地理的意義を知らしめる點よりすれば、ホームデ目的に一致したのであり又含まれたものである。郷土地理は多くの場合、郷土の自然的狀態の研究が主となつてゐるがホームデは更に人文的方面



の研究がある。此の事を發達の順序より見れば郷土地理は獨乙て發達したものであり、自然研究の盛な獨乙の學風を受けたものである。ホーヂは實利主義の米英より發達したものである故人文的研究の發達を見たものである。而しホーヂのホームとは、家々のみでなく、學校も即ち生活場所としての意味に用ひられてゐる。英米に實施されてゐるホームの内容は概ね一定である。

米國オレゴン州一小學校課程

- 一、住居、食物、衣服
- 二、土地、水、空氣
- 三、工業、商業、政活
- 四、地圖

米國ニューヨーク州一小學校の課程

一、教室、學校の位置、市の地形圖、ニューヨーク、ニューヂャージー兩州中の兒童に關係の深き地の位置、各兒童の家庭のある地域の地形圖、水系圖、港、橋、公園等兒童の興味ある土地の研究等、諸外國のかゝる例は制度状態の異なる日本には直接應用すべきではないが日常考へてゐる郷土地理の内容の研究に相當參考となる部分が多いのである。食物にしても衣服建築材にしても日常經驗の材料である。即ち兒童は日常生活に於て廣い地理的環境の元に營ましてゐることが判るのである。衣服などでも其の生産地の研究を成し原料た

る綿糸、又は綿花の研究より初めたならば廣き地理的範圍を含むものである。又生産地、否生産地に對する原因を考察せしめることも必要である。かくて生産地と需要地との取引關係や運輸上の交通や物價等に關するある程度迄の見方や解釋が與へられると思ふ。以上衣服の經濟關係のみならず之が地文關係にも密接なものがあつた。即ち地形、地味位置、氣候及其の他の研究となつて深められるのである。然しながらかくの如くにして人文事項に於て其の地理的主義を採れば兩者の關係がいかに複雑の如きであるも、之は地文人文關係の本質的のものでなく、本的に基いての現象である。故に複雑なる現象中より、其の理法を知らしめ、粗材の提供は兒童に甚だ理解せしめ難い故に出来るだけ簡明確實に眼識を養ひ判斷力を得せしめたい。かくて地方的特色の研究によりて地理の一般的究明の深究の一助としたい。更に自己の郷土の學習に止らず、他地方、他國の地理的交渉を他國の國勢と言ふ大體のものでもなく各その地方の色彩の最も強く現れてゐる郷土地理的の狀態に關連せしめたい。かゝる意味よりすれば今日の教科書は其の根底に於て隔絶してゐる關係があるかも知れぬが書き振りは不十分な所がなきにしても、然も用語が一定である。此の用語の一定とは簡單なやうであるが學習上甚だ

淺薄に流れる傾向の最大の原因である。集散地と稱しても同一經路のものではない。又米作と言つても我が日本の米作と、メコン、イラワヂの米作及バラグアイ河畔等の米作とは多大なる差異を有し、此の差異より來る各地の影響を明かにせねば眼識は紙上の文字通過である。外國地理學習に當りては殊に産業上の土地の個性及人情風俗等を整理し常に連絡を我が日本に求めねばならぬと思ふ。シヤム國を研究するにはシヤム國あつての日本ではない故に先づ日本よりの交通を研究し兒童をして數的に經濟方面も凡てを畧知せしめ兒童をして心を彼の地に上陸せしめて然る後に各種の研究に移らねばならぬ。然らずんば絶海の孤島に遊ぶロビンソンの如き傳説的空想に陥らしめることがあると思ふ。而して單に存在を現す位置の研究や國內の經緯及交通の時間賃金等を如何に詳しく説明しても徒費の部分が多いと思ふ。又之によりて地理眼が開けるとは思はれない。故に上述の印度支那半島の主要産物たる米につきての學習には第一に日本との關係が多いからして我が國の米の年産額を述べ國民の消費状態を考へ此の不足米として毎年三千萬圓位印度方面より移入させ、而て南京米の特に主産地たる箇所を示摘し次に米作状況として、土地、氣候、耕作の月日水牛中、藩種の割合を簡單に示し、之を我が

郷土にて見るやうな苗代、肥料、灌漑の苦心除草等の不必要を知らしめば興味甚だ多く、殊に我が農村では一升の種粃で一反歩も植え得るのに彼の地では一斗餘の粃を要すとせば多大の研究資料が展開されるのである。更に收穫は十一月より一月に渉る乾期であるから日本の如き秋の心配はない。又稻こきの必要ないからして穗尖だけを刈るやうにする。又稻こきは水中であり、かくて脱落の粃を集めて支那人の米商に賣る。その價格しらべ更に、バンコック、ランゲン、サイゴンで精米されるを解けば其の間に氣候の研究となり、印度支那の米商と支那人の研究ともなり、かゝる一少部分の研究によりて出来るだけ彼の地の各要素を研究なし得べきである。かゝる自然力のみ米作も收穫高より見れば、「一ライ」に粃五石の割であり平均日本より多收である。又例を支那に取れば如何に支那地理を學んでも濟南が判らぬやうでは、支那時局と在留邦人の何たるか、わからぬであらう。マイマツチヤン、北京、天山、南北路又彼の祁南連山の果まで連る。大長堤や浙江省に至る大運河など支那の地理として支那人としては重要なものであるが邦人活動舞臺としては、さまで必要などころはない。かゝる見地よりして租界地の生活及國家の之に對する考へ等を示して、徒らに孤的に考へしめて尼港事件や濟南



事件を恐れしめるのは移民上又地理學上悪影響を及ぼす恐  
 が多大である。彼の昭和二年六月、支那内亂の時に於て在  
 留邦人の人心の動搖甚しきものがあつた。然しながら地理的  
 見地より見て「長春」より「哈爾濱」まで九時間以内で鐵道がし  
 かれることや、之に要する人夫は沿線の各村落より人夫何人、  
 苦力何人と言ふ所まで調査されてゐることを示し又天津在住  
 の日本軍及多人軍の數や族順より八時間以内で援軍の來るこ  
 とや戰時の交通運輸の管理無電、傳書鳩網などの害況を大畧  
 知らしめることが新思潮の一端であると思ふ。然し乍らか、  
 る細密なることは甚だ複雑の如く見ゆるも一事項を一實際問  
 題を深究することによりて百般に通じ連想せしめることが出  
 來る故に必ず代表的なものを選び代表的な場所にあてはめて  
 研究せしめたいので、決して素材としての見方でないと思ふ。  
 要するに地理科は地理學の縮少ではないから時間の制限もな  
 ければ範圍の制限もなく又事項の制限もない故に最も効果あ  
 り系統立つやうにすればよいと思ふ。又例を朝鮮について言  
 へばその學習にあつて必ずしも位置地勢、氣候等の如く順  
 序的に、又は、はつきりした項目によりて研究すべき場合の  
 みとは考へられない。我々は日常面接する鮮人に對する各種  
 の感情を各方面より研究し總合しても立派に研究出來るので

ある。即ち白衣、轎車、禿山、墳墓、勞働者、産物、建物、  
 城址、港、道路、國境等の研究によりて、規定の項目以上に  
 興味を添へて効果あらしめることも出來ると思ふ。是を又内  
 地につきて見ても同様である。紀の川及有田川が主縣と見  
 てもよい和歌山縣の研究や、是らの結果としての移民國に關  
 連せしめることが大切であり、其他京都の西陣地方と織物  
 業につきて西都をまとめることも大切であり、又養蠶國とし  
 て長野縣を研究し、地文人文に連絡せしめる等主要なる項目  
 を持つて有機的に取扱ひたいのである。然し乍ら現今の東京  
 府と東京市とにつきて考へるに今日の東京市を盛ならしめた  
 る各種の原因は、勿論地文にあれども今日となつては東京市  
 を中心とせる各附近の諸縣は皆此の大都市の影響を受けぬも  
 のはない。故に東京市の研究は充分に府及近縣の大部に反響  
 することは實際である故に、かゝる代表的のものを持つて研  
 究し初めても良いと思ふ。  
 かくの如くにして、全系統案を各自が作りて學習せしめる  
 ことは甚だ困難なことであるが又兒童はそれだけ幸福である  
 と思ふ。故に我々は出來るだけ多くの素材より選出して時運  
 と共に進みたいと思ふのである。

## 中新川郡滑川區域研究會

北加積校

按

田 正

一

### 郷土地理について

近時教育を實際的ならしめよとの聲益々高く、各科教材の  
 郷土化する叫びが次第に大きくなりつゝ、あるのも教育の實際  
 化を實現せんとするものである。就中地理科の如く郷土以外  
 の地に於いては殆んど未見未踏の地を想像類推せねばならぬ  
 學科には益々必要を感じるのである。併しながら言ひ易くし  
 て、行ひ難きは實に此の郷土化であると思ふ。

吾々は朝夕郷土の自然、人文上の諸現象を眼前にしなが  
 ら動々ともすれば其の精細なる觀察を忘れ、日常何等の感なく  
 して過し易いのである。即ち「燈臺本暗し」とでも言はうか  
 平素見馴れてゐる關係上、郷土其のものに中毒されてゐるが  
 如き現状ではあるまいか？ 其の意味において「郷土として  
 の富山縣を如何に取扱ふべきか」の研究は最も時宜に適した  
 切實なる重要問題である。郷土を最もよく調査研究し、理解  
 するものは其の郷土民でなくてはならない。併し私は自身ど  
 れ程までに研究してゐるかを考へる時、思はず身に冷汗を覺

ゆるのである。

私は郷土地理の萌芽は尋一に入學と同時に與へねばならぬ  
 と思ふ。其れは如何なる方法によるか、即ち他教科との有機  
 的統合によらねばならない。就中國語讀本中には多くの良教  
 材を發見するもので（特に低學年の中には多い）其等を通じ  
 て、幼稚ながらも郷土地理としての觀念を與へるのである。

尙ほ郊外教授、修學旅行等の場合には實地に就きて説明し、  
 初歩の基本觀念を養成するのである。かくして尋四の終りに  
 於いて既習事項について整理し、更に學校を中心とした附近  
 の地圖、高所へ登つて附近の地形を俯瞰せしめ、稍々進みた  
 る基礎觀念を興へるのである。故に私は本題材を郷土地理と  
 しての最初の取扱ひではなく、尋五に入り、いよいよ日本地  
 誌を學習せしめんとする第一歩として其の最初に四時間位を  
 割きて指導せんとする計畫の下に研究の概畧を述べんとする  
 ものである。

位置について



位置の良否が其の發達に影響を及ぼすことの大なるは言を俟たざるところである。單に一地方としての考察のみならず、各方面に亘りての觀察を忘れてはならぬ。即ち向ひ三軒兩隣の關係を重視せねばならぬ。中部地方の北部にして、日本海に面し、我が帝國の畧々中央に位する本縣は更に日本海を隔て、ソヴィエト聯邦領シベリヤに對する爲め、將來彼の地の開發と共に益々重大さを加ふべく、又北滿の開發、豊富な物産が北鮮航路を通じて輸送さるゝ時は、一段の活氣を呈することは明かである。

面積 二七六方里 (四二四〇方里)

人口 八十三萬人 (昭和二年度末現在) 一方里平均密度約

三〇一四人にして、一方里約二〇〇人の割合となる。

人口密度、比較的人口増減のなきことを考察する。

地形について

本縣の地形を概観せしむるは勿論、更に進んで其の特色を明瞭にせねばならない。地形が如何に人文發達に關係を及ぼしてゐるものであるか。即ち地人相關の理法を研究することは最も肝要である。又各地形の有機的關係をも留意する必要がある。

概観……三方山に圍まれ北方は開けて富山灣にのぞむ。

山地……東は飛驒山脈、南は飛驒高地、西は寶澤山脈によりて他縣と境す。飛驒山脈中の立山山列を主として調べ、立山、劔岳を代表とする。而して雄山神社を知らせ、更に地獄谷、彌陀ヶ原、立山温泉等について火山的説明をなさねばならぬ。尙ほ白馬岳を主峰とする白馬山列についても考察させねばならぬ。其の他飛驒高山、寶達山脈、奥羽丘陵等についても研究せねばならぬ。

河川……本縣河川の特徴は勿論、如何に利用されつゝあるかを特に考察せねばならぬ。水源地、流向、水運の状況、水産、灌漑、發電、温泉の分布、水害、砂防工事、河口の利用等に就いて、就中代表河川によつて、發電、峽谷(日本隨一)等も力説し、文化上、經濟上に及ぼす影響にも留意せねばならない。

平野……本縣一帯の各河川の流域に發達せる富山平野について、其の地形的考察、經濟的價值(古來より人文活動の中心點たりしこと)其の將來の發展要素についても考究するものである。

海岸……一般に單調、一八〇〇米の等深線は畧々富山灣の中央にあること、冬季風波の荒きこと、海岸地形と港灣との關係を考察させ、稍々良港と認むべきものは伏木港であつて、

修學旅行等を利用して港灣としての要素につきて實地指導をなさねばならぬ。而して如何なる程度に自然の地形を利用してゐるかを直観させる。富山灣特有の厩氣樓についても大體説明する必要がある。

氣候について

主として氣温、雨量に留意し、氣温の年平均、最高温度、最低温度等、雨量の年平均、何時頃が一番多く降るか、氣温と雨量との關係、冬季降雪の多い理由、降雪と農業との關係等人文發達に及ぼす影響等について調べるのである。

産業について

本縣産業界の現勢、如何に自然の制限を受けつゝあるか、人口密度との關係、各種重要産物の分布、産業界の將來等につきて考察し、尙ほ各種交通網との關係をも考へねばならぬ。特に農業、水産業、工業、商業等に關しては精細に研究する必要がある。

農業としては本縣人の大部分は之に従事し、縣の一大經濟資源である。中でも米は本縣最大の富源にして、最も重要なものである。人口との關係によつて年々多量の移出米があり、其の主なる移出先の状況等、尙ほ蔬菜類、養蠶業等についても調べる。

水産業としては沿岸漁業と遠洋漁業(餘り盛ならず)如何なるものを多く産出するか、水産製造物の概況販賣の経路等につきて考究する。

工業は近時俄かに没興し、特に伏木方面に著しい。原料品及び動力の供給状態(特に水力電氣)概して進展しつゝあるも未だ工業縣としては其の前途甚だ遠き現況なり。古來より本縣特有とも云ふべきもので、全國津々浦々に至るまで名聲を博する賣藥については、其の行商範圍及び方法、殊に近年は遠く海外まで發展しつゝある現況に留意せねばならぬ。賣藥の沿革及び廣貫堂に關しても考察する必要がある。織物は其の産地の分布、販路、將來等、其の他酒、製造肥料、製材製紙(王子製紙株式会社)銅器、漆器、薬工品(農家の副業として近年長足の進歩をなした)あり)發電事業につきては本縣は天與の地形によつて各河川は水量豊富、適度の落差、急流に富むを以て水力電氣の驚くべき發達により、東洋の一大水電郷たらんとするも遠からざるの現況である。電力の供給経路、發電所の分布圖等の作製によりて状況を明かにし、其の將來の發展につきては一段の考究を要するものである。今後本縣の一大經濟資源にして一層の活氣を呈するものである。



商業については本縣各地に生産されたものが如何なる経路によつて販賣されるか、又如何なるものが他より買入れらる、かとの關係を明瞭にする。其れが取引の中心地、交通系統に如何なる程度に支配されつゝあるか、又貿易については裏日本第一の貿易額を有する伏木港に就きて精査し、如何なるものが輪移出され、輪移入されるか、其の取引地との關係は勿論、本縣産業界の益々活氣を呈すること、交通網の發達が伏木港の貿易額を増大せしむる原動力であつて、其れが延いて本縣商業界の盛衰にも影響を及ぼすものである。

#### 交通について

地勢及び産業が如何に交通の發達に關係あるものであるか又交通系統の完備せらるることによつて、其の土地が如何に開發されるものであるか、其等の有機的關係を考察せねばならぬ。各種道路網、既設鐵道の現況（將來開通せんとするものも附加する）航路は伏木を中心として國內各地に通ずるは勿論、對岸のシペリヤ方面にも延長され、尙ほ縣内の沿岸航路、水陸連絡の状態等、本縣の河川は内陸水路として殆んど何等の價值なきの現況である。富岩運河、高伏運河の開鑿も計畫されつゝあるも未だ實現せず、其の發達は將來にあり、加ふるに河川の氾濫によりて、道路及び橋梁の破壊さるゝも

の多く、其れが修繕費は意外に多く、本縣土木費の多額なる點が延いて經濟上に及ぼす影響の大なることも知らねばならぬ。近時俄かに發達したる自働車網につきは、縣内は勿論他府縣との連絡關係も明かにせねばならない。尙ほ郷土を出發點として他府縣（特に本縣と密接の關係を有する）との交通系統は一層明瞭にしておく必要がある。

#### 都邑について

本縣都邑の分布状態を明かにし、如何なる土地に人口が多く密集するものであるか、地勢との關係、産業及び交通の發達と聚落との關係、都邑發達の要素等につきて考究させ、地勢、産業、交通等の部に於いて適宜これに關聯せしめた都邑の取扱ひをなさねばならぬ。富山及び高岡は其の兩地が相遠からざるにもかかはらず、共に都市として發展しつゝあるは如何なる理由に基づくものであるかを究める必要がある。

#### 本縣人の氣質について

郷土の發展は其の土地の住民の氣質にも重大なる關係を有するものである。而して人の氣質は地勢及び氣候に關係することは勿論である。本縣の地勢、氣候は如何なる氣質の人物を養成するかを考察し、他に發展せる人々の特徴をとらへ、又縣人は現在如何なる氣風を有するか、他府縣人との比較に

よりて其の長所短所を知り、吾々が日常生活に於いて實驗せる事についても考究し、よく其の短を補ひ、長を益々發揮する様に努力せねばならぬ。

#### 雜感

本縣も狭いやつであつて、廣いものである。故に郷土として眺めたる場合、縣内と雖も兒童にとつては未見未踏の土地が多いのである。其れは單に兒童のみならず教師に於いても全部は足跡を印してゐないのである。要は指導者の用意周到なる地理眼の養成と豊富なる教材資料、確實なる實地踏査が甚だ大切である。未見の土地では他府縣を指導すると何等の變りがないのであつて、縣内に於ける位置の如何によつて、其の土觀に多少の變動を生ずるものである。故に其の土地に最も適應した郷土地理の細案をつくり、其れを基本として徹底的に基礎觀念を養成し、眞に地理科教授の根柢となるやうにせねばならぬ。郷土地理の最初の基礎は是非低學年に於いて養はなくてはだめである。尋四の終りや、尋五に至つてはじめて指導しても何等顯著なる好果を得ることは出來ないのである。我が區域に於いては郷土化は低學年よりの主義の

下に國語讀本にあらはれたる地理上の教材につきて研究し、夙に讀方學習の中に加味し着々として基本觀念の養成に資してゐるのである。但し讀方本來の使命は何等没却するものではない。

郷土としての富山縣を指導したることによつて、日本地誌教授の基礎が全部完成されたものと思ふは大なる誤りであつて、本縣としては充分基本觀念を與へ難き場面もあるが故に他府縣の學習によつて相互の聯絡等よりして其の不充分なところを補つて行かねばならぬ。又四時間位の指導によつて郷土としての取扱ひが終つたと思ふも誤りであつて、今後地理學習の際には要所々々に於いて絶えず郷土との關係を忘れずして學習を進展せねばならない。要するに指導者が各自己の擔任せる兒童を見つめての郷土觀及び其の指導細案なるものが最も有效なるものである。故に吾々は只斷片的な理論のみ没頭することなく、眞に底力のある眞劍なる研究によりて地理科教授の實績をあぐる様に最善の努力を捧げねばならないのである。



## 中新川郡水橋區域研究會

西水橋校

酒

井 平

正

地理科に於ける郷土の取扱ひに就ては、私等は早くからその必要な所以を説き聞かされ、又實際に當つても常にその必要を痛感してゐたのである。理論は既に聞き飽いたが、さてそれを如何にして實地に取扱ふべきかと云ふ問題に到達すると、はたと當惑するより他なかつたのである。勿論色々の方法をも見聞き、又は讀んだが、それ等は大てはおきまりの無責任な抽象論か或は郷土地理としての一部分の目的にしか沿はない體裁だけの華々しい方法に過ぎなかつた。直ちに取つて以つて行ひ得るものもなく、これこそ其の價値を信頼出来る方法にも、寡聞にして未だ接することが出来なかつた。ぢみでい、から既に定論となつた郷土地理の理論を實際化するのが私等の仕事であらうと思ふ。

### 郷土としての富山縣

「郷土としての富山縣」を兒童に如何にして關係せしめ、それによつて地理教育の目的及廣く教育の目的を達しようとする

るのが、地理科に於ける郷土としての富山縣の取扱ひであるのが、地理科に於ける郷土としての富山縣の取扱ひであるとしたならばその陶冶材としての富山縣と兒童とを如何に交渉せしめるかが取扱ひの方法である。しかし私等は其取扱ひの方法を考へる前に先づその陶冶材自身である所の所謂「郷土としての富山縣」に就いて考へる必要がある。更に又地理教育上に於ける所謂郷土といふものと、行政区劃である富山縣といふものが全く同一が否かといふことも考へねばならない。

所謂郷土地理の目的が單に地理學習の態度をつくるための基礎陶冶の手段のみであるならば、實地を見聞し易いと言ふ點に於てのみ郷土は陶冶材としての價値があるのだから必ずしも富山縣と言ふ行政区劃に拘泥する必要はない。近くて模式的な所でさへあつたらよい譯である。更に又實際生活に必要な知識を與へるためならば環境により富山縣以外にも更に知らせねばならない所もあらうし、愛郷心の養成も必ずしも

富山縣を單位として行ふべき必要もないであらう。従つて地理教育上に於ける郷土としての富山縣は必ずしも行政区劃と一致するものでもなく、強ひてさうする必要もないやうに思はれる。唯兒童の生活・能力程度・環境等に應じしよろしく取捨するべきである。しかし地理科は本來自然科學を基礎としたものであるから、地理科の研究對象となる場合郷土は地理的現象の研究に便利な一單元であるべく、そのためには本縣は三面に山を廻らし一面に海を控え、その廣さからしても、一單元として研究の對象とするに適當である。

それならば其の富山縣の何を教材とするか、陶冶材自身である富山縣の地理はどうであるかと言ふことになると不敏な私は先づ當惑するのである。私の郷土では本縣の地理に就ての研究の困難さを歎せざるを得ないのである。富山縣案内・産業統計・新聞紙或は其他の種々の調査等の資料に依つて出来るだけ本縣地理を研究しやうと思ふが、——勿論科學としてではなく、最少限度の郷土地理學習の指導に必要なだけの教材に就いての研究だけでも完全にしたいのであるが、すべてこの問題に先だつて解決されるべき教材の研究が、私にはまだ出来ないのである。私は自分の未知の世界があまりにも多いことを知つてゐる。私のまだ知らない世界により以上の

教材があるのではなからうか、生れてからまだ見たこともない大海がありはしないだらうか、否必ずあるに違ひないと思ふ。私は私の子供のために、學習能率の上から、そして又私自身のためにも私の井戸よりも更に大きい海に就いて知りたのである。私は小さな自分一人の力で、そして姑息な研究によつて知り得た教材を以て兒童の前に立ち、堂々と郷土地理を云爲すことはもう一日も忍びなくなつたのである。その意味からしても今度の協議會が各自の區域に於ける郷土地理教材の研究を持ち寄つたのであつたら、その資料によつて富山縣地理の研究が完全に出来たらどれほど嬉しいだらうと思ふ。それが完成するまでは矢張り今のやうに郷土地理教育は遂めて少數の地理研究者によつてのみなされるか、或は不徹底な姑息な手段によつて一時を糊塗されるに止るであらう。

### 學年との關係

教科としての地理科特設の必要に就ては既に定論となり實際問題に移されつゝあると聞くが、私も亦痛くその必要を感じる。元來地理教育上に於ける郷土の取扱ひは初めから單なる地理として切はなされて取扱はるべきものではなく、総合的な場合に於ける郷土の地理的取扱ひは地理學習上の基礎陶冶をするための手段として取扱はれるべきではなく、地理科



そのもの、本質的使命の上から取扱はれるべきである。その場合その場合の地理科は地理とか歴史とか、言ふ分科的に取扱はれるのではなく、更に、総合的に關聯に取扱はるべく、地理科の本質的使命もそこに於てはじめて達せられること、思ふ。

兒童の郷土といふものに對する觀念は就學前に既に形成される。それは大人のやうな判斷として統制ある觀念ではないが、形式的に整然としてゐないだけで生々として居り、價値未分の渾然とした旺盛な生活のものである。彼等の郷土の事物に對する精神活動はすべてのもの、尊い萌芽である。私等は此の萌芽を正しく健かに育しねばならない。彼等の激刺た精神は絶えず郷土の事物に對して活動してゐる。此の活動を正しい方向へ助長するのが所謂生活指導であり、直觀的指導であり、個性の尊重であると信ずる。此の意味に於て私は出来るだけ地理・歴史・理科等と分れない前の総合的指導、分科學習の價値を尊重する。あまりに早く之を分科せしめ、郷土地理・郷土歴史等と區別することは却つて彼等の旺盛な精神活動を萎縮せしめ形式化するの恐があると思ふのである。少くとも四年位までは総合的に指導者の細心の注意の下に適當に指導されるべきであると思ふ。私は敢て適當と言

ふ抽象的な言葉を用ひる。郷土と言ふものが區々であり。兒童の個性と言ふものが否定出来ないものである以上、それは一定の方法・一定の細目によつて指導出来るものではない。或は郊外散策に、或は遠足に、そして又教場に於ける一齊教授によつて、又は讀方教材と連絡しあらゆる機會に絶えず兒童の直觀を指導し、考察せしめねばならないが、それ等は全く指導者の適當な機智によつて指導されるのでなければならぬ。得られないことが多いからである。そこに又我々の仕事の困難さと葛さがあるのではなからうかと思ふのである。所謂郷土地理の目的の一である。讀圖力の養成等は少くともそれまでに平面的にだけでも相當讀めるやうにしておかねばならないと思ふ。一體地圖を五年になつて初めて使用させるべきはとは限らない。早く三年頃から使用させるべきであると思ふ。

四年までに右の指導が充分に出来たら、學習態度は今更五年から慌てなくとも、すこしの注意さへしたら出来る筈だ。然しこれまでの學習の對象たる郷土の地域は見聞し得る範圍に限られ、特に何等の限定をうけて居ないし、その研究もその都度であるから、科系的な系統もなく整理もされて居ないが、五年かは特に地理も教科として加はるからそれに併行ら

して、富山縣全體を對象とする科學的研究法に依る郷土地理の學習が行はれてよい。

郷土地理即ち富山縣は日本總論を終つた次に取扱ふべきであるが、同じ郷土として富山縣でも各その地方の状況により特異の地理の様式を呈するのである。勿論これは判然と區分されるものではないが、今後の地理はそのやうな地理區即ち地理的單元によつて地人相關的に學習を習めねばならない。即ち自然地理の方面からは大體三の地區にわけられる。第一は東から南西に亘る山地帯で立山山列及飛驒高地・寶達山脈によつて形成され、諸川の水源をなし本縣の氣象生物人文等に對して大きな影響を及ぼしてゐるのである。第二は山麓線を界してそれに續いてひろがつてゐる諸川流域の沖積によつて構成されてゐる。所謂越中平野で、産業・交通・商業・聚落等の文化地帯をなし、本縣の寶庫であり肉である部分である。第三は海岸地帯で平野地方と畧々その事情を同うするが富山灣を受けて特に人文方面に於て著しく異つた情況を呈するのである。更に縦走丘である奥羽山一帯の丘陵によつて富山及高岡の二都市を各その中心とする二大人文的地區に區分して前者と經緯せしめることはより價値のあることであらうと思ふ。

富山縣を終つたならば次に中部地方に移り日本海岸地方、太平洋岸地方・中部山岳地方と順次その考察をす、めて行くべきであるが、勿論本縣を取扱ふ場合にも中部地方全體或は日本全體と關係づけ、中部地方は郷土たる富山縣が演繹的に關係づけられて取扱はるべきである。

富山縣は日本の總論をなす前にも考へられるが總論は總論としての使命を果さしめる爲にはやはり最初に置くべく郷土地理によつて基礎陶冶をする必要も前述の理由からしてそれ程重要とも考へられない。更に又富山縣を先にとんで取扱つたことの理由の第一は、近より遠に及ぼして比較推理せしめる都合上便利であり、第二に地理學習を郷土を中心として發展させる都合上便宜なためでもある。第三に讀圖其他の地理學習上の態度を養ふに就ても兒童が幼時から親し觀察してゐる郷土によつてなすのは非常に容易であり、そしてそれはなるべく初めになれることが必要であるからである。又消極的の方面から考へても關東地方を先にすると言ふことは日本の文化的中心であるからとの理由の他に大なる理由が見えないから、それを前後することに就ても大した不都合もないと思ふのである。

従つてそれから他地方の學習に移つても絶えず郷土の地理







麥は米作に比すれば、甚だ少く、作付段別の如きは、毎年減少の傾向なり、これ本縣は灌溉排水の便あり、耕地は水田多く麥作に不便なるためなり。

ハ、大豆、小豆

大部分は田圃の畦畔、山間地方、畑等に栽培するのみなれば、他に比して産額が少い。

ニ、甘藷

豆と同じく山間地方又平地中灌溉不便の地に多く栽培せられる。

ホ、茶

茶は各地方より産出するも、婦負郡最も多くして、全産額の二分の一を占む。

2、牧畜業

從來本縣は牛馬の飼養少く、家畜の蕃殖方法を講ずることなく、之がため供給常に不足を告げ、他縣より購入せざるを得ざる状態である。然れども近時蕃殖或は、改良に關し各種の施設を怠らず畜産上の計畫をたて、之が獎勵に努めたる結果今や著々其の歩を進め發達の機運に向つて居る。

3、林業

本縣の森林は維新後濫伐せられ、林相次第に荒廢を極め之

低人口問題等種々の原因から考察せしめるが、要するに一般商工業の發展興りて力あると言はなければならぬ。

ハ、主要工業物としての賣藥、織物、清酒、製造肥料、製材、西洋紙等概況を知らしめ、各産物のグラフ、或ひはドットマップを作製して提供すること。

ニ、工業上の施設としての羽二重検査所、度量衡検査所、富山縣工業試験所、染織工業試験所、工業會、工業上の會社等あることを知らしめる。

ホ、電氣 本縣は天與の恵みにて、本邦屈指の電氣縣なること、及び將來一大工業國を建設し得る力あること。

6、商業

イ、何れの地方にありても維新の當時までは商業の如きはその封土内のみにて、他をかへり見なかつた。殊に本縣は北陸の一隅に偏し、東に親不知の險、西に俱利伽羅の難關があつて交通不便なることと、農業に重きを置いたために商業の發達遅々たるものであつた。然れども維新以後、陸に鐵路、海に汽船あつて、運輸交通至便、貨物の集散年を逐ふて繁劇し、銀行は金融を計り、會社は商運を助ける等、産業勃興し、地方の物産、海外へ輸出せらるゝもの年を逐ふて増加するの氣勢を呈するに至つたこと。

がため獨り用材薪炭材の缺乏を來したばかりでなく毎年洪水の慘害を蒙るため、山地の現状を調査すると同時に、森林繁植の獎勵をした、毎年これを伐採し復其の他の便で、縣内の需要を充して居る。

4、水産業

北の一方のみ海に面し、海岸線の延長漸く三十里に過ぎない、其の屈曲甚だ少しと言も、能登半島の突出によつて、一大灣をなし、海岸線短きに比し漁獲高の大なること、各府縣中其の比を見ない、元來本縣の沿海は魚族の棲息及び蕃殖に適する箇所多く、隨つて其種類に富み、太平洋に於ける沖合十海里にある魚類も、我が富山灣に於ては僅かに一二海里の近き範圍に棲息する有様である。近時露領沿海に出漁する者漸く多くなつてきた。

5、工業

イ、工業は本縣各種産物中第一位を占め近年長足の進歩をなし年總額九二〇〇萬圓に達して居る。然し原料生産者よりも製造販賣者の増加するのは近時の大勢であるを知しめねばならぬ。

ロ、近年農業人口が次第に減少し商工業人口が之と反對の増加するやうになつた現象を、勞働状態の差異勞働賃金高に

ロ、商業上の施設としての銀行、會社、商工會議所、米穀取引所、産業組合等あることを知らしめる。

7、鑛業

イ、本縣の鑛業は地質の關係から鑛産物は頗る微々たるものであること、主要鑛産物としての黒鉛につきて知らしめる。ロ、立山地獄谷の硫黄はあるが種々の地理的關係から放棄してあることを知らしめる。

(四)交通

本縣の交通を單に本縣の交通として授けずして本縣の交通と全國交通との間に如何なる脈絡を保つてゐるかといふことを念頭においてかゝると共に交通は如何に自然特に地形に關係してゐるかを考究する必要がある今陸路水路に分つて意見を述べん。

1、陸路交通

イ、道路交通

本縣の主要道路の現勢を知らしめ且つ其の分布は如何に地形に支配されてゐるかを知らしめ地勢の峻峻河川氾濫か如何に本縣道路費を大ならしめるかを知らしめ尙ほ近年登山熱高潮せしため山間地にも侮るべからざる道路が設けられる様になつたこと。



ロ、鐵道交通

本縣の鐵道について官有、私有總ての現勢を知らしめ特に左のことについて觀察せしめたい。

停車場

停車場の前に旅館、運送店、飲食店、人力車、自動車、電車は鐵道と連絡して旅客貨物輸送のために盛に活動せる状態等を觀察せしめて如何に該停車場が本縣開發のために至大の貢獻を寄與しつゝあるかを明かにすると共に、本縣主要停車場について發着する一日の列車回数乗降する毎日の平均旅客數毎日平均運賃收入等を知らしめ。本邦名停車場と比較對照せしめ將來を考察させたい。又學校に最も近い停車場の時間表賃金表の見方切符の買ひ方手荷物の托送方等の如き乗車に關する實際的方面についても指導しておく必要がある。

2、水路交通

イ、河川の交通

本縣の河川は地形の關係上急流多く分水界高きために舟便は大々的のものはなく稍々帆船の便及び筏便があるに過ぎない故に現在としては本縣の河川は内陸水路としての價値は殆どなく其れは寧ろ將來にある。即ち他日富岩、高伏運河の開通された曉に於て一大發展を見るであらう。

4、各河川の沿岸又は河口に都市の發達せる原因を研究せしむ。

5、富山市と高岡市とは相接近せるに拘はらず縣下一二の都市に發達せるは如何なる理由に依るか、且つ富山市と東岩瀬港、高岡市と伏木港との關係。

6、今參考の爲め地勢産業交通の方面より考察すれば次の様である。

- 鐵道の要地として都邑、三日市、滑川、富山、石動、福野
- 海上交通の要港としての都邑、東岩瀬、新湊、伏木
- 賣藥製造業地として富山、商工業地としての高岡
- 漁港としての泊、生地、魚津、滑川、氷見
- 養蠶地として、八尾、五ヶ山下梨
- 織物業地として、城端、福野、富山、戸出
- 宗教地として、城端、井波、伏木
- 保養地として、泊、宇奈月、山田の各温泉
- 厩氣樓來遊地として、水橋、以東、滑川、魚津、生地

(六)人情風俗

ロ、海の交通

本縣は大きく然も深い富山灣を擁してゐるが港の發達はよくない其の理由を明かにし且つ代表的の伏木港について左の點を知らしめたい。

埠頭防波堤等の諸施設。

船舶の職態と此れが種類並びに長短。

構造形式を以て標準としたもの(和船、洋船)

動力の種類を以て標準としたもの(帆船、汽船)

燈臺について。

航路の種類。

定期航路、不定期航路、命令航路、自由航路此れの何れに屬するかを考察せしめ何故斯くの如き航路が開けてゐるかを考察せしむること。

(五)都邑

1、富山縣の都邑分布の状態現狀を明かにし各都邑の發達要素を研究せしめたい。

2、主なる都邑は平野に分布せる理由を地勢産業交通等より地理的原因を考察せしむ。

3、平野の中央部に於て人口の密度大なること、下新川郡は面積の割合に都邑の少なきことは如何なる原因に基くか。

人情風俗とその地の自然とが密接不離の關係を有することを知らしめようとして次の項を擧げる。

1、他に種々色々の原因もあるが北國の長い冬、雨の日、曇、天の日多い此の自然に支されて縣民一般が快活性を缺いてゐること。その具體例として關東方面の言葉と本縣とのアクトを擧げる。

2、然し又一面此の自然の影響を受けて本縣民が何事に對しても直ちに諦めると云ふことのない、忍耐穩忍辛抱の精神に富んでゐることを知らねばならぬ。辛抱強く勤勉であるから富に於て成功者のあることを知らしむ。

安田善次郎、淺野總一郎、馬場家

3、曇り勝の月、灰色の冬は長から室内に閉ぢ込められざるが多。故に何事も室内で行はれる。犯罪にして大なるものとは少なく賭博の如きものが最も多い。

4、農民が大部を占めてゐるから一般に質朴である。

5、宗教心の強いこと。



### 中新川郡五百石區域研究会

目 桑 校 山 林 重 作

#### 緒 言

##### 第一

富山縣尋常小學校に於て本縣地理に對して特殊に研究し特別なる考慮を拂つて教授することは最も緊要なることである。蓋し地理現象を理解させるに當つて考へねばならぬ問題は一々學ぶべき地方を踏査して研究するのは理想ではあるがそれは不可能なことであるから直観し得る郷土は別として觀察することの出来ない遠隔の土地の真相は教師の説話教科書又は地圖繪畫標本等の教便物の力を借りて理解させる外はないのである。されば郷土以外の地理はすべて兒童の想像判斷の基礎をなすべき確實な根本的の觀念を養ふことが必要となつて來るのでこの目的を達する爲めに郷土地理の必要を認るのである。

##### 第二

本邦地理を明瞭に理解させるために本縣地理は重大な任務を有つてゐる。即ち他府縣地理學習上明瞭なる基礎的知識と

なること他府縣と自己の日常生活や社會活動との交渉を明にすること等地方誌を學習するに當つて本縣地理は常に其の背景となつて理解を明瞭ならしめ延いては本邦國勢大要に關する明瞭なる理解を得させ且つ自己の生活活動の改善進歩を具體的に考察する爲に本縣地理が重大なる價值を有つて居る。尙郷土を充分理解させるによつて愛郷心の養成することが出来る。此の如く本縣地理教授は重要な意義を有するものである。

##### 第一 國語科地理教材との連絡

尋常四學年の修了までに國語讀本中又は理科教授中に表はれたる教材にして地理の基礎觀念養成に資すべきものは少ない。私は是等の教材に對して確實なる立案の下に精細な調査をなし親切に指導することは最も必要であると思ふ。

##### 第四學年までの讀方に連絡すべきもの

#### 卷 課 題 目

三の二 右と左	地 理 要 項	右 左	記 載 事 項	注 意 事 項 並 に 觀 察 場 所
三の三 まはりつこ		わかれ道、ちか道、本道、	手に左右あり、足耳目にも左右あり	手によつて左右概念を知らしむ
三の四五 四方		東西南北、村の様子を知らせる		道には近道分道、本道のあること
三の五六 村		神社、役場、小高い學校、川村、新道		高位の觀念を明確に實地觀察等によつて
三の二五 ふじの山		ふじの山の高いこと、美しいこと		鳥瞰圖の見方を知らせる、校外教授
四の七 私どもの町		町の有様		ふじの山の高いこと、美しいこと
四の二三 みはがき		みはがきの繪について		町は文明の利器備はり交通、便利工業發達状態を知らしめ進んでは模型により略圖せしむ
四の四 お話二つ		山國、海國の地勢について		東京の飛行船のさぶこと
<b>第 三 學 年</b>				
五の一〇 遠足		地勢を地圖によりて知らしむ、地圖の讀方		自然現象に就いて遠足に付帶して地勢觀察せしめて地圖の讀解せしむ
五の一四 雨		降雨原因		富山縣の雨量
五の一五 養老		瀧の原因		岩室瀧、稱名瀧、大岩瀧
五の一六 日本三景		三景について、島州神社觀念		自然の美について
五の二六 東京停車場		車京狀況		東京停車場の内容と文明の便利なること
六の二 日本の高山		日本の高山及び名山について		日本高山及び名山に就いて、頂上、坂路、高さ、分水界山と平野等を郷土の實地につき觀察せしむ
六の六 くりから谷		古戰場について		
六の一〇 弓流し		同上		
六の一八 加茂川		川の名所の名稱と都會の成因につき		地勢位置について
六の二六 伊勢參宮		伊勢神宮の位置と有様		京都地圖、加茂川の位置と兩岸の景色川について

#### 第 四 學 年



七の一	世界	世界地圖の理解地球の觀念、地球儀 三大洋 六十餘國 六大陸 三大強國
七の三	横濱	日本地圖、讀解力養成 東京との關係、貿易港發達
七の四	潮干狩	海の觀念、海棲動物 名所舊蹟
七の六	鎌倉放め	河口、三角形、都會の發達と地勢交 通との發達關係、同港、都邑、
七の九	大阪	市街の狀況地勢と發達關係、開港場、 都會の發達と交通の關係、附近の狀 況
七の一〇	朝鮮人參	交通、航路、鐵道の連絡航路標識、 世界交通圖の讀解
七の一六	航海の話	海の富源、水産發達、氣候觀念 大河の觀念、及び其の郊用
七の一九	海の生物	朝鮮特産物について 合衆國の特長
八の五	揚子江	大都市の發達について
八の一〇	朝鮮人參	
八の一八	アメリカ便り	
八の二三	名古屋市	

第二、理科と地理教材との連絡

學年額目	要	項
四、雞	卵、飼育	
五、蚕	繭、生糸	
川	流域傾斜	

日本亞細亞大陸の東部にある島  
國三大強國の一なること  
横濱の位置一大貿易港輸出入品、輸  
出入國  
魚介海草海獸  
稻村崎、極樂寺  
難波、仁徳天皇の都商業益大なる會  
都、工業益大、淀川流れて海に入る  
港、船出入  
大連民政署、上下水道、滿鐵會社、  
商工業の盛況、南滿州鐵道、港、輸  
出入、品埠頭、設備  
汽船、軍艦、海岸の松原、山、日の  
出、日の入、鯨、飛魚、外國の港、  
暴風雨のとき山のやうな波、大雪、  
霧の時、一寸先も見えぬ、淺瀬、汽  
笛、羅針儀、星、燈臺  
常願寺川、神通川等、  
國際關係を知らしむ

方位、地球の觀念、世界に於ける日  
本の位置、海洋位置、境界、  
郷土に於ける港と交通運輸の狀況、  
港の設備(波止場棧橋)  
動物園、水族館、海産物、販賣店、  
地勢と名所舊蹟  
大阪の地圖、築地の模様  
商工の大都會、築地の模様  
市街の模型、南滿州地圖  
港の設備、波止場棧橋  
模型、世界地圖、海圖について、海  
灣、岬、島半島、海岸線を知らしむ  
海國思想の養成、海國の國民

富山縣地理教授要項

本縣産卵年額一七萬圓  
本縣ニ産スル年額生糸八〇萬圓  
富山縣河流と流方發電

本縣ノ米産額年百六十萬石

種類産額

第一 地圖 地圖に關する觀念を興へること

- 一、平面圖
  - 1、側面圖と平面圖
  - 2、地圖は土地の平面圖なること
  - 3、縮尺の必要なきもの、平面圖
- 二、縮尺と縮圖
  - 1、縮尺と其の必要
  - 2、縮尺の必要あるもの、平面圖(縮圖)
  - 3、教室の實測其の縮圖
  - 4、講堂の實測と其の縮圖
- 三、方位
  - 1、四方

海 海岸  
稻 品質改良、調製に注意すること  
稻の收穫 本縣に適し産多し年額十六萬圓  
柿  
六、蝦 産地、立山  
麥 高岡の銅鐵器  
硫黃  
銅

第三 富山縣地理教授

1、教授の時期

地理を授ける時期については日本地理に移る以前に本縣地  
理を授けるに對しては必要とする者と不必要であると言ふも  
のとあるが余は郷土地理たる富山縣地理を尋常四學年に配當  
一年を通じて毎週一時間づつ、授ける。そうしると約四十時間  
はあるから満足出来る程度に授けることが出来る。そうなる  
と日本地理富山縣の部に至ればいらぬことになるがこれまた  
捨つる能はない重寶な時間で即ち主要教授であつて日本地理  
教科書中の本縣の部に至れば復習をなし經濟地理の補足他府  
縣との連絡關係縣勢比較等に力を注ぐことは最も大切であ  
る。

2、教授事項



2、中間位

3、方位と地圖(地圖では北を上として書く約束を話す)

4、方位の測定(磁石を使用して實際の測定練習する)

四、土地の高低  
山の側面圖を描きそれから同高線式に次に毛羽式濃淡式の描法を教へる

第二 學校

1、學校の校舍 校地の平面圖

2、面積(學校の面積)

第三 地理的用語の理解

校下の土地を利用して 坂 小山 頂 麓 山腹 池 谷

第四 學校の歴史

1、校地の變遷

2、學校の沿革大要

3、現在校地の歴史

第五 學校附近

1、山脈 分水嶺 平野 流域 森林

2、白岩川 右岸左岸 水源 支流 谷

3、學校附近断面圖の製作

4、方眼描法

第六 東谷村地理

1、村の位置

2、面積人口

3、隣村

4、産業 米 木材 炭

5、交通 縣道郵便箱 切手賣捌所

6、自治制 町村役場 巡查駐在所 白岩八幡宮

第七 滑川港

1、位置

2、地勢 海岸 灣 岬 港

3、交通 道路の大小 鐵道 北陸線 立山輕便鐵道

自動車 荷馬車 停車場 倉庫 運送業

4、商業 銀行 魚市場

5、工業 瓦斯會社 製藥會社 硝子製造所

6、教育 高等女學校 水産講習所 小學校

7、櫻原神社(縣社)

第八 富山縣の自然地理

海岸 富山灣 海岸線

其他名所等 雨晴 大岩 蟹氣樓(滑川、魚津) 螢島賊

(滑川)

第四 富山縣地理教授と修學旅行

單に説明によつて教授するよりも具體的材料によつて具體的説明をなすは效果著しくそれよりも實地の觀察によるはその地の自然現象や地人相關の理をよく知れて地理教授上最も宜しい。故に少くとも春秋二期に修學旅行を舉行して實地の觀察指導に努めなければならぬ。

第五 結 論

富山縣地理の教授は地理科に於ける教授と讀方理科に於ける連絡教授では満足することは出来ない。宜しく國史科にも關聯せしめ統計的數字のことは算術科の材料として綴方に於てはよく觀察し收得したる所を發表せしめて目的の徹底に努めなければならぬ。

第九 富山縣の人文地理

都會 富山市(縣廳) 高岡市 魚津 新湊 水見 石動

港 伏木 東岩瀨(貿易港)

産業 米(平野) 賣藥(富山) 織物 水産物(富山灣)

酒 生糸 繭(山地) 銅鐵器 漆器(高岡)

交通 北陸線 中越線 富山縣營鐵道 立山鐵道 金福

線 飛越線

教育 藥專學校 高等學校 高等商業學校 師範學校

中等學校 高等女學校 實業學校

軍事 第九師團管下第三十五聯隊

區劃 二市八郡

下新川郡魚津區域研究會

魚津校 森野富治



先づ此の問題について一考察を試みてみよう。今郷土といふところに重きを置いて考へるなら、即ち普通郷土を兒童の見聞範囲とか、生活範囲とか言つてゐるが、兎に角兒童の地理の基礎づけとして取扱ふ郷土といふ意味に取れないことはない。その場合の富山縣としては勿論兒童の地理觀念の乏しい時であるから、その範囲は極く狭いものとなり、なるべく兒童の生活に結びつけ得るものから撰擇することになるから富山縣といふことは軽く考へることになる。次に富山縣を如何に取扱ふべきかといふ「富山縣」に重きを置いて郷土といふ觀念をその中に含まれたものとしても考へられる。その場合の取扱は富山縣の理解を主とし、出來得る限り其の特徴を明瞭ならしむるものであらねばならない。而し單に特徴を明瞭ならしむるばかりでなく、一般に富山縣の本質に觸れてよく理解せしむべきものである。而して此の場合は地理を相當理解した時に取扱ふべきものである。

## 二、

次にこれを目的の上からなげめると、實質的及び形式的の兩方面から觀察することが出来る。即ち基礎觀念を賦與する方便として郷土を正しく理解せしめやうとするのは實質的と

見られ、更に愛國心の源泉たる愛郷心の基礎を確立せしめると共に彼等の立場を自覺せしめやうとするものは形式的とするのである。

## 三、

郷土の範囲については各人の立場が異なるに随つて其の廣狹が一定しないので、そこにいろいろ意見が生ずるであらう。これにはなるべくせまい範囲に於いて地理的要素として知つておくべきこと、即ち基礎となるものを持つて來るといふ意見と、あまり範囲が狭くなると、個々のものになり易く、時には理法的關係を切れ／＼に提示することになつたりして、相互の有機的の連絡を破壊する恐れがあるといふので、地理的單元となるべく大きくするといふ意見もある。而し前者に於ては大てい町村等が基準となり、後者に於ては郡又は縣を一單元とするものである。又種々の目的による數個の核を選定して、各種のグラフを作り、それを郷土の範囲に決定するといふ意見もある。

## 四、

地理科の初歩に於ては彼等の見聞の最も廣いもの、親しみの深いものから第一歩を踏み出すものである。斯様な點から出發點を我が地方では最も廣い眼界を有する天神山に採る

のであるが、此處からは富山縣の地勢を畧々一目に見下される點に於いて、地理教育上どれ程便利であるか、想像する余りあると思ふ。即ちこゝに於いて地文に關する事項を研究する。更に川や海や山や平地が人文に如何なる影響を及ぼすかをしらべて研究を進めるのである。だが彼等に先づ地圖描寫を研究させる。勿論彼等は富山縣の地形を見た丈では地圖を畫けるないのである。そこでいろいろの参考書を持つて來たりして、彼等の地圖が出來あがる。ところがいろいろ参考書を見たり、或は説明を聞いたりしても、彼等の描いた地圖を見ると、骨格なもので其の一番缺點は縮尺の觀念のないことである。こゝに於いて地圖に縮尺の必要なことを先づ痛感する。斯うして山や川や、鐵道などがはいる。しかし何の爲になるのかをまだ知らないで、唯此等のものが忙然と地圖をあらはれてゐるに過ぎない。彼等はたゞこれを見守つて次に爲すべき術を知らないであらう。そこで我々は山や川の理法説いたところで當底彼等に徹底するものでなく、なつて益々忙然として來るのであらう。こゝに局面を轉廻して彼等の日常生活に必要なものは何であるか、試みにたづねて見る。即ち「衣・食・住」のうち食物、ことに米は日常必須なものである。その米が何うして出來るか、そこに平野が必要であり、川（灌

漑）が必要になつて來る。斯様に人文と地文とを結びつけて、次第にその關係なり理法を教へて行つた方がわかり易いかと思ふ。

なほ愛郷心の養成に努めることも必要である。日夕相親しんでゐる郷土の山川風物に對して、自ら愛着の念を發するに至るは人情の自然である。しかし眞の愛郷心は郷土を改善し少しでも向上發展せしめ様とする努力の伴ふ愛でなくてはならない。而し偏狭な排他的のものとなつてはならない。常に郷土觀の擴張といふ方針であらねばならぬと思ふ。

## 五、

次に富山縣として一般的の事柄を畧し、私等として取扱ふべき特別のものを擧げてみよう。

先づ富山縣の位置、廣袤について明瞭ならしめておく必要がある。次に地勢の大體を知らしめる。特に山岳重疊せる越中連山について稍詳しく説明し、これが人生に及ぼす影響をも考へ合はさねばならない。古來武器の未だ發達せなかつた時にはしばしば高峻な山は戰畧上極めて重要な地點となつたものである。故に郡内にはその遺蹟は決して少くないのである。更に立山について、山頂の高度と共に色々峻拔なる姿を表現し、附近に住む人々に一種莊嚴な感を起さしめ幾多の壯



者、信仰者を誘つて登山の元氣を鼓舞せしめてゐるものである。近時また黒部峡谷も知らるゝに至つたのは一の神秘峽たると同時に河川として發電に利用されて一層その價值を加へたからである。

水力電氣は實に二十世期に於ける物質文明の母とも言はるべきもので、近時富山縣を河川に於いて至るところ發電を見られるのである。河川は一般に水量が割合豊かであるが、流が急な爲に舟楫の便に乏しく漸やく河口に於いて利用されるもの二川あるに過ぎない。灌漑に於いては水量が豊富であるから越中平野を濕ほすに充分である。

海岸に於いては半漁半農の生活をなす者極く少く、遠洋測量に従事するものが漸次増加して來た。けれども割合長き海岸線を有する富山灣に於いて良港の乏しいのは大なる缺點である。今後縣人の努力によつて良港たるべき箇所が多く出されるやうになるであらう。

なほ灣内には寒暖二海流があつて魚類の多いことは全國に於いても比類が少い。

氣候について一通り調べる。空氣の濕度について氣温と同様に人生に大なる影響を及ぼすものである。濕度大なる此の地方に於いては産業上に於いて殊に漆等を良好ならしめてゐる。

る。

なほ冬季積雪多くして野外の勞働を防らければ、人々は多く長い間家の中に蟄居してゐる爲め家内工業が盛となり、ことに漆器業等がこれに適してゐることになるのである。

一般に工場工業があまり發達せないが、我が富山縣は電氣王國とまで言はれてゐるのであるから、比較勤勉なる縣人の努力と、こゝに豊富なる電動力をあらゆる方面に利用することによつて、將來我が縣の工業も期して待つべきものがある。

其の他政治・宗教・郡邑・交通等に對しても考察すべき點は多くあるのである。

#### 六、

元來郷土なるものは其の考察に於ける對象觀念の如何によつて、その範圍が一定しないものである。而し郷土をよく理解せしめ愛郷心を喚起せしめることはやがて愛國心を養ふこととなるのである。小學校に於ける凡ての教科が皆郷土を背景として其の教授を進むべきであるといふことは何人も否定し得ない所であらう。愛郷心の涵養、更に愛國心の源泉として、最後にこれを教授の歸結點を見ても差支ないであらう。

### 下新川郡三日市區域研究會

若 栗 校 福 島 秋 藏

3、尋四第二學期より郷土科(一週一時間)を設置して取扱ふ事。

郷土を理解させ愛郷心の養成上

1、尋五地理學習に於ては、主として自然と人類との間に存する有機的關係について取扱ふ事。

2、尋五以上の地理學習に於ては、郷土の資料を利用し得る機會には何時でも利用する事。

3、他教科と連絡して取扱ふ事。

4、尋六に於て總括的取扱ひをなす事。

B、學習事項

基礎觀念の養成上

1、尋四以下の讀本に附帶しての取扱ひ事項

尋四以下(尋二以上)の讀本に出でゐる地理的教材の學習に於ては、成るべく郷土の地理的材料と關聯させ、且つ地圖の讀方を指導し、以て基礎觀念を養成する。

尋四以下の讀本に表はれてゐる主な地理的教材といふのは

一、はしがき

地理教育上基礎觀念の養成に資する所謂郷土といふものと富山縣といふ一地方とは必ずしも一致するものではない。併し凡てを實地に直觀する事が出來ないとしても、之が取扱ひの如何によつては、所謂郷土によつて養成せられた基礎觀念の不足を補つて擴張充實させる事が出來ると思ふ。

次に實際生活の一單位であつて有機的關係を有する富山縣を充分に理解させ、愛國心の源泉たる愛郷心を培養し、更に明敏なる觀察力を養成するには、郷土としての本縣を徹底的に理解させねばならぬ。以上の意味に於て次の様に取扱ひたい。

二、取扱方法

A、時期

基礎觀念の養成上

1、尋四以下の讀本に附帶して取扱ふ事。

2、校外學習・遠足・修學旅行を利用して取扱ふ事。



卷三、第十五 四方、第十六 私の村、第二十五 ふじの山  
第二十六 はごろも、

卷四、第七 私どもの町、第二十一 汽車のたび、第二十三  
春が来た、

卷五、第一 大日本、第十 遠足、第十四 雨、第十六 日  
本三景、第十八 峠から町へ、第二十六 東京停車場

卷六、第二 日本の高山、第十三 鮭、第十八 賀茂川、第  
二十 水すべり、第二十二 象、第二十六 伊勢参宮

卷七、第一 世界、第二 横濱、第四 潮干狩、第九 大阪  
第十六 航海の話、第十九 海の生物、第二十一 二  
百日日、第二十四 彼岸、第二十五 電報、

卷八、第五 揚子江、第十 朝鮮人參、第十八 アメリカだ  
より、第二十三 名古屋市、

甲、自然的方面

一、山地

イ、本縣の東・西・南の三方は山地をなし、東・南境には飛  
驒山脈・飛驒高原北部の山地が連り、西境には寶達山脈が  
南から北に走つてゐる事。

ロ、飛驒山脈の一部を成す立山連峰・白馬連峰について。

ハ、立山連峰が黒部川と、常願寺川・早月川・片貝川等の分  
水嶺をなしてゐる事。

ニ、白馬岳・鎚岳・僧ヶ岳・剣岳・立山・薬師岳等について。  
二、川

イ、黒部川・片貝川・早月川・常願寺川・神通川・庄川・小  
矢部川等。

ロ、一般に急流で、交通・運輸には利用されてゐないが、灌  
漑・發電に利用されてゐる事。

三、平野

イ、富山平野は海岸より山地にかけて、東西に長く連り、地  
味が肥沃で穀類、蔬菜類等の成育に適してゐる事。

ロ、本縣の都邑は殆どこの平野に集り、富山、高岡兩市はこ  
の平野の中心都邑で、陸上交通の中心地となつてゐる。

四、海岸

イ、富山灣は半圓狀の大灣をなし、小出入乏しき事。

ロ、海濱の大部分は富山平野に連り、低平なる爲め、海岸に  
は聚落が發達し、海上に生活する漁夫の居住地となつてゐ  
る事。

ハ、水産物として鱒、鱈、烏賊、鱒、鯛、鮪、鱈、鱈、鱈、鱈等を産  
する事。

ニ、砂岸で比較的淺海に於ては、東岩瀬や島尾附近の様に海  
水浴場として利用されてゐること。

ホ、伏木港について

1、小矢部川口を利用した良港であること。

2、港の設備(繫、船岸、突堤、燈臺)について。

3、港の廣袤、船舶の出入状況について。

五、氣候

伏木町にある測候所を見學させ、氣象觀測上の實際的概念  
を得させる。

乙、人文的方面

一、産業上

イ、富山平野の殆ど全部が水田に利用され、稲作に適する實  
際について。

ロ、水産物捕獲に使用する漁船、漁具、捕獲の方法について。

ハ、織物工場、ガラス工場等を見學させ、工業的知識を得さ  
せる。

ニ、商品陳列場にて、實際の商品について見學させる。

ホ、原動力の一たる水力電氣については最寄の發電所につい  
て見學させる。

二、都邑

イ、主要な都邑について其の位置、發達の原因、商業、工業  
の盛んな有様を知らせる。

ロ、特に政治、經濟、交通の中心地たる富山、高岡兩市につ  
いて、充分なる觀察をさせる。

ハ、宇奈月、大岩、雨晴等の史蹟、名勝の地については、自  
然、人文兩方面からその發展せる理由を考察させる。

三、交通

イ、道路の發達と交通状況について。

ロ、鐵道について。

1、本縣を東西に貫く北陸線について。

2、中越線、飛越線、加越線、富山、縣營、富岩、越中、  
立山、黒部等の各鐵道について。

3、尋四に於ける取扱ひ事項、

一、日本全國及び地方地圖によつて、郷土の位置、四周の縣  
との關係的位置について。

二、本縣地圖又は模型等によつて、管轄國名及び都市名等の  
區域を知らせる。

三、面積、人口及び人口密度について知らせ、且つ地理學習  
の基礎とする爲め、數量を記憶させる。

四、地勢の明瞭なる地圖や模型によつて地勢の學習をさせ



る。

- 五、位置、地勢と相關的に氣候について指導する。
- 六、産業分布圖、産額グラフ、實物見本等によつて、各産業の分布狀況、製産品、産額等を明確に學習させる。
- 七、都邑、交通の發達の理由と、其の有様の概要を學習させる。

八、概括的にまとめると共に地圖の描方を練習し、併せて地圖の讀方になれさせる様に指導する。郷土を理解させ愛郷心の養成上

1、尋五地理に於ける取扱ひ事項

五年の地理に於ては、自然地理や人文地理の學習をさせると共に、主として自然と人文との間に存する有機的關係を明らかにすることに努力する。

例へば富山市の學習に於て、單に其の位置、人口、繁榮の狀態を知らせるばかりでなく、更に進んで之が發達を見るに至つた原因、將來の發展振について推究させる。即ち之が發達を促したる、又は促さんとする、自然、人文地理上の交渉を詳かにする。

2、尋五以上に於ける取扱ひ事項

郷土の資料を利用し得る機會には、何時でも之を利用する

三、富山平野に於ける産業狀況、都邑、交通の發達せる現狀を明かにすることによつて、人類活動の有様を味は、しめる。

四、農業は縣人としての一般的唯一の産業であるが、耕地の開拓はその餘裕が殆どないことを知らせ、農事改良、品質向上、生産多量に、大いに努力することの大切なることを悟らせる。

五、養蠶業は他府縣では盛んに行はれてゐるが、本縣ではあまり盛んでない。農家經濟上から見ても、副業の一として桑を栽培し、益々之を盛んにすることの大切なること。

六、林業については、木材需要の増加につれ移輸入を仰いでゐる事を知らせ、山地を利用して植林を盛んにすべきことを覺らせる。

七、水産業は本縣の重要な産業の一で、しかも將來無限に發展させることが出來得る、最も有望な産業である所以を明かにする。

八、工業は近年長足の進歩をなし、今や農産を凌駕し、生産

といふ主張は、郷土以外の地理教授の際に郷土の資料をば、比較の材料又は想像や類推の基本として利用する。之によつて兒童の理解を容易ならしめ、徹底なさしめる。

3、他教科と連絡させての取扱ひ事項

地理の本質から見ると、地理教育は地理科のみにては、決して満足なる教育をなし得られない。郷土地理は地理教育の一部である、しかも最も重要な基礎をなすものである。故に郷土としての本縣を完全に教育するには、他教科との連郷が大切である。

例へば郷土讀本によつて、郷土の自然、産業狀況、人情、風俗を教へ、又數量教材を徹底させる爲め、算術と連郷を圖る等は之である。

4、尋六に於ける總括的取扱ひ事項

本縣の地理的材料を總括させ、縣勢を理解させると共に我が國に於ける地位を明かにする。

一、區域、面積、人口、地勢、氣候の概要について復習し、他府縣と比較させ、その特徴を明かにする。

二、特に諸川の長所短所を明かにし、いづれも發電に利用され電氣事業が逐年盛んになりつゝ、あること、又益々盛んにすべき事に留意させる。

額中第一位を占むるに至つた所以と、工産額中第一位にある賣樂、之に次ぐ織物、古來特有の銅器、漆器等の將來について特に考察させる。

九、前述の事項を明確に學習させる爲め、次の實習をさせる。

イ、距離や面積の圖上測定をさせる。  
ロ、各種地圖(地勢圖、産業分布圖、都邑交通圖等)を描かせる。

ハ、各種産物の産額グラフを描かせる。

ニ、旅行案内によつて。

1、鐵道各線の名稱、起點、終點、哩數、時間、賃錢、通過する主な都邑等について實習させる。

2、修學旅行計畫をさせる。

ホ、實地觀察による實習。

1、寒暖計による氣温の統計。

2、雨量計による雨量の統計。

3、商品陳列場、工場、博覽會等の見學。



### 下新川郡入善區域研究會

新屋校 寺 崎 龍 造

富山縣は、北部の富山灣に面する以外は、山嶽丘陵をめぐらせる所謂越中平野をなせり、この行政区が、北陸地方といふ地理區中に更に越中地方としての地理區を形成してゐる。尙之を人文上の境界の役目をしてゐる吳羽山(丘陵)にて、以東以西に分ち各々三小地理區に分けて考察することにしよ

#### 吳山以東

##### 1、富山平野

常願寺川・神通川の合成扇狀地域にして富山市は其中心城市である。今日の商工業が、飛越線富岩運河の開通の曉は一層進展して將來日本海の商圏の中心となるのであらう。上市・五百石、大久保、笹津、八尾、長澤は山麓に發達した地方經濟の中心である。

海岩には岩瀬、水橋、滑川、魚津等の漁港が並び、新庄は富山市に接續せる帶狀聚落を形式してゐる。

##### 2、黒部扇狀地

我が縣の誇とする立山連峯は、年と共に内外人の登山者の數を増し、其偉容は實に雄大壯絶の極致であるといひたい。今更去りにし年東宮殿下の詠ませ給ひし立山の御歌を偲びまつらざるを得ないのである。

#### 吳山以西

##### 1、射水礪波平野

高岡市は中心城市にして商工交通の都市の役目をなしてゐる。伏木港を前港としてゐるが、將來高伏運河を設計されてゐる。

伏木新湊附近は本縣に於ける工業地區をなしてゐる。垣々たる平野にある小杉、放生津、四方は地方經濟の小中心地である。礪波平野の聚落は一特色をなしてゐる。即ち戸出、出町、福野、井波、城端、福光、津澤、福岡、石動は殆ど七八軒の等距離にあつてこれも又地方經濟の中心をなしてゐる。この平野は農業者が最もよく耕作法を研究してゐる地方の一である。

##### 2、氷見の海岸平野

氷見町を中心として海岸に聚落が發達してゐる。耕地少く漁業者少からず。

富山灣一帶の漁民は遠く北海道、樺太、露領沿海に出漁す

愛本橋以下の地形は、本邦に於ける模式的な扇狀地である。黒部川は曾て亂流してゐたが、現在は堅固な堤防間を流れて富山灣に入つてゐる。藩政時代の北陸道が三日市より愛本橋を架して舟見より泊に至る迂運なコースを取るに至つたのは汎濫を避ける爲めであつた。

##### 3、北部飛驒山脈

黒部川の右岸は白馬山脈左岸は立山山脈とに分れてゐる。この二派は黒部川の源頭鷲羽嶽より分れてゐる。兩岸の谷壁は急傾斜を示し所謂黒部峽谷(二十五景の中)をなし、この谷系に祖母谷、鐘釣、新鐘釣、黒薙、二見の湯を内山村の宇奈月に引きて新しき温泉町を形成してゐる。實に日本北アルプスの北門の玄關をなしてゐる。

黒部川に於ける日本電力縣營水電等の發電事業は、着々進歩し尙神連、常願寺等の溪谷と共に水電王國の觀がある。

るものが多い。

##### 3、西南部丘陵及び河谷地方

西部礪波山丘陵は、加賀越中の國境をなし、俱利伽羅峠は、北陸街道、北陸本線の通過せる要路に當つてゐる。

南部は飛驒高地なるも神通河谷地には飛驒方に通ずる道路ありて飛越線の完成によりて一層開拓されるであらう。

庄川河谷地方は人文上別天地をなし僻陬な地方として世に紹介されてゐる。所謂五ヶ山地方と稱して風景極めて奇抜な地方である。

近時急進的に勃興した水電事業の開發は山地に於ける一驚異の景觀である。

#### 本縣の特色

河川は急流部より直ちに下流性の緩傾斜に急變する點で其山嶽部では發電事業を營み平野部に扇狀地群を形成してゐる。

立山黒部を包含する一帶の地は國立公園候補地として注意せらるゝに至つた。

富山灣の魚津、滑川、近海に盛氣樓、螢鳥賊の奇觀を呈する。産業上賣賣行商の歴史的由來をもつてゐる。



## 下新川郡泊区域研究會

大家庄校 米 山 清 作

人としての歴史的習慣性があり、加ふるに富山縣といふ行政的單元であることが富山縣人としての生活の一單位を強固に形づくるものである。

かくの如く富山縣は地理的にも歴史的にも個性づけられ統一された一つの生活單位であつてこの中に含まれてゐる狹義郷土は勿論同一事情の下にある。即ち狹義の郷土生活は富山縣としての生活體の一部分であつて兒童は先づその一部を直観によつて學習し後るのである。されどこの郷土的生活が眞實に理會される爲にはこの一部の學習のみでは不完全であつて、各般の事情が同一の力によつて動かされ同一の影響にある總てを含む範圍即ち一つの完全なる地理的地域である富山縣を學習對象として研究しなければならぬ。

かく富山縣を對象として學習することは狹義の郷土を含む所の富山縣を知り富山縣といふ生活體の中に自己の生活を見出すことであり、郷土の眞の理解への道である。この郷土

故郷を想ひ故郷を愛慕するは人情の自然である。この郷土

## 一、富山縣の郷土地理的意義

郷土は兒童の直観の出来る範圍なりといふ、而して直観の對象が自然的現象のみでなく人文的現象をも對象と考へ得るから、郷土的生活を直観の對象として範圍を考へた時、富山縣も郷土である。(今便宜上兒童の日常見慣れてゐる最も身近な地域を研究對象と考へた場合に之を狹義の郷土と云ふことにする)

富山縣は三方峻嶺を繞らし北に富山灣をひかへた一つのまとまつた生活舞臺である。即ち富山平野といふ擴がりを中心として自然的にも人文的にもまとまつたほぼ完全な地理的地域としてゐる。長い間の封建時代の制度はこの自然力の制約と相俟つて愈々この獨立を濃厚にし所謂越中人として特色づけられた生活を生んだ。明治維新となるや封建制度が破壊されて人爲上の制約は殆ど除去られ文化の進歩は交通上に一大飛躍を與へたが然しこの大自然の統制力は絶對であつて、富山縣といふ地域の地理的個性は永久に存続する。しかも尙越中

民の情意的生活の範圍である富山縣を理解することによつて眞に故郷を愛する心情の陶冶も出来るのである。

## 二、郷土地理特設と富山縣

人間が如何に自然に適應してゐるかを郷土に於て發見してゆくことが郷土地理の本義であり地理學習の歸結點をこゝに求めてゆくことが地理教授の郷土的取扱である。而して郷土的取扱の到達點は郷土そのもの、理解であつて全學年を通じて行はるべきものである。然るに兒童が四年を終へると幼い兒童の頭にある六ヶ敷い抽象な概念的な地理書が提供される。こゝに於て誰しも地理に入る前に準備時代の設置の必要を感じるのであつて、即ちこれを直観に基く所の郷土地理學習に求めるのである。かくて準備的な意味を含む郷土地理が特設され更に其の後郷土資料を地理科に連關させることによつて一層深めてゆくのであるがかくの如き意味に於ては郷土そのもの、現解はむしろ第二義的であり基礎觀念の養成が主眼と考へ得る。かく郷土的取扱は二方面の意義をもつのであるが兩者は不可分の關係に上りそして結局郷土の理解に到達するものであるといふまでもない。

地理科に入る前に於ては特に時間を設けて今までの郷土的取扱を整理綜合し更に地理學習の基礎觀念養成といふ意味に

まで進展させてその出發となす。この意味に於て是非共郷土地理の特設が必要である。而してこの場合富山縣としての郷土的取扱は地理學習の出發として高潮に達したものであらう——自然的現象に於て人文的現象に於て兒童の直観範圍の高度に展開されたものとして、又兒童の直観を類推にまで發展させる學習として。

地理科の必要は何人も容易に首肯する所で多くの理想案が發表されてゐるにもか、はらず實際に於ては甚だ不徹底に行はれてゐる様である。これは皆郷土の實際的方面から立てた案がないからだと思ふ。確實なる郷土研究により具體的教授細案が是非共作られねばならない。

郷土地理學習を富山縣にまで高めるには次の如き順序を踏みたいと思ふ。

## 1、所謂狹義の郷土

黒部平野とかいふ様になるべく地理的にまとまつた地域、即ち富山縣といふ大きな單元の中に更に地理的にまとまつた一小單元(兒童所在地を含む)を中心として取扱ひたい若しその地域に交渉深い他縣が隣してゐる時これをも含む。

## 2、村

兒童の日常生活を社會的生活の中に發見させる爲には村と



いふ行政区劃を對象として村勢を概観にさせる。

### 3、富山縣

地域の上から二つの意味を持つ、  
地理的にまとまつた地域として、  
行政的にまとまつた地域として、

富山縣學習の主眼點はこの二方面より生れてくる。

#### 三、富山縣の郷土地理的取扱

今これを次の如く三段に分けて述べよう。

##### 1、地理科以前に於ける富山縣の取扱

尋一より尋四までに於ける郷土資料取扱の中にすべてを含むものである。

尋四に於て今まで連關的に取扱つてきた郷土資料を整理綜合し更に郷土についてまとまつた觀念を興へる爲に郷土科を設ける必要がある(少くとも一週一時第三學期だけでもやらねばならぬ)この場合主として狹義の郷土及村を學習對象とし、富山縣は縣といふ行政的なひろがり知らせるに止め、特に富山縣としての郷土地理的取扱は尋五初にゆづりたい。

尙ほ尋四終の取扱は所謂郷土科として取扱ふべきものである。即ち地理のみでなく各教科總ての對象としての郷土を綜合的に知らせるのである。その地域の廣狹に就いては勿論地

理のみの場合と何等の差異もない筈である。

要するに地理以前に於ての郷土取扱は合科的であつて諸教科總ての基礎としてであり、又郷土そのもの、綜合的理解である。富山縣の地理的取扱の中に包含されてゐるのである。

##### 2、地理科直前の取扱

地理科の準備的な學習として尋五の初め地理科に入る前に今までに習得したる地理學習の基礎觀念を大に擴張充實し、その學習態度を樹立する爲に富山縣の郷土地理的取扱を地理學習に導き高めるのである。

#### 富山縣地理學習と讀圖

尋一より尋四までの讀本の地理的教材の取扱をすることで風雨山川平野海山や汽車汽船村町都市港等、人間生活の諸様式が各個別に兒童の頭に入る。即ち地圖の内容が部分的に習得される。又それ等の位置(郷土を基にして方位距離等)を地圖の上に示すことにより地圖の外面的なひろがりをも知る。けれども各様式の生活が地域といふ擴がりの中に植ゑられて兒童の頭に入つてゐるのではない。即ちこの二者が一體となつてゐるのではない。眞の地理的理解はこの二者が一體となつて會得されたものでなければならぬ。地理科に入る前に行ふ郷土地理教育は結局これに努力するものと云はれると思

ふ。

尋四終の郷土科の任務はこれを郷土の上に植えようとするものである。而して地理の任務はこれを地圖に移し更に一般地圖讀解の基礎を作らねばならない。富山縣學習に於ては、郷土を縣にまで擴げることによつて各生活内容を一層豊富に且つ明かにし、地域に立脚して考察せしむることによりその位置的特質を定め、直觀より類推に高めて一般讀圖の基礎を作るのである。

#### 富山縣地理學習の主眼

A、直觀界を富山縣にまで擴げて直觀より地圖への過程とし讀圖指導に全力を傾注しなければならぬ。尙郷土地理なるが故に總ての教授は直觀を指導するものでなければならぬ。兒童の學習はこの直觀したるものを類推へと發展させるのでなければならぬ。

#### B、地理學習の基礎的知識として

地理學習に於ける想像類推の基礎としてなるべく模式的な材料を選んでその地人關係をよく考察させる。  
重要な現象分布に關する諸統計は地域に即して具體化させ且又實習等によつて確實な數量觀念として習得させ、日々地理學習の比較の單位とする。

地理的用語についても地域に即してその概念を一層確實にしてやらねばならぬ。

C、縣勢の一般を知らせることによつて府縣の概念を興へる。

#### 指導上の注意

尋五の貴重なる時間ではあるがこれが爲是非共四乃至五時間にはさく必要がある。教師はごこまでも兒童の自發活動による學習を重んじ出来るだけ實習に訴へ、謄寫版等の利用により地圖統計等できるだけ多くの學習資料を兒童に與へねばならぬ。尙ほ水電米産工場地帯の地理的原因、地方的特産としての賣藥銅等の如き重要な事項は特に徹底させねばならぬが兒童の程度を顧慮せず徒に詳細に亘る様な事があつてはならぬ。郷土の理解は全學年か、つて達し得る仕事であるどこまでも基礎的な模式的な材料を選んで學習させねばならぬ。

#### 3、地理科と連關しての取扱

尋五以上の地理學習の際機會ある毎に郷土の材料を活用してゆく。即ち日本や世界を學習しながら常に類推の基本として比較の單位として富山縣を連關的に取扱ふのである。

尋五初の郷土地理學習によつて生活地が富山縣にまで擴め



られた。かく擴められた郷土を得、基礎的な準備も可なり出來ていよ／＼尋五の地理書に入るのであるがその開卷先づ「第一日本」に入る。こゝに於て自然的にも人文的にも富山縣の全日本に於ける地位を概観させ然る後に各地方の學習に移る。而して關東奥羽を學習し終る項は兒童の學習態度は最早しつかりと出來上る。こゝに於て我が郷土としての富山縣を含む所の中部地方の學習に入るのである。

中部地方取扱の際は富山縣を他の縣と同様に取扱ふ様な態度ではいけない。富山縣を含む中部地方を學習するのだ、否中部地方に於ける富山縣を學習するのだ。今までに可なり深められたこの地理眼を以て再び我が郷土を中部地方の中にながめ擴めて行かうといふ態度でなければならぬ。要するに中部地方取扱は直觀界を擴げることによつて郷土的生活を中部地方にまで擴張するのであつて、尋五初に取扱つた富山縣は中部地方を學習することによつてはじめてまとまつた學習となるのである。いつも以上の理解のもとに富山縣の地理的諸現象を中部地方の地帯から觀察させ、富山縣の中部地方に於ける地理的位置を明かにしなければならぬ。この理解がないと尋五初に取扱つた富山縣と中部地方に含まれる富山縣との教材が重複してゐる様に感じ其の取扱に迷ひ、却つてこの兩

者を混同したりするのである。

中部地方取扱の際富山縣と地理的事情を大體等しくする日本海方面の中に地理的景觀の共通性を求め、更にこの日本海方面を中部地方の各方面と比較することによつて位置的特質を究め富山縣の地理的個性を明瞭にしたいと思ふ。

尋六に於て日本地理は全部學習され富山縣に於ける兒童の地理的生活が日本の中を含むものとなつた。「日本の總説」取扱に於ては日本に於ける富山縣の地位を一層明かにする爲に「富山縣の總説」を必ず連關させてゆかねばならぬ。

日本地理學習のみならず外國地理の際にも勿論郷土資料の活用を忘れてはならない。眞に郷土の理解されるのは郷土の地域が普遍的に擴張された時である。

特に高二の補習地理の場合は決して教科書にとらはれることなくすべての歸結點を郷土に求め、「郷土に歸るのだ」との信念のもとに教科書を地方化し生活化し具體化してゆくことに努力しなければならぬ。

以上地理科に連關して富山縣を如何に取扱ふべきかを述べたが尙ほ最後に尋六の終り及び高二の終りに於て今まで取扱つてきた郷土(富山縣)の地理的事項を整理總括する。そして兒童の日常生活が自然的環境と如何に密接な關係をもつかを考

へさせ、郷土に於ける自然と文化の一體性の認識に到達させたい。

かく郷土資料を地理科に連關して取扱ふ場合は系統的にま

とまつた案を立て難く不徹底になり易い。唯々教師の不斷の努力に俟つのみである。そして教師の郷土地理教育に對する堅い信念のもとに行はるべきものである。

### 婦負郡古里區域研究會

音川 校 若 林 芳 雄

#### 郷土の意義

一口に郷土といふけれども、郷土の語義については、實に漠然たるものであつて、時には一國を意味する場合もあり、或は一地方を指す場合もあり、或は一町村を指示する場合もあつて其の範圍は誠に確定しない。而して、では協議題としてしめされてある「郷土としての富山縣」について聊か述べたい。

さて吾人は郷土に生を受け郷土に育ち大恩を郷土に蒙つてゐる。然るに郷土なるものは恰も空氣の如く、太陽の如く、或は父母の如く、大氣中に生育してゐながら空氣の必要を痛感せず、太陽の恩恵を蒙つてゐながら常に其の有難さを感じざるやうに、郷土そのもの、中に於いては郷土に對する敬意

を持ち難いものである。然し一度他郷に出づれば郷土に對する回想なり、反省なり、自覺なりが走馬燈の如く次から次へ繰返されるものであることは、人間の通有性と見て差支なからうと思ふ。實に吾人の思想感情は郷土の風物風土に印せるものであつて、容易に郷土を脱し得ないものである。

この意味に於て郷土は自己で、自己は又郷土に移入されるものと云ひ得るであらう。そして郷土のものすべてが吾人の印象に、時間的にも空間的にも最も明瞭に覺知されてゐるものであると思ふ。であるから吾人の生活乃至經驗は郷土と密接の關係を有するものである。それ故に地理教授に際しては常に郷土を取入れ連絡し郷土を利用し生ずることにより、地理科教授の目的が最も有効に達せられるものと思ふ。



然し郷土は必ずしも世界の縮圖ではない。若し郷土が絶對的に世界の縮圖なりと過信する時は勢ひ其の間には無理な説明をなさねばならぬことに陥るであらう。例へば一の小川を見て之を大川としたり、小湖を大海に擬せねばならぬことも起るであらう。斯くなるに却つて兒童の想像なり類推の防げとなり、その結果は偏見狹隘の見解となるおそれなしとせず、故によく注意せねばならぬこと・思ふ。

地理教授としての郷土の取扱ひ

一、基礎教授としての郷土

郷土なるものは吾人の日常生活に緊密なる關係がある故に地理學習の初歩に於ける兒童に對して郷土を地理教授上の基礎觀念養成に利用することは大切なこと、曰ふべきである。

- 1、郷土に於ける種々の自然の現象を直觀して、讀圖力、地圖上方位の觀念養成に便なること。
  - 2、郷土に於ける地勢を直觀し、地理上の用語を理解させるに便なること。(山脈火山盆地平野半島岬灣……)
  - 3、郷土を基礎として、地圖を描く等の指導練習には便なり。(距離方位地勢交通都市の發達と地勢の關係……)
- 二、他地方との連絡としての郷土
- 郷土は吾人の生活に深き根底を與へ密接なる關係のあるこ

とから考察して、郷土を地理教授上、地理的事實を想像し類推する基礎を得るに利用することが大切なことである。

- 1、郷土から確實に出発しないと、あらゆる地理教材が架空のものとなり易い。故に必ず比較の對象を郷土に求め終始郷土に立脚して行くべきであると思ふ。
  - 2、郷土の自然の現象を直觀して、或る程度まで未見未踏の地理を想像し類推せしめることが出来る。(富山縣の地勢の狀況、景色の狀況、氣候の狀況……)
  - 3、郷土に於ける種々の方面の生活を直觀して、或る程度まで他地方の産業的生活經濟的生活文化的生活政治的生活等の狀態を推し想像せしめることが出来る。縣の産業狀態、米産林産水産賣藥銅器漆器……經濟生活銀行信用組合……文化狀態學校圖書館公園……政治狀態縣廳其の他官公衙……)
- 三、生活の理解としての郷土
- 郷土地理の目的として唱へられてゐるものは、「郷土の自然人事の事項を利用して、地理教授に必要な基礎觀念を授け尙歷史的趣味及び理科的觀察力を養ひ、かねて愛郷の精神を養成するを以て目的とす」である。
- 斯くの如くであつて、從來は郷土の地理において、自他の

生活關係を理解させやうとする考へは薄いやうに思はれる。只々郷土について澤山の事實、名稱を羅列的に、記載的に、機械的に列舉して暗記せしめるのみでは、眞に郷土地理の目的を達したもといはれない。故に今日では却つて人文地理が重要な方面と考へられるやうになつたことを思つて、郷土に於ける自己の生活狀態を理解することが大切である。

吾人の生活は郷土における自然的環境によつて種々に影響され、適應された結果として各種多様の生活様式を營んで居る。之を取扱つて行くのも地理科の大切なことでなければならぬと思ふ。

婦負郡八尾區域研究會

櫻尾校 村 井 芳 雄

寫真を利用して、理解の方便に充て、學習を進めるので、充分なる効果を期待することが出来ない。

されば、この缺陷を補ふ方便として、こゝに兒童の朝夕親しめる郷土の自然及び人文方面に學習の根基を求め、勿論郷土としての富山縣もこの意味に於て取扱はるべきではあるが、これのみでは全き姿としての富山縣は現はれない。

地理科は實地を對照となし、現に存する實際の現象を正確に理解し、以て人生の幸福増進に貢獻することを目的とする教科ではあるが、一々實際に就いて之を踏査し、研究することが不可能であるから、止むを得ず實地を平面上に描寫した地圖か、或は實地と地圖との中間に位する模型を以てし、尙



一體、モノは同一性の側と差別性の側とから観察することによつて、始めて全き姿として眺められるものであるが、ともすれば學習の根基として同一性の側からのみ郷土を眺めやうとするため、その一面である差別性―特殊性―は忘れられ

る。

我等の富山縣を活かし、その改良、進歩、發展を策せんとする芽生えを涵養せんがためには是非ともこの特殊な地位を十分に眺め込ませなくてはならぬ。

### 射水郡伏木區域研究會

伏木 校 大 坪 義 正

る。

富山縣は單に行政上の一單元であるばかりでなく、自然的にも一つの單元を形成してゐることは、學習上都合のよいことであると考へられる。

#### 二、指導私案

第一次的取扱。町村單位の郷土地理學習後の取扱ひ。

概觀的に二時間。他地方を學習する際に、本縣を常に振りかへつて見る。その事に機縁づけしめるのが主眼である。

準備、陸、測二十萬分の一帝國圖に更に着色し陰影を附したるもの。同スケールの立體的模型。陸測五萬分の一地形圖

#### 一、緒言

我々は郷土地理として、我々の町村を單位として、或は兒童が一日樂に實地視察し得る區域内を單位としての學習指導を終つた後で更に階段的に富山縣の地理を學習するといふことは、郷土擴張の意味に於ても、學習心理の上から見ても極めて妥當なことであると思ふ。然しながら郷土地理はこの時期ばかりに學習すべきものでなくして、中部地方の地理を調べる場合にも、世界地理を終つた時に於ても之れを取扱つて、兒童の地理的智能の向上と共に漸次深刻に郷土を理解し、一段の愛國心と奮闘努力の精神とを涵養せねばならぬのである

を彩色したるもの。交通圖(スケールをなるべく二十萬分とし主要道路、鐵道、航路、主要都邑を明瞭に記入し、地形は表現せず。)日本全圖、白地圖(立山、河川、富山、高岡のみ記入したるもの)教科書附圖。

#### 要項

- 1、富山縣は日本のどの邊にあるか。我が校は縣のどの邊か。
- 2、縣の北はどこか、南は、東は、西は。
- 3、この地圖(五萬分着色)で見ると、どれが山地でどれが平野か。富山縣は隣の縣と何を以て境とするか。  
――二十萬分地圖と模型と比較――
- 4、川はどこから、どこへ流れてゆくか。北へ流れてゆく理由。川の名を讀め。こ、は何川の流域か。こ、は。
- 5、縣の端から端を貫いてゐる鐵道はないか。何といふ線か。北陸線に沿つてゐる大きい町の名を讀め。
- 6、北陸線に交つてゐる鐵道はないか。
- 7、中越線はどこで交つてゐるか。中越線に沿ふ主な町を調べ。(吳西の小學校では、中越線だけでよからう)
- 8、この圖(日本全圖)で伏木から方々へ赤線を引いてあるのはどうしたわけか。なぜ伏木から航路が出てゐるか。

9、村の人はどうして生活してゐるか。稲田は主に平野にあるか又山地か。田へ水を入れるにはどこから水をとつてゐるか。

10、山地をどんなにして人は利用してゐるか。

11、魚は主にどこからくるか。氷見や新湊からどんな道を通つてくると思ふか。

12、縣を治めてゐる役所は何と言ふか、どこにあるか。高岡はどんな點がすぐれた町か。伏木は。

17、白地圖に山地と平野を塗り分けよ。川の名を記入せ。

鐵道線、都邑名を記入せよ。

14、人の最も多く住んでゐる所は、山地か平地か。平地は何故開けてゐるのか。

第二次的取扱。中部地方を學習する際や、詳しく、四時間。

之で本縣を系統的に考察せしめる。

準備、第一次に用ゐた地圖、模型全部。縣勢一覽、氣象年報、中部地方圖、稲田、桑畑、茶畑の分布圖(五萬分地形圖

に之等の分布を彩色にて示したるもの)其他各地繪葉書等。

1、面積、東西の距離、南北の距離測定。

人口の密度計算。

2、縣の東部に蟠る山脈は何といふか。飛驒山脈はどこか



- ら發し、どこに終るか。北端は何といふ所か。立山の標高は。黒部溪谷の特色は。
- 3、南部の山地と飛騨高原とはどんな關係にあるか。
- 4、主なる河川の名を東から順に讀め。この中飛騨高地に發するのは河川か。黒部、常願寺、小矢部其他は各々どこに發するか。
- 5、飛騨へのゆくにはどんなコースをとればよいか。
- 6、富山縣の各河川の特色と思はれることは何か。
- 7、西、石川縣との境は何といふ山脈か、高さはどの位か。
- 8、富山灣は陥没して出來た海で、此處に各河川が扇狀地様の三角洲を結合させて平野を作つた。
- 9、伏木の雨雪量、氣温、雨天、晴大日數を示し、靜岡、及松本等の觀測材料を示し、氣候グラフを作製せしめて、表日本中部盆地とを比較せしめる。
- 10、産業地圖を示し、稻、果樹、桑等は各々どんな地形に栽培されてゐるか。
- 11、米産額は縣の農産全額の何割をしめてゐるか。人口一人當りどれ程か。剩餘はどうして、どこへ運ぶか。
- 12、農作物の肥料は何を用ゐてゐるか。灌漑はどうしてゐるか。

- 13、漁業の中心はどこか。どんな魚が一番獲れるか。何故漁獲が多いか。
- 14、發電所分布圖を示し、何故こんなに多く發電所が出来るのか。電流は何に使はれてゐるか。剩餘は如何處分するか。
- 15、富山、高岡の特産は何か。販路はどこか。
- 16、伏木にある工場の製品は何か、福野城端地方の織物。
- 17、富山、高岡、伏木、魚津、新湊、氷見の發達原因と各都邑の特色。
- 18、鐵道荷、電車線を自地圖に記入せよ。北陸街道は東西兩山地の如何な地形の所を通つたか。其の變遷は如何。
- 19、鐵道、及電氣軌道發達の順序。第三次今迄學び得たる知識によつて本縣を考察せしめる。六年の終りの取扱。二時間準備、今までの地圖等全部
- 1、富山縣を三つの單元に區分することが出来る。
- 2、山地の特色は何か
- 水源——森林の保護、薪炭の供給地、電力の供給地、日

本アルプスの英峰は遠い昔から幾多越中人士の精神に偉大な感化を與へたることよ。

- 3、立山、黒部溪谷は體力の精神の純化を與へるべきである。
- 4、平地
- 文化地帯であることを各種の地圖によつて説明させる。本縣の核心である。人々の大部分も此處に集つてゐる。
- 5、富山灣
- 漁業、航路、夏の休養地
- 6、本縣の人々増加の状態
- 7、本縣人の他地方に發展してゐる狀況と環境との關係。北海道、樺太の開拓、遠洋漁業

- 冬季出稼、賣藥行商
- 8、本縣は將來、工業の發達が可能であるか。原料、製品の輸送上、動力(石炭、白炭)から、冬季の氣候と動物其他の工業。
- 9、對岸貿易發展は何故必要か。シベリヤ、滿洲の開發と伏木港の關係。
- 10、本縣人の氣質の特色
- 氣候の支配。明るく而も忍耐力の強い縣民性と化し本縣發達の爲に奮闘すべきである。
- 第三次の取扱に射いては全然成案が立つてゐないのであるが無理に羅列的に記載して見た。切に大方の御批教を希望する。

### 射水郡小杉區域研究會

橋下條校 稻垣剛太郎

#### 一、郷土地理の目的

郷土が地理教育の出發點として大切であることは何人にも異存なきことである。その目的とするところは次の通りであ

- 1、地理教授に必要な基本觀念を養成すること
- 2、郷土を充分理解させることによつて愛郷心を養成す



云ふまでもなく地理教授の目的とするところは各地の自然と人文との交渉を研究してこの間に存する必然的有機的の理法を發見するにつとめ、且つ自然の利用を進めて人類生活の幸福を増進するにあるのだから、各地方の自然的條件は勿論人文方面の産業交通都邑等の現状を理解させると共に將來人力によつて如何なる方面に改良をなし得べきかの問題にまで觸れしめ、自然を最もよく利用し得る能力を養ふにある。而して國語教科書中の地理的材料を取扱ふにも、地理書それ自身の内容を理解せしむるにも其の基礎的觀念はすべて郷土に於ける材料の見聞に待たねばならぬ。即ち實地について直觀的に學習できる部面は郷土が主たるものでその他の所は地圖を基にして、想像類推によつて學習せねばならぬ。

二、郷土としての富山縣を取扱ふ時期及び程度

地理が獨立の教科として取扱はれるのは尋常五年からであるが學校教育に於て地理學習の開始されるのは尋常一年からである。故に四年以下に於て地理的材料の出でくる際に、斷片的でもよいかから地理的基本觀念を與へねばならぬ。其の間に郊外教授、遠足、修學旅行等を利用することは最も大切である。そして尋常五年の初めに既習事項を基として自己の

町村を中心としたる富山縣地理の概要につき約二時間乃至三時間を限度として學習を指導する。その際自己の町村を中心とするのであるから富山縣の全般に及ばなくてもよい。たとひ統一なくとも最も關係の深いところをとり、地理的觀念若くは基本觀念の得やすい様に指導し、以て日本地理を學ぶ物差にすべきである。そして中部地方を學ぶときに本縣の位置、區域、地勢、産業、交通、都邑等の概要を捉へさせるやうにすればよいと思ふ。かくして六年の終に至り再び郷土を反省し、富山縣の特徴を考へ、縣人の氣質、縣人の發展狀況、富山縣の將來につき學習する。さうして全日本から見た郷土、世界から見た郷土、といふ風に指導し、最後に郷土を如何に利用すべきか、にまで及ぶべきである。

三、郷土地理及富山縣地理指導の要項

1、讀圖力の養成

地理教授で最も重要なものは地圖であるから郷土地理では讀圖力の養成から始めねばならぬ。

イ、平面圖と側面圖とを造らしめ（縮尺を要しない小さなものを示して）雜記帳に記入させる而して地圖の見方の準備とする。

ロ、縮尺及び縮圖の指導 兒童の机、教室、校舎、校庭等

一方里の觀念については附近の山に上つて直觀せしめ、四軒四方、又は一里四方は大概これだけといふ區劃を示して其の廣さの觀念を與へて置けばよい。

5、自然地理の基本觀念指導

實際附近の山につれて行つて直觀し實驗せしめ、水陸兩方面の地理的要素及び其の相互關係を學習せしめる。海の如きは實物の直觀に訴へなければ單に池の直觀や説明では眞の理解は出來ない。旅行や遠足等によつて直觀の擴張といふことが極めて必要である。

6、人文地理の基本觀念指導

イ、部落或は都會成立及び相互關係  
都會發達の理由、都會の種類都會相互關係等附近の都會を例として理解せしめる。  
ロ、道路、鐵道、航路等交通の發達する理由など本縣の例をとり考察させる。

ハ、農林、商工、漁業等郷土の産業產物について理解させてをく。

7、自然と人文との相互關係の基本觀念

イ、平野と産業都會との關係

本縣としての模式例——富山市高岡市其他

實測させ一定の縮尺をつくつて縮圖をか、せ然る後校下地圖、富山縣地圖等を示して地圖と實際との關係を會得させる。

ハ、模型によりて實地との比較對照

學校附近の模型を作り進んで郷土の實地踏査をしてその模型を粘土、砂、又はボール紙で作つて見る。更に富山縣の模型を作製させる。この際符號を教へる。

2、方位の觀念指導

東西南北等の方角の觀念を得させるばかりでなく、自分の住家や部落が市、町、村の何れにあたるかといふやうなことを實際について會得せしめる。この爲には方位圖を掲げることとも有効であるし、教室内に磁石を置いて觀察せしめるもよい。

3、距離の觀念指導

四軒が約一里といふことに觀念を得させておく。校舎運動場等を利用して實測、步測、目測等によつて自覺させる。尙自己の村より附近の町村に至る里程の概畧を知らせてをくやうにする。又兒童の通學區及び學校から停車場までの距離等を兒童の作業として實測せしめる。

4、面積の觀念指導



ロ、港灣と都會との關係

本縣としての模式例——伏木港、其他

ハ、氣候と人文との關係

富山縣の氣候は縣人の氣質に如何なる影響を及ぼしてゐるかを考察せしめる。このやうなことを理解させていくと氣候と人間の氣質との關係や、熱帯地方寒帯地方及び各地の人間の氣質の異なる理由等も類推する事が出来る。尙又氣候と産業との關係に於ても大體本縣の産物について考へさせて置く。

兒童の一般は富山縣全體について實地に直観することが出来る。來ないとしても、旅行、遠足等色々なことによつて見聞して親しんでゐる。その上自己の縣は生活の一單位であつて有機的關係をもつてゐる。それ故生活の理解といふ上から見ても必要であるし特に政治地理の基本といふことから見ると一まゝとまりになつてゐるから、郷土の範圍を擴張して地理の基本觀念の不足を補ふことが出来る。そうして自己の縣について一通りの概念を得させておくことは各地方、各府縣を理解する基礎的智識をもたせることになる。即ち日本地理學習するにあつて絶えず本縣と比較させると各地方、各府縣を理解することが容易であり、且つ本縣地理をよりよく理解するこ

とが出来。即ち比較の單位、理解の基礎とすることが出来る。

四、郷土としての富山縣地理指導の實際例

1、要旨

自己の町村を中心としたる本縣の位置、面積、人口、區劃、地勢、産業、交通、都邑状態の極めて大要を、既知經驗の世から導き兼ねて地理に關する基礎的觀念を整理し、學習に關する心得を授く。

2、準備

富山縣地圖、日本全圖、自己の町村附近の一萬分の一地圖、

統計グラフ

3、分節要項

第一時 主として自己の町村を中心としたる郷土地理學習

1、村の位置、富山縣の位置

ロ、村の人口、本縣の人口

ハ、村民の生業、聚落の成立せる理由

ニ、農業の發達せる理由

ホ、灌溉狀況、その水源たる庄川の流域、庄川の發電

ヘ、庄川の上流と山脈の方向、産業状態

ト、下條川の水源地と下流、下條川に沿へる町の發達せる理

由、改修工事の必要

チ、下條川の下流は遂に海に入ることより、海岸、灣、半

島等教授（海に對する經驗發表）

リ、最寄驛小杉を中心としたる本縣の交通狀況

ヌ、富山市高岡市の發達狀況（經驗發表）

第二時 主として基本觀念養成に努む

1、讀圖の觀念指導

平面圖と側面圖

縮尺及び縮圖

模型により實地との比較

ロ、方位の觀念指導

ハ、距離の觀念指導

ニ、面積の觀念指導

ホ、記號の教授

ヘ、描圖上の注意

備考

1、この案は五年の最初に行ふもので大體四年までの既知事項を整理し、補足する考である。

ロ、實地踏査は時機を見て行ふ。

ハ、本時に於て地理上の新語句は一々板書し事例を引用して、理解につとめる。

ニ、この案はほんの要項に過ぎない。一つの物語として教授すゝめ、統一なくとも其の間に地理的觀念を得させるんがためのものである。

ホ、常に郷土教授資料の蒐集を怠らざること。

### 射水郡新湊區域研究會

新湊校 新川 榮 昌

緒言

郷土地理が地理教育の基礎教授に於て、或は讀圖力を養ふ

上に、或は地理的術語を常識化するために、或はこれまでの地理的知識を整理して、やがてより廣き範圍の教授にあつ



て類化、對比することにより其の理解を便利ならしむる爲に頗る重要なものであることは、今更いふまでもないことである。

しかも、地理教授一般の如何なる場合に於ても、取り入れて以て可なるものは、常に郷土地理と結びつけて、之を教授することは、教授そのもの、理解を容易ならしむる上に、大切なる許りでなく、それがやがて愛郷心の養成となり、更に其れに依つて、郷土將來の發展策如何と云ふやうなことを、地理的に考察する能力を涵養することに於て、地理教育の目的は達成せられたとも云ひ得るものと信ずる。

即ち郷土をその出發點として、地理教授の上に常に郷土と關聯して教授し、全日本、全世界の地理一般を理解した上に更に其等を總括して郷土をかへりみ、郷土將來の發展策如何を考察する能力を涵養すべきものであることを思へば、地理教育に於て、郷土地理を分離して考ふことは出來ぬものであり、終始一貫郷土を對照とすることに於て、始めて其の目的を達成することの出來るものと言はねばならぬ。

故に本協議題を考察すると

1、地理教育の基礎教授に於て郷土としての本縣を如何に取扱ふべきか。

得ると信ずる。

何となれば、本縣即ち我郷土を理解し、我郷土の發展策を考察する能力を涵養することは、郷土を愛する所以であり、郷土を愛する心は、やがて國家を愛する所以であるからである。

斷つてをきたいことは、前述の三問題の中、2及3は、殆ど3の中にまとめても、考へ得られるから、別に區別しないで述べていきたいことである。

(二)本縣將來の發展策如何を考察する能力を養ふ爲には、如何なる方法をとるべきか。

本縣の將來を如何にすべきかと云ふ問題は、輕々しく決定さるべきものではない。識見高邁なる人と雖も、政治的に、又自然的事情等の關係上、決して其の理想通り出來得るか否かは、之を確定し得るものではない。

況んや知識尙淺き兒童に於ては、尙更のことであり、餘程慎重に考慮すべき問題でなければならぬ。故に直ちに兒童に之を考へしむることは、兒童の心身發達の程度を考慮せざる無謀なこと、云はねばならぬ。

故に私は本縣將來の發展策を地理的に考察する能力を涵養すべき程度に止むべきであり、之れによつて、やがて、相當

2、他の地理教授に於て、如何なる教材の如何なる點を、郷土としての本縣の如何なる點に關聯して取扱ふべきか。

3、地理教育の歸結點として、郷土としての本縣の發展策を地理的に考察する能力を涵養する爲に如何にすべきか。

の三問題に分割し得ると思推されるから、1の問題は少時く擱き、2及3の問題について聊か意見を述べてみたい。

(一)郷土としての本縣將來の發展策を地理的に考察せしむる能力を涵養することの必要なる所以

地理教育に於て自然地理的事項の名稱や、物産の種類や、其の數量等を機械的に記憶することをのみ強要したのは、所謂從來の地理教授の大なる缺點なりと云ふべく、更に之を人文的地理事項に關聯して、所謂文化地理的に、將來如何にすれば、交通・經濟・産業等人文の發達をみる事が出來るかと云ふことを、地理的に考察する能力を養ふことは、少くとも、現今の時代思想に適應した地理教育でなければならぬと信ずる。

此の意味に於て、郷土としての本縣將來の發展を考察する能力を涵養することは、地理教育に於て、頗る重要なことであり、寧ろ其の目的の究極の到達點であるとも、考へられ

の時期に達した時に、實行的に考量するものと思ふからである。

前述したことによつて、地理教育上如何なる點に注意し以て、此能力を涵養すべきかについて述べやう。

1、地理教授に於て、常に近來著しく發展せし事項に就ては歴史的、地理的に考察して、そのよつて來りし理由を理解せしむべきこと。

即ち産業・交通・都邑・港灣等近來發達進歩の著しいものよつて來る理由を歴史的に、地理的に考察することは、やがて、之を郷土と關聯することによつて、郷土發展策考量の原動力となるからである。

2、地理教授に於て、人類が其の文化向上の爲に自然を征服して其の目的を達成した事項については、その關係をよく理解せしむること。

本縣に於ても亦、本縣文化の發展の爲に、自然を征服していくべき事柄の多いことは言ふまでもないことであるから、他に此種の適例のあつた場合は郷土將來發展の爲に考量する能力養成の爲に、大なる力を與へるものであらう。

3、地理的に發展する爲には、そこに夫々の目的があり、その目的に對して努力した其の地方民衆があり、又之を



指導した文化的恩人ともすべき個人がある。斯くの如き場合にはこの個人の努力や其の貢献について話してやること。

従来の地理教育に於て私は此方面の考量が足りなかつたやうに思はれる。児童心身發達の程度から考へても、餘程適當したことであり、將來此方面に努力せんとする精神陶冶に與つて力あるものと信ずるのである。故に郷土以外に於て勿論特に郷土に於て此の適例あらば、以て其の文化に對しての貢獻を理解させ、之を景仰せしめなくてはならぬ。

4、本縣の特異なる地理的事項の考察と其の理解  
即ち自然地理的方面、及人文地理的方面に於ける本縣の特異なる點を理解せしむることは、一は以て其の長所を自覺せしめ、一は以て其の短所を理解し自覺せしむることによつて將來への努力を覺悟せしめる爲である。

5、本縣に目下劃策されつゝある地理的事項を理解せしむること。  
6、地理的に考察して、本縣人の氣風の長短を理解せしむること。

人の氣風は由來地理的に左右されることが多い。本縣人は他縣人に比較して、こんな所が長所であり、こんな所が短所

自覺せなくてはならないのだ。

故に地理教育に於ても、以上述べたるが如く、唯知らしむるのみに満足せず、やがて大部分は生涯をこゝにおくるべき我が郷土の地を理解し、そこによりよき、より高き生活を營

本題を考究するには先づ郷土と言ふ意味を確定しなければならぬと思ふ。

### 一、郷土

郷土については人々々々の見解を異にしてゐるものがある。村、町、市、郡、府、縣の如き行政区劃を基礎としたもの、或は距離を中心にして學校中心とせる半徑二里の圓積内に屬するもの、一日で往復の出来る範圍、或は學習上直觀し得る範圍と言ふ事などがある。

しかし大體の傾向は容易に直觀し得る範圍と言ふ事に歸着してゐはしないかと思ふ。  
私はこの意味に於て標準を之としたそして又行政区劃をも

であると云ふことは、よく吾人の耳にする所である。しかもそれ等の長短所は地理的事情に左右してゐる事が多い。地理的事情に左右されてゐるものは、中々之を變へることは出来ないものであるとも考へられるけれども、之を自覺し之を矯正せんとする努力修養によつて幾分でもよくなり得るものであるから、此方面の考察も、本縣將來の爲重要な事柄と思はれるのである。

### 結 論

知らしむることのみに止まる教育は最早や時代を考へざる教育であり、それを自覺して之を實行せないので、教育者に眞劍味がないからである。

知らしむることによつて理解を深くし、それが心身に鎔けこんで新時代に最も有意義に生きて行くべき國民を養成することが、其の最も大切なこととなればならぬ。

教育は單に一個人を教育するのみでなく、一個人を教育することによつて國民全體の文明を進め、國家の道歩發達を促す所の業務である。(教育と修養 文學博士中島力造)

斯くの如き態の教育を行はんとすれば、知らしむることに満足せず、何事をかさんとする力の養成にまで考へ及ばなくてはならぬ。そこに始めて力に燃えた今後後の教育の相を

まんとならば、地理的に本縣將來の發展を如何にすべきかを考察する能力を涵養することは、やがて他日實際に之が劃策の任に當り、之が實行の任に當るべき本縣人を養成するため、地理教育の分けもつべき一大任務と云はねばならぬ。

## 氷見郡氷見區域研究會

南上校 清水 卯 一郎

加味させて郡と言ふものを以て郷土學習に於ける郷土としてゐる。

しかし直觀し得る範圍の大なれば大なる程教育的効果の大となるのであるから府縣を以て直觀し得る範圍として取扱ふものには意義を挾まないが是には教師その人の深い内省を要すべきものと思ふ。

### a、目的

實質的には地理學習基礎觀念を得せしめることは勿論、理解の方便たらしめ、學習の出發點として又學習の歸結點とし、郷土を理解し郷土的自覺をあたへ、形式的には愛郷心、愛國心の根基を培養し、明敏なる觀察眼を養成するといふことは



一般周知の事項であるが郷土に生れて郷土に死ぬ郷土民にとつて重大視すべき郷土學習はいつ之をなすべきか。

b、時期

基礎觀念養成上(學習態度を作るため)尋四以下の讀本に附帶して取扱ふこと、校外教授、遠足を利用して、之を施し尙尋五の初期に於て特に數時間を設けて之をなす。

教授の歸結上、尋五以上の地理學習には勿論讀本、國史その他の學科に於て毎時必要に應じてなし尋六の最終に於て總括的取扱をなす。

本校にては尋一より高二まで各科の郷土資料調査を作成して聯絡題材及指導學習要項を完成して参考としてゐる。

かくの如くとしたならば郷土として富山縣を取扱ふは否といはねばならぬだらうか。

二、郷土たる富山縣の取扱

a、必要

前述の如く自己の府縣と郷土とは大體に於て一致しないのが原則である。故に郷土地理を學習する以上自己の府縣を取扱ふ必要を認めないかと言ふに決して左様ではない、地理教授は知的靜的でなく動的情意的であつて生命の躍動する所にその價値があり興味があるのである。小學校の地理は學問と

しての地理を學習させると言ふのみに目的があるのではない、生活のため、人生のための地理である、是れが爲めには單に日本の各地の學習をなすにも郷土や日常生活に無關係な交渉では眞の効果をあげることは至難である。

而かも教科書を見るに自然的區劃による地方的單位の學習方法であつて行政區劃である府縣は單に區域としてあけてゐるだけである。しかし乍ら府縣は如何しても吾々の生活の一單位であり、各地方の地勢、産業、交通都邑を學習する間に地人文土如何なる地位にあるかを知らせることは地方別學習を明確に總括して行くものでありまたそうでなければ地理學習を徹底し難い様に思ふ。

又地方そのものを見ても區域、地勢、産業、交通、都邑と言ふ様に項目順序によつて編纂されてゐる、だから如何してもその基礎的知識をもたせる上に自己の府縣を理解してそのアウトラインを描き置かば一地方を理解するにもその比較の單位、理解の基礎となつてゆく。

又吾々が現在及將來の生活、最も關係のある縣そのものを理解することになり日常生活上、常識養成上肝要のことであり生活の向上、發展への導きになるのである。自己の縣そのものは容易に直觀し得ないとしても現在生活に近いものである、ことは論を俟たない。

これは概念を得る目的の尋五郷土地理學習後行ふものは郷土地理と重複される不經濟があり二三時間でよからうし、尋六の最後の學習も二三時間で可なり理解されることだと思ふ。しかして尙郷土を理解する上にあまりに簡單といふ人は郷土科を設けて之をなさねばならぬ。少くとも一週一時位のものとしても……

り親戚關係によるゆきき、その他の旅行、又種々の談話によりなどして色々の點によつて接觸せられ知られてゐる。

且つ府縣は生活の一單位である以上有機的關係の最も顯著にして推理し易く生活の理解といふ點から見れば必要なことである。特に政治地理の一小單位となつて居り郡單位ではとても取扱ふことの出来ないものがある、即ち交通機關、政治機關、産業集散の有機的統一關係が理解される。

自然地理に於ても氷見郡のやうな狭少な土地にあつて谷を直觀させるとか平野を想像させる基にするとかしても標準が小さいため誤解を起し易い場合がないとも言へない、しかし縣單位になつて來ると有磯の海越しに立山の雄姿を常見、黒部溪谷があり富山平野、射水兩磯の平野があり大河があり郡の取扱ひの幾分かの缺を補ふことが出来る。かくて具體より想像推理に入る仲繼所として適材であり日本地理への學習のスタートとなり郷土地理の補充擴張の好教材ではないか。

b、取扱

かくの如く言へば既にその時期が確定されてゐる、郷土地理學習後として日本の學習に入る前であることは勿論である。尋六の最後、地理學習の終つたとき郷土地理を總括的に行ふと先きに述べたがこれは少くとも府縣的取扱の多分に含

c、取扱上の事項

イ、位置 日本全圖及地方地圖によりて自然的位置、及四圍の關係的位置、中部地方としての位置、數的位置を知らしむる。

ロ、區域 富山縣地圖によつて富山、高岡兩市氷見郡外七郡なることを知らせる。外に模型があれば尙よいと思ふ。讀圖の養成補充ともなるからである。

ハ、面積及人口 是は後の比較の基礎ともなるのであるから覚えさせない。

二、地勢 縣地圖及模型によつて學習する。

東南部

飛驒高地

飛驒山脈(河への推理の基となる。延いて立山山脈)平野への基礎となる。



北西部 富山平野 黒部、神通、常願寺の諸川

射水平野 庄川、小矢部川

西礪平野 庄川、小矢部川

發電(模式材) 小牧水電 灌漑の利用

木、氣候

へ、産業 地勢、氣候、より推理させる。

農業 米、野菜、果實……伏木港

林業 飛驒木材……青島

工業 織物、賣藥……富山、中越沿線地

肥料、製紙……伏木

銅器、漆器……高岡

水産、貿易状況

ト、交通、都邑、經濟的原因による考察及發達の理甲

道路

汽車 中越線、北陸線、加越線、富山、立山の諸線

富山縣營

電車 四方、宇奈月、富岩の諸線

航路 伏木港、小樽、樺太知取の線、朝鮮東岸の線等

魚津、水見、岩瀬の諸港

チ、富山、高岡兩市及名所舊蹟

立山、黒部、小川、山田、鐘釣、宇奈月の諸温泉

親不知、五ヶ山、螢鳥賊、鬼蓮、大境洞窟、光藻、瑞龍、瑞泉の諸寺、俱利伽羅山、笹津、恒性皇子墓等

かくて直接に地人現象を観察する趣味能力、有機的統合の中心點を得せしめ、比較的基礎をつくつて了解を容易ならしむる根基をつくり、諸學科の歸結點、郷土の地位を知り、着實なる處世方針の素地を涵養し、愛郷心愛國心、地理的識見のもとをなし順序を整頓し、事物の輕重取捨の判斷力を養成するの一方便たるに適當ならしめる等の郷土的教育價値を益々伸展し擴張しなければならぬ。

### 東礪波郡井波區域研究會

種田 校 得 田 徳 平

#### 甲、緒 論

一、郷土は世界の縮圖である。(或る學者の言)

二、幼き兒童の郷土科として地理教育上富山縣を第二次的郷土(私の隨語)と認める。

三、富山縣を深く知ることは富山縣を深く愛することである。

四、昔時を透して現勢を知るは現勢をより深めることである。

#### 乙、資材と取扱

##### 一、位置

1、吾が村(市・町)の圖上觀察、境界までの距離測定

2、中部・本洲・帝國に於ける本縣の自然的位

3、數理的位

##### 二、面積・人口

1、吾が村(市・町)と本縣との面積・人口比較

2、最近に於ける人口の増減(盛?衰?)

##### 三、地勢

A、東部高地……立山、白馬の二山脈

1、立山

イ、標高……附近の標高と比較、海拔の意義

ロ、成因……褶曲山脈、第三紀の火山活動、安山岩の噴出

ハ、火山としての立山……立山温泉とミクリガ池の噴火

口、五色ガ原と彌陀ヶ原の熔岩臺地、湯川の火口瀨

ニ、立山の誇……三宮殿下の光榮、スキー、雄山神社、立山温泉、文學、傳説

ホ、登山路の一斑

2、黒部川

イ、上流……峡谷成因(破壊、運搬)千葉聯隊の飛行機射撃



ロ、下流……堆積と亂流、亂流と扇狀平原、亂流と愛本橋、平原と都會

ハ、温泉……宇奈月(温泉と聚落)

ニ、發電……天惠(水量と立山山脈、地形と岩質)將來の囑目、黒部電鐵(鐵道と開拓)

B、南部高地

1、神通谷……飛驒方面との交通、飛越線、笹津の送電

2、庄川谷……川と五ヶ山聚落、發電と開拓

C、西部高地

1、寶達山脈……境界と山頂、加越の人文關係

2、俱利伽羅峠……山脈と峠、峠と交通、峠と石動町

D、吳山丘陵

1、吳東と吳西との人文的關係

2、遊園地と富山市民

E、河川、平野

1、吳東平野

イ、黒部川と黒部平野

ロ、神通川・常願寺川と富山平野

2、吳西平野

イ、小矢部川、庄川と礪波、射水平野

ロ、水見の帶狀海岸平野

3、河川と平野の關係

4、河川と人生

イ、河川と飲料水、灌溉と水田

ロ、神通川、庄川、小矢部川に於ける養漁業

ハ、流材業、養漁業と庄川水電工事反對

F、海岸

1、地形……寶達、白馬山脈と海岸地形(交通との關係)

2、伏木港……港口の形状、施設、水深と底質、吞吐する貨物・航路・港發達の理由・築へ計畫

四、産業

1、米

イ、地形・地質・氣候と米作の關係

ロ、生産高と消費高

ハ、管外輸出先……伏木港の積出、越中米の聲價

ニ、改良點と覺悟……品種統一、乾燥充分

2、賣藥

イ、賣藥の歴史的由來と富山市

ロ、行商……販路、名聲

ハ、本縣産業上に於ける位置

3、工業

イ、工場地帯……富山市方面、伏木の化學工場、高岡市、

戸出町、出町、福野町の紡績工場

ロ、原料、原動力、資本、勞力の供給狀況

ハ、製法、用途、販賣

ニ、工産と産業上に於ける位置

4、水産業

イ、水見港……漁港の設備、漁種(魚津方面の螢烏賊も併せて)、漁撈、販路

ロ、新湊……遠洋漁業

ハ、漁場と聚落

ニ、水産と産業上に於ける位置

五、交通

1、道路

イ、北陸道……昔と國道、幅員

ロ、富山市中心の道路網

ハ、高岡市中心の道路網

ニ、分布状態と地形

2、鐵道

イ、北陸線……起點と終點、裏日本系統上の價値、本縣

と重要性、速度

ロ、富山市焦點の鐵道……蒸鐵と電鐵、官鐵と私鐵

ハ、飛越線……重要性と敷設目的、富山市の將來

ニ、高岡市焦點の鐵道高……伏運河

六、都邑

1、富山市

イ、位置……吾が村よりの里程、鐵道利用による時間、數理的的位置

ロ、古今……昔と城下町、維新の變遷、今と都市計畫

ハ、學校……學問の中心

ニ、聯隊……

ホ、行政……縣廳、縣會

ヘ、人口……昔と今(盛?衰?)

ト、吳羽公園と市民

チ、繁華なる理由……位置、政治、學問、軍事、交通

2、高岡市

イ、人口……昔と今(盛?衰?)

ロ、越中米と本市

ハ、銅器、鐵器、漆器と歴史

ニ、射水神社……公園、櫻、都會と公園



ホ、發達原因……平野、伏木港、商業、交通

五、總括

1、人情、氣風

イ、忍耐……實業界の淺野氏、地理的原因

ロ、不敏性……自然の影響

ハ、溫情

2、宗教

3、水電王國

イ、地理的原因……地貌と河川、雨量

ロ、供給國としての日本に於ける位置

丙、時期

一、一般地理教育の以前に取扱ひたい（郷土科の目的から

して)

二、一般地理教育に關連して取扱つてもよい（これには深い研究が要る）

三、一般地理教育以前の取扱ひとすれば第四學年の第三學期頃がよい。

丁、結 論

一、基礎觀念養成上より地理科としての模式的材料を採つた。

二、愛郷の念養成上より郷土の誇（地理學上の價値は別問題）に着眼した。

三、地と人との關係の比較的明瞭なものを資材に擧げた。

東礪波郡城端區域研究會

大 鋸 屋 校 石 村 正 一

然であり又必然さうなければならぬものと信じます。

茲に地理科たるや廣汎なる未見未踏の地を取扱ひ直觀經驗することの出來ぬ教科なるが故に郷土に立脚して地理科の基

本觀念を養成しやがて他を類推想像せしめねばならぬものだと思います。

地理科にして直觀經驗よりせんとならば、兒童の朝夕親しんでゐる自己の町村より入らなければならぬと思ふ。自己の町村に始まつて漸次是を擴充 延長 てやがて郷土としての富山縣に及ぶべきものと思ひます。

或ひは言ふ「我々礪波のものは、新川邊の事は實地直觀が困難であり、従つて殆んど未見未踏の地であるから他の府縣も同一だ。故に富山縣を初期より取扱ふのは無理だ」と。然し自己の縣たる富山縣は生活の一單位であつて自己の生活に緊要な有機的關係をもつてゐるものである。又政治地理の基本でもあると思ふ。加ふるに本縣は自然的區域と政治的區域と相一致してゐるので郷土縣として取扱ふのには理想的だと私の常に信じてゐる所であります。

それでは何時やるべきかといふ問題ですが尋常五年の初期に取扱つて大要に止め富山縣について一通りの概念を得させて置くべきだと思ひます。地理學習の初期であるから理解し得る程度に取扱ひ地人相關の理法推究發見などを初期より餘りにも強ふべきものでない。學習の進行につれ無理の來ぬやう自然的に地理眼を養成すべきものと思ひます。

要するに基本觀念養成といふことが主目的であつて郷土たる富山縣を日本地理學習の出發點とし教科書順に進みたいと思ふ。中には富山縣をやりそれを漸次押しひろめて中部地方へといふ人もあるが中部地方の地勢は初期の兒童には復雜でむづかしい様に思ふ。それよりも關東地方は北西に山を廻らし利根川を血管として關東平野がひろげられてゐる。本縣の地勢といくらか似てゐる點もあるやうに思はれやうと思ひます。殊に關東地方はあらゆる文化の中心點で、我が國の首腦部である。八千萬國民の意向を帝都に注がせる點より考へても關東地方を先に學習すべきものと思ふ。

またある人は、第一日本に進むのは、餘りにも區域が急に廣がりすぎて學習困難だといふが思ふに全體を通覽し、然る後各部分に分解研究し、更に又全體的にまとめる、是が物の研究の順序であると思ふが故に、強ち第一日本から入るも無理でないと思ひます。

要するに以上の如く、色々考究させられる點がありますが、富山縣を出發點として教科書通り進むのが最も妥當と思ふ。郷土としての富山縣は尋五初期に取扱ふのみならず全地理教科の背景とし常に新教材を活かし同時に郷土觀念の擴充を計るべきだと信じます。



### 東礪波郡福野區域研究會

福野校 澤邊 巨 翠

一、指導の目標 素晴らしい勢で人事が變遷しつつある。今や我等は獨り晏如たるを許されぬ。世界の現状を知ることさへも容易でないのに將來どうなることかと案じて見るとジツトしては居られない。文明の進歩と共に地理教育は益々必要を感じる。我等は眞に誤のない世界を知らねばならぬ。眞に偽のない日本、偽のない地理を知らねばならぬ。而して是を第二の國民に知らす可き義務と責任を有してゐる。さて地理誌教授の目ざす所は1、之によつて地理科學習の基礎觀念を養成する方便とし、2、又教授の歸結點として、兒童の觀念を明瞭にする事、3、地理を理解せしめて地理的の自覺を興へること、4、尙その上に愛國心の源泉たる愛郷心の基礎を確立せしめると共に、5、更に明敏なる觀察力の養成にあると思ふ。

二、指導の計劃 1、地理區の設定、地理教授の單元は自然(地形・氣候・植物等)人文の各方面から觀察して地理的景觀の最も特色ある地域に區分して取扱つた方が最も其の土地に即し得て些なりとも生きた教授が出来ると思ふ。故に私は

川、小矢部川、庄川の谷を含んだら、かと思つてゐる。然も幸に海岸から山地まであらゆる地理的變化をもつてゐるので都合がよい。  
3、小地理區について。更に小地理的單元に分ければ1、水見丘陵地及有磯海岸、2、射水平野、3、伏木、4、礪波平野、5、南礪の臺地、6、庄川上流山地、7、八尾附近丘陵地、8、富山平野(神通川流域の狹義の富山平野)9、富山以東の海岸、10、黒部川沖積平野、11、宇奈月平野及黒部川上流峽谿、12、立山、13、水力發電地帯等となる。

三、指導の概説 1、有磯海岸 漁業地帯をなしてゐる。其の中心は水見漁港である。  
2、射水平野 庄川によつて灌漑せられ、土地肥沃農業よく行はれ田園開け、住民の密度も大である。米産が最も多い。高岡市が此の平野の中に於て繁榮してゐる理由を調べさせねばならぬ。  
3、伏木 港で發展した町である。兒童を港に導いて水陸の連絡地として活動せる其の實際を直觀させて、適切なる指導を加へる必要がある。次に觀察指導の要項を挙げよう。

A、港は郷土の玄關であること。港が吞吐集散する貨物の種類を調査せしめて、郷土に出入する重要貨物の品目を知ら

本縣の地理誌を授くるにも、一々地勢・産業・交通・都邑等といふ様な所謂大體的單元を避けて出來得る限り自然的な區分に從ひ度いと云ふのである。

地理教授は地理的單元に依つて被教育者に地理的知能を得しめるのである。地理的に統一された個々の地域を一個の物として研究するのである。被教育者が將來實社會に起つた時總ての出來事を其の地理的地域の中に編み込んで行かせることは如何なる職業に従事する人にとつても有益な事である。如何なる職業もその環境に多くの理解を持つ事が能率ある生活をなす事を意味すると思ふ。又教授の能率から論じて見ても、地理區によつて同一地帯を一括して説明する時は其の説明の重複を避け、時間の節約をなし得る點に於て効果が大きいと思ふ。

2、富山縣の地理的領域 本縣地理誌取扱の地域は、東は立山、白馬を含む日本アルプス及觀不知の嶮崖、西は能登、加賀との國境山地(石動山、俱利伽羅峠、醫王山等)を入れ南は飛騨高地を含み、河系から云へば神通川を中心に、黒部

しめると共に、恰も一家に出入する品物が總て其の門戸を経ると同様に、一地方に出入する旅客又は貨物に對しては港が吞吐の玄關に當るものであつて、港灣の良否や施設の如何は郷土の繁榮に至大の關係を有する事——港に於ては貨物の集散が陸路の都會に比べて遙かに瀕繁である理由(富山驛・高岡驛等に於ける貨物の取扱數と比較して)を明かにせねばならぬ。

B、港の發達要素 郷土の海岸の中で、何故特に此處に港といふ聚落が發達したかと云ふ其の原因を推究せしめ、更に現在港の發達の趨勢は如何なる状態にあるかといふ様な事を考察せしめて、凡そ港としての價值を決定するものは、自然の地形と人工の如何にあると云ふ事を確實に了解せしめ、尙實地に就いて、海岸線の出入、港口の形狀、港面の廣袤、港の水深と底質等も觀察せしめ、併せて背後の地形との關係をも考へさせ、港の發達は又大いに背後の土地の、經濟的發展と密接なる關係を有するものである事を明かにしたい。

本港と新潟・酒田・土崎港とを比較して、河口港としては稀有の良港であることを知らしめ、更に陸上設備の條件たる電力は電氣王國內の餘慶により低廉且自由に得られるのと、勞働者の質實勤勉にして荷役作業に洗鍊されてゐる等は最も特



長とする所で、此等の特長は伏木港が後背地にその商域を擴張することを速に可能ならしめる事をも理解せしめ度い。貿易の状況を調査させ今や名實共に日本海の要港であることを明かにしたい。

河口一帯は今や縣下第一の工場地帯をなし、煙突併立し活氣を呈してゐる。此の地に工業が勃興する所以を明瞭にせねばならぬ。

4、礪波平野 A、庄川・小矢部川によつて灌漑せられ概ね米産地帯をなす。射水・富山の平野に比較すると、その發達遅々たるの感がある。従つて都邑の如きも著しく目立つものがない。此の原因は主として1、商工業によつて發展してゐる町が少いこと。2、住民の氣質が一般に保守的であり、とかく識見固陋を免れないが爲、其の生業にも此の氣風が與つて影響してゐること——即ち大部分の者が従事してゐる農業に就いて見ても、其の方法は概して父祖傳來の耕地を相續すかと共に直ちに舊法を襲用して只管之に違背せん事を恐れ、進んで之が改良進歩に意を用ひる事が甚だ少いこと——等を考へさせたい。(註——斯うした氣風は獨り礪波の住民のみが有して缺點ではなく、我が縣民全般に共通な缺點ではあるが特に礪波地方の住民に於てその甚だしきを感じるのである。)

川の發電事業完成と共に、將來は水陸共に交通の利便を得て此の未開地も次第に開發されて一大産業地帯を現出するであらう。殊に養蠶業等は最も有望視されてゐる。

附加——庄川水電事業の完成に伴つて、將來の發展を囑望されてゐるものには井波町がある。

7、八尾附近丘陵地 此の地方には如何なる産業が發達してゐるか？ 飛越線全通に伴つて八尾町は如何に發展するか？ 現在養蠶業の盛な事は縣下一であることを知らせる。

8、富山平野 A、此の平野が産業・交通・都邑共によく發達してゐる理由を擧げさせ、矢張り水田が最も多く米が主要の産物であることを知らせ、越中全平野より産出する米の數量を調べさせ、本縣農産物の大宗は何と云つても米であることを如らしめ、さて此の米は如何にして消費されてゐるか。管外移出額はどれ位か？ 何處の港から積出されるか等について答を求め。

B、富山市 本市が郷土文化の中心をなし、郷土第一の都會をなす理由に就いて推究せしめ、併せて都市計劃の意義並びにその状況をも知らさねばならぬ。

C、賣藥について 今日富山の反魂丹か反魂丹の富山かこれまでうたわれてゐる賣藥も一日にして此の地位が築き上げら

はその環境に支配されてゐる事も大きな原因であるが、一つは自覺の足りない事にもよるであらう。従つて古より未だ大人物の輩出を見ないと云ふ事等も附加して兒童の發憤心を喚起させ度い。

B、小工業地として稍々活氣を見せてゐるものには福野・戸出等がある。その理由を考察させ度い。

5、南礪の臺地 養蠶業が比較的發達してゐる。そのわけを述べさせる。城端はその中心を占め、絹織物を産する。

6、庄川上流山地 A、東洋第一といふ堰堤——總工費二千萬圓、セメント五十萬樽をぶち込んだ東洋第一と稱するダム式發電所——庄川小牧堰堤は、今や九分九厘まで工事完成し、何時からでも灌水七萬二千キロワットの發電を開始するといふ。この堰堤の湛水量は十三億五千立方メートルで東海道全線の電化も此の發電所一つあれば十分だと云はれてゐる。(大阪朝日の記事に據る) 此の如き大規模な水力發電所が郷土に出來た事を知らしめると共に、水力發電に關する知識を賦與せねばならぬ。(之に就いては、後の方で述べる事にす)

B、五ヶ山谷 今は縣下の僻陬地であるが近き將來に於てはどう變遷するかといふ事を研究問題として與へる。——庄

れたのではない。我々の祖先幾代か人命救済の大願念のもとに不斷の雄飛心と粘着力によつてコツ／＼と築き上げたものである事を知らしめねばならぬ。今や各都市をも合して營業人員一千四百名、生産額二千二百萬圓に達し遠く南米ブラジル及びメキシコまでへもその販路を擴張してゐることを述べ、將來の縣民は此の事業に對して怠る事なく、よくその時代に適應した改良と海外市場への販路を擴め、益々その聲價を高める様努力することは、實に祖先の遺業に對して忠實な許りでなく、本縣産業の發達に貢獻するこ多大なるを自覺せしめねばならぬ。

D、東岩瀬港 富山市の外港としても本縣の支關としても要地にあるが港勢は未だ伏木に及ばない。——此の理由を考へさせると共に之が發展策を考究せしめる事は富山市發達の爲にも、郷土の發展上にも必要である。

9、富山以東の海岸 大體に於て西部の海岸と相似てゐることを觀察せしめる。魚津は魚港として氷見と相對してゐる。海岸地形に就て觀察せしめたる總括として、眞の良海岸とは如何なるものであるかを了解させて置くがよい。

10、黒部川沖積平野 米の外に近年關東・關西方面で多大の聲價を博してゐる黒部西瓜の特産がある。是も土地の力の



外に人の力即ち人間の努力が加はつてかく發達しつゝある事に注意させねばならぬ。産業の發達要素として地勢、氣候等の自然の關係は常に述べられてゐるが、やゝもすると尊い人間的關係が無視され勝てある。

11、宇奈月平及黒部川上流峽谷 黒部鐵道の終點宇奈月は黒部峽谷の關門であり、峽谷を中心として諸方面へ登遊の策源地である。温泉地帯であるが未だ廣く天下に知られてゐない。其の理由を考察せしむると共に、今後此の方面への登遊客を多く誘致せんとするには如何にすべきか？ その案を作らせるのも興味あることであらう。

12、立山 越路空高く峨々として天空を摩する立山こそ天下の名山であり、我等が郷土の誇である。名實共に國立公園たるべき素質を充分に備へてゐる。兒童には山麓から頂上に至るまでの植物分布状態を知らせたり、登山經驗談を話したり又登山日程を作成させたりすることは、一方には登山の智識を得しめ、又一方には山嶽愛の精神を鼓舞する事が出来て好結果を與へることと思ふ。

13、水力發電地帯 日本アルプス連峰から北流する黒部・常願寺・神通・庄川を始めとし大小十餘の河川は何れも水勢急にして水量も亦豊富なるを以て、今や殆ど發電地帯と化し全

國無比の電氣縣を現出してゐる。發電能力は實に八十九萬五千五百キロワットと推計せられ、既に發電を了へるもののみにも約二十四萬キロワットに及んでゐる。此の要素はやがて産業の發達に伴ふて逐年激増の勢を示し、其の需要は益々急を告ぐるに至るは明かである。要するに本縣電氣業の將來は益々有望となり、やがては全國屈指の一大工業地帯を建設し、名實共に「電氣王國」となるの時期に至るであらう。

かゝる電氣縣に生れた兒童に對しては、彼等を發電所に導いてその規模の實際を見學させ、水が如何にして電氣になるかを觀察せしむると共に、各自の家庭に用ひてゐる電燈電力と結び付けて水力電氣に對する常識を充分に授けて置かねばならぬ。次にその要項を記して見よう。

(1)發電所は如何なる地點に出来るかといふこと——地理書には自然の河川・湖沼のみをあけてあるが、最近河の兩岸が迫つてゐる地點に堰堤を築き、その上流に水を湛えて人工的に湖水を造り、その下に發電所を設ける、所謂ダム式發電所が發達しつゝある。庄川上流の發電所は此の方法によつたものであること。——此の方法と自然の急流を利用したものは何れが多くの長所を持つかは兒童に研究させる。——敢て困難な事ではないから。

(2)河川が發電に利用さるゝか否かは、その土地の地勢と雨量との關係に依る事多く、四周の他の動力、例へば石炭とか石油の産地に對する關係及び文化の發達地帯に對する位置關係等によつて定まるものである。

(3)電氣は如何にして發生するものか。

(4)世界と日本と本縣との發電事業の比較。

(5)電氣と他の燃料動力との優劣について。(勿論具體的に説明せねばならぬ)

(6)電氣の用語中普通最も多く使ふ馬力とキロワットとの關係を明瞭にして置く事。(是も具體例を示して)

四、地圖に就いて 1、地圖は廿萬分の一は本縣を中心とした交通系や遠足等の地域が明瞭になるし、五萬分の一、二萬五千分の一は小地理區が明かになるし、一萬分の一は兒童の學校所在地やその附近(彼等の郷里)を最も詳かに理解せしめる事が出来る。學校にクラスの半數分程の地圖を用意しておけば、二人に一枚づつ使用せしめる事が出来る。兎に角是等の地圖に充分親しませておくことが必要である。

2、子供が人から道を聞かれても口で話すより畧圖を書いて示せる様に訓練され、ばよいと思ふ。多くの口數を以てし

ても、到底理解もされず、覚えられぬ道順でも鉛筆でスケッチ圖を描けば直ぐわかるのである。容易く地圖を描くといふ能力を養ひ度い。是等の練習は先づ自己の郷土の地圖を描くことから出發させ度い。義務教育を終つた者は二十萬分の一の帝國圖位は誰でも有効に使へる様に訓練したい。それ等については外人はよく修養が出来てゐるといふことである。

3、他人の住所を探する場合でも各辻等に番地入の地圖があれば何も面倒なことはなく、どれだけ時間と努力とを節約する事が出来るかも知れぬ。國民全體がもつと地圖を利用する様になるために義務教育の時代から教養したいものである。

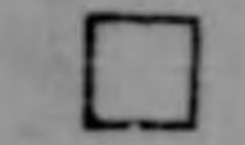
五、指導上の注意 1、兒童の學校の所在地については、地理的にどんな位置にあるかを知らせ、又その附近の地理については最も詳細に研究させる必要がある。

2、一日遠足として更に實地觀察を行ふべき機會を與へてやりたい。

3、最初郷土誌としては比較的簡單に述べて、遠足の都度詳細にそれについて教授した方がよいと思ふ。

愚見を羅列致しました。切に各位の御批判を仰ぐ次第です。





# 東礪波郡出町區域研究會

出町校 西 部 平 信

## 郷土富山縣取扱の目的

一、基礎觀念基礎地理眼の養成に資す(主として自然的方面)

1、地圖の讀み方

イ、縮尺、高低、符號、方向等

ロ、實地を地圖化する事

2、學習要項

位置、面積、人口、區域、地勢、氣候、産業、交通、都邑

3、時期

イ、尋常四年後半又は第三學期

ロ、尋常五年始約五時間

二、日本としての富山縣及富山縣と日本との地理的關係を知らしめる(主として人文的方面)

1、富山縣の特質

イ、位置上……裏日本の中央を占め、日本海の焦點に當る

ロ、地勢上……

ア、南東西の三方は山地に圍まれ、北は海に瀕し、中

は一大平野をなし、一單元を形成す

ロ、川の多き事と、流が急で、其の流れる向が輻射狀をなし、富山灣に集中す

エ、南は我國最大最高なる飛驒高原で、其の北斜面は扇狀地をなし、海は良港を有せず

シ、富山灣の大部は沈降し、海岸の土地を失ふこと(日本海方面の特質)

ハ、氣候上……

ア、春夏は雨量少く、秋冬多し

イ、地形上より更に雪の深きこと

ニ、交通上……

ア、地勢上昔は陸上交通不便

従つて、海上河口の交通早くより開けたり

イ、現今(羽越線開通以來)は奥羽北海道と近畿との中間の地位に當る

ホ、産業上……

ア、地勢氣候上より水田多く、米産に富む

ロ、尋常六年の終約七時間(地理科の仕上げ)  
郷土富山縣取扱方法

一、位置

1、日本島の大骨格たる飛驒山脈飛驒高地の北面

2、昔は京都より越後出羽への途中

3、今は大阪神戸より奥羽北海道への途中

二、面積人口

面積 二七六方里 第三十二位

人口 八三二〇〇人(昭和二年末)

密度一方里に付三〇一四人(年々増加)

大正十四年二七一四人

大正九年 二六二四人

三、地勢

1、山

山地、山麓帶、平地、海と規則正しいこと(ドイツに似たり)

南、飛驒高地……約二千米

東、飛驒山脈(立山連嶺)……約三千米より五百米(白馬岳二九三四米)

西、寶達山脈……約五百米(碓石峰四六九米)

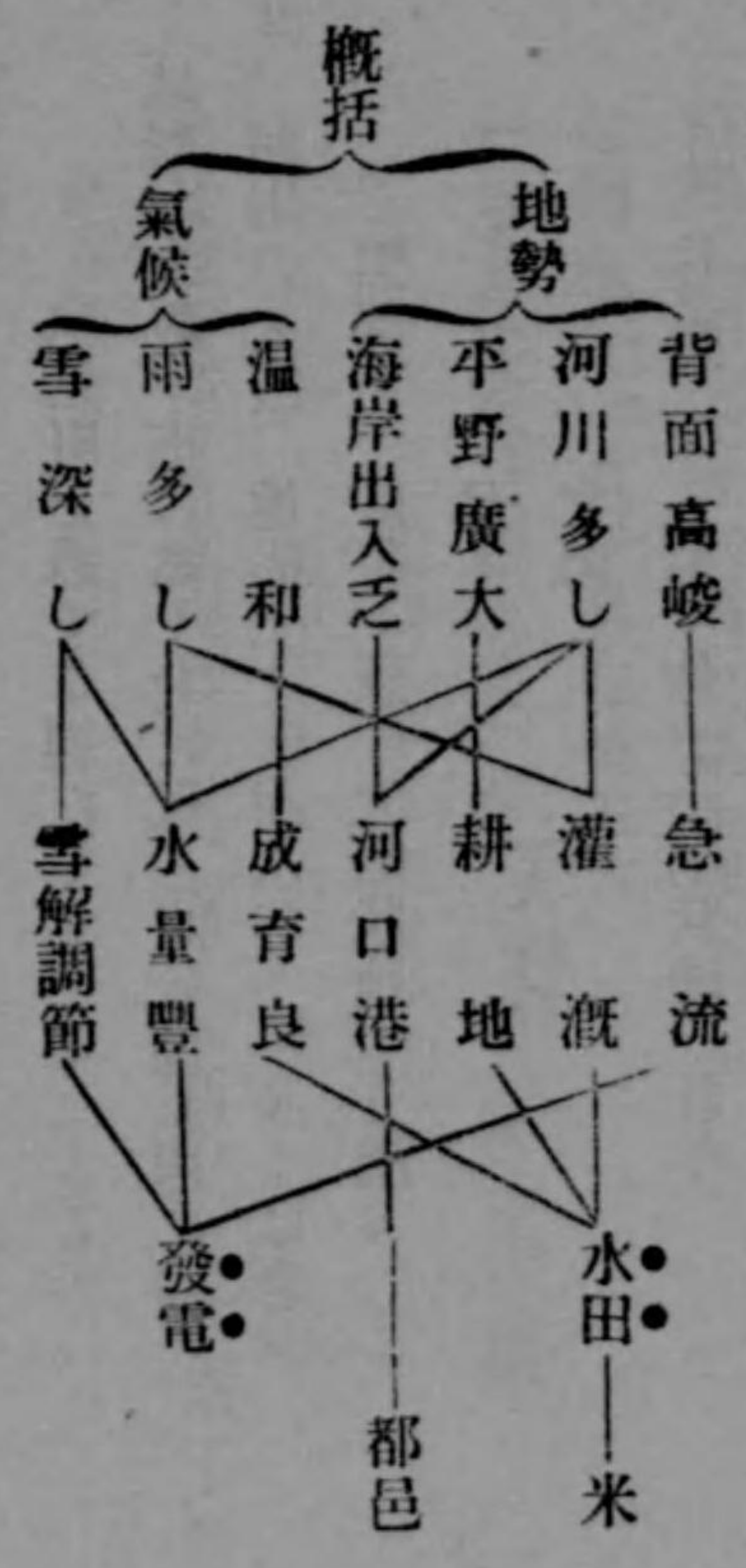
ヘ、都邑上……

ア、海岸又は河川に沿ひ發達

イ、大都會なきこと

ト、其他……自然の險と戦ひ、海と戦ひ、出稼、出寄留移民多し

背面高峻——急流



2、時期

イ、教科書の各個所(他地方と郷土との聯結)



縦断面、富山市を通ずる線にて、東及西を見るもの  
横断面、富山市を通ずる線にて南を見たるもの

水見町を通ずる線にて北を見たるもの

地形の大観、南に高く北に低く東に高く西に傾く

2、河川の大観、地形上より河水へ……多くは急流

黒部川 壯年、急、大扇狀地、分流多し

日本アルプス

立山 大峽谷

片貝川 稍々急、小扇狀地、壯年

早月川 稍々急、小扇狀地、壯年

常願寺川 壯年、稍々緩、中流より多く分流を出し神通川に合す、小扇狀地 水橋町

神通川 稍々老年、稍々緩 東岩瀬町

庄川(射水川) 稍々老年、分流は小矢部川へ、扇狀地をなす 新湊町

小矢部川 伏木町

利用上

イ、東部の河川は水運が少く、發電に利用され、西部の河川は之に反す

ロ、伏木港の如き、我國最好の河口港  
ハ、西部の河川は、上流の地質により特に沃野を作る

3、海、東に淺く(隆起)西に深し(沈降)

四、氣候

1、地形、風向、暖流の影響により概ね温和多雨

2、夏季晴多く、秋冬は雨雪多し

3、氣候より河水へ

多雨多雪——雪解永續——水量豊富

4、霜と雪 (昭和元年富山市に於ける)

晩霜四月二十三日 晩雪四月二十六日

初霜十月二十一日 初雪十一月十五日 植物成育期間

5、廢氣樓

五、産業

1、大観 河川急 海 雨量多 氣候良 成育便 水田 農業

2、農業の現状 河川急 灌漑便 耕地廣 水田 農業

水力 工業 水産業

業産大三

3、

4、

5、

イ、耕地

總面積百に付田一八、七(第六位)

畑 三、七(第四十一位)

人口一人に付田一〇畝二三歩(第二位)

畑 二畝〇三歩(第三十六位)

ロ、水田

總反別 八〇六六一町歩(第十三位)

全國水田の三十七分の一

縣面積は全國の八十九分の一

ハ、米

昭和二年 一五六萬石(第十四位)

過剩 八一萬石(第五位)

一反歩當收穫 大正十四年一石九斗(第二十五位)

昭和二年 一石九斗六升

昭和三年 二石一斗

ニ、其他各種の農産物あるも、僅に本縣の需要を満すに足るのみ

3、水産業

イ、海岸線と水産業

海岸線一里に對し面積十二方里

ロ、漁獲物

漁港……水見港(内務省補助)

昭和元年四六一萬圓(第十四位)

日本海方面としては第一位

いわし一二六萬圓(第四位) ぶり 六二萬圓

いか 三四 ます 一九(第二位)

たひ 一八 たら 一七(第五位)

あじ 一七 ほたるいか(特産)

ハ、製造物 三三一萬圓(第十六位)

鹽いわし七二萬圓(第一位) にぼし 三八萬圓

粕 三〇 鹽ぶり 一一(第一位)

4、工業

イ、工業品(特殊のもののみ)

昭和二年 昭和元年 同上順位

賣藥 二一七五萬圓 二七〇〇萬圓

絹織 六七三 七四二 第十二位

麻織 一一〇 一二三 第八位

肥料 三八六 四〇七 第十二位

西洋紙 三五八 四七六 第七位

工業藥品 一四七 一五四 第九位

三一五



漆器 一二三 一一八 第九位  
瓦 九一 一〇三 第十三位  
口、水電(昭和三年)

河川 發電力(Kw) 未成(Kw)

全國 二五〇 二二一五四二五 七四二〇三五  
日本海方面 七一 七八八二八八 三八七四三六  
富山縣 一一 一五四四四一 一二〇一五〇

發電力ハ全國ノ十四分ノ一(第五位)

面積ニ比シ第一位(本縣一万里五六〇ミ、長野三二一Kw)

蟹寺 (神通川)四五四四ミ 大阪へ

柳河原(黒部川)四〇六〇〇ミ 大阪、名古屋へ

ハ、原料

土地……地勢上——海産肥料

地質上——瓦

氣候上——漆器

他地方……北海、樺太、支那

ニ、現状批判

總産額 九二〇〇萬圓(昭和二年)本縣ノ五割七分

地ノ利……水力電氣豊富、海

將來の交通——高伏運河、富岩運河、飛越線  
不利……原料乏、供給地への交通不便

六、交通

1、陸上

氣候——風雪

地勢——三方峻

從來は峠と川谷によるのみ

鐵道……北陸線——東京大阪間大迂回

羽越線開通以來——大阪北海道の捷路

將來は背面の名古屋(濃尾平野)と連結

2、海上

良港乏……河口港として昔は大いに利用された

風雪

商港——伏木——河口の利用

將來高伏運河、富岩運河開通、而も近代工業は伏木、

高岡に發展するを思へば大いに囑目される

3、伏木港

取引先——主に北海道、樺太

北鮮航路と將來の伏木港

昭和二年 伏木 新潟 敦賀

入港船舶 七九萬噸 七三 五〇

輸出入 六五〇萬圓 八七〇 八二三

貿易額 十二年 十三年 十四年 元年 二年

伏木 三八七 五五九 四二九 七三七 六五〇

敦賀 五一一 五二二 六六六 八〇〇 八二三

新潟 三〇九 五六六 六五七 六九七 八七〇

過去數年ノ狀態カラ見レバ三港伯仲

七、都邑一萬以上……七(内市二)

1、分布(昭和二年)

富山市 高岡市

新湊町 二二五三二人 氷見町 一五五七七人

魚津町 一三七五六 伏木町 一一八三一

滑川町 一一二一五

2、富山市(人口増加)

明治三十一年 六萬人 第十五位

昭和二年 八萬四千人 第三十九位

三十年同位にあつたもの

小樽、和歌山、岡山、熊本……十萬乃至十五萬

三十一年以下にあつたもの

札幌、新潟、静岡、濱松、堺、吳、下關、八幡、佐

世保、門司……十萬乃至十五萬

3、高岡市(人口増加)

明治三十一年 三萬一千 第四十一位

昭和二年 四萬六千 第七十位

三十一同位にあつたもの

長野、松本……七萬

三十一年以下にあつたもの

青森、宇都宮、久留米、小倉、豊橋……七萬

濱松、吳、八幡、門司……十萬以上

西礪波郡福光區域研究會

福光 校 川 原 勝 仁



郷土地理教育の目的

郷土地理教育の目的とするところは二つある。一つは郷土を充分理解させることによつて愛郷心を養成するにある。今一つは郷土の自然と人文及びその相互の關係の概要を知らせて、地理教授に必要な基礎觀念を養ふにある。この何れをとるかによつて、以下論ぜんとする教授の時期、方法、程度等が決定されるわけである。勿論その兩者とも重要な目的であるが、私は左の二つの理由によつて、後者の基礎觀念養成といふ方面により重きをおきたいと信ずる。

1、郷土を充分理解させることは甚だ困難な事で、短時間では行はれ難い。故に在學中あらゆる機會に於て常に郷土と比較關係づけることによつて理解せしむる様努力したい。

2、尋五に進級した兒童が非常な期待をもつて、地理といふ新教科を迎へるのであるが、動もするとこの尊い希望が裏切られることがある。これは未だ讀圖力のない兒童に暗記的な事項を無理に強ふるからである。故に日本地理に入る前に兒童の常に接してゐる郷土の地理を課することによつて、基礎的觀念を養成すべきである。

郷土地理教授の時期

郷土地理教授時數と教材の配當

尋四以下の讀方その他の學科に附帶しし取扱ふべきは勿論である。遠足旅行乃至校外教授によつても、同時に地理的觀念の養成、讀圖力の指導をなすべきである。國語讀本中に於ける最も重要な地理的教材は卷三「四方」私の村」卷五「遠足」等て殊に「遠足」に於てはある地圖と同程度の郷土地圖を與へて讀圖力の養成をなすべきである。尙教科としての地理教授に入るに當つて郷土としての富山縣を整理的、系統的に指導することは大へん重要なことである。之を課する時期に二通りある。一は尋常四年に於て授けるといふ法、一は尋常五年の初めに數時間を割いて課するといふ法である。前者は如何なる時間を割いて之に當てるかといふことが大きな問題であり、後者は日本地理の教授時數を浸蝕するといふ點に於てあまり好ましくない。私の學校では尋常四年の第二學期より始め、第三學期の終りまでの間に於て、十時間の豫定で一週授けること、して教授細目を編成し實行しつゝある。時間は雨天の屋内體操場使用不能の時間、課外、他學科の割き得る時間、等を都合すれば十時間位は不可能なことではあるまいと思ふ。その結果によつて更に來年度は改善したいと思つてゐる。

私は教授時數を大體十時間とし、第二學期に六時間、第三學期に四時間とした。毎週何曜日といふことは定めておけない。然し少くとも教授の前日これを兒童に豫告することは勿論である。私は第一時に福光町及其の附近の地圖(卷五遠足と同程度のもの)を與へ、地圖、方位、縮尺等について教へ第二時にはその地圖をもつて、校外へ出て實地と参照せしめ校外散策をなす。第三時以下は富山縣を四つの地理區に分けて左に示す順序によつて授けること、した。

順序	教 材	時間
1	福光町及其の附近	一
2	校外教授	約一
3	小矢部、庄川流域地帯 礪波平野區 高伏工業區、礪波山地區	一
4	氷見沿海地帯	一
5	神通、常願寺川流域地帯 富山平野區、立山山列區	一
6	黒部川流域地帯 黒部扇狀地區、黒部崑谷區	一
7	富山縣總說	一

位置、面積、人口、地勢と氣候	産業、都邑と交通
日本に於ける富山縣の地位	〇、五
世界に於ける日本の地位	〇、五

尋四以下に於て授ける郷土の材料は基本觀念の整理に必要缺くべからざるものだけに止めたい。尙尋六の終りに於て總括的に取扱ふといふ説もあるが、それについては未だ充分な研究をす、めてゐないため、に書くことを避けたい。

富山縣の地理區緒言

富山縣には五つの大きな川がある。小矢部、庄、神通、常願寺、黒部が富山灣の或點に向つて急傾斜で流れ込んでゐる。此の五川は三つの孤立した流域を有して各々地理的景觀を異にしてゐる。他に氷見海岸は二上山脈によつて全然異つた一單元をなしてゐる。かくして私は富山縣を四つの地理區に設定した。

富山縣の地理區

名稱については流域と言へばほんやりしてゐるが、これは



支流をも含むから當然山地が取り入れられる。随つて他の地理區との境界は概ね山嶺を連ねることになった。その結果は大體に於て郡界線と一致したのである。

#### 一、小矢部川、庄川流域地帯

小矢部川、庄川流域地帯は射水、兩礪波三郡の廣い沃野と各支流の發源地たる山地と、更に伏木、高岡の工業地帯とに分ける。

#### 1、礪波平野區

二上、醫王、高清水の斷崖下に庄川のつくつた沖積平野である。他の何れの地區より産米多く所謂礪波米と名つけられ伏木港より北海道、樺太に移出され、近年は鐵路にて東京の市場に出される。乾燥期に氣候不順の爲と、地干しをなすため米質不良の評がある。山麓地帯は丘陵地に桑を栽培し養蠶をなす。かくして山麓養蠶地帯といふ一地理區を形成してゐる。これは婦負郡八尾の養蠶地帯と不可分のものである。この繭は生絲業者の手に賣渡されこの邊の農閑期に婦女子に賃繰を委託する。これが婦女子の唯一の職業で、どの家からも繰を繰る音が聞える。これ等の製絲地域は前述の養蠶地帯の如く山麓製絲地帯を形成し、福光がその中心をなしてゐる。養蠶をなして製絲にまで進んだが、織物原料の製絲は得易く

努力には尙餘裕があるので更に一步進んで織物等まで發達するのは自然の勢である。明治年間まで全く賃繰であつたが漸次小工場が起り、こゝに半家内、半工場式の山麓織物地帯を形成し、城端が中心をなしてゐて縣下第一の絹織物を生産してゐる。次に注意すべきは村落郡邑の分布である。萬遍なく村落は分布されてゐて、日本に於ける代表的の散村式村落をなしてゐる。これは他に大きな原因もあらうが庄川の氾濫によつて出來た荒廢地を開墾するために村落が散住したもので現在北海道の開墾地にもかゝる形式の村落を見る。この村落を卒んで存立する、城端、福光、井波、福野、出町、戸出、中田、津澤、石動、福岡等は戰國時代の群雄割據の状態を思はせる。

#### 2、礪波山地區

木炭及び薪を供給し多くは山麓線上の溪口聚落にて賣買される。近年石炭、電力等の使用盛んとなつたため稍不振の状態にある。かくして雜木林は伐採されて植林をなす傾向がある。富山縣の陸島とも稱せらるゝ五ヶ山は養蠶を主生業となす。家の構造は藁葺二階建て、つま及び頂きに大きな高窓をつけ養蠶期の通空に便する様特別に造られてある。庄川の急流には、祖山、青島に大ダム式の發電工事が行はれてゐる。

### 3、高伏工業區

伏木、高岡、新湊一帯は本縣第一の工業地帯である。射水平野は教授の便宜上この區に包含せしめた。王子製紙、伏木板紙、北陸人造肥料、電氣化學工業、北海曹達、中越製氷、日本鋼管電氣製鐵、樺太木材紙料、伏木冷魚、日清紡績、高岡燐寸、高岡合板、高岡染業等の工場が櫛比してゐる。將來は小矢部川兩岸を工業地とし千保川筋の工業地を連絡せしめ、更に庄川廢川を利用して高伏運河を開鑿して交通運輸の便に供し、その兩岸をも工場地となし、こゝに一大高伏工業地帯が建設されるのであらう。伏木港は大豆粕、木材、石炭、燐鐵等を輸入し、米、薬工品を移出し、本縣否日本海方面に於ける重要な開港場である。

#### 二、氷見沿海地帯

第三紀層からなる二上山脈によつて越中平野より全く切り離された別天地である。三方山を繞らし東方一部のみに有磯、灘の兩浦に面してゐる沿海魚業地帯である。氷見は本縣第一の魚港で氷見鱒、氷見鮭は最も知られてゐる。繭製品は農家の副業として普及されてゐる。礪波平野の郡邑が群雄割據状態なるに反し氷見町がこの地帯に女王の様な地位を占めてゐるのも面白い對象である。平野には米作をなし沿海の砂地及

山麓地帯には、桑、甘藷を栽培してゐる。

#### 三、神通、常願寺川流域地帯

これは婦負、上新川、中新川三郡を一括した地域である。八尾、上瀧、柿澤を連ねる山麓線によつて山地と平野の二區とした。

#### 1、富山平野區

神通、常願寺川をつくつた沖積地には米作をなす。飛騨高地から笹津のギャップを通つて流れ出る神通川は扇狀地を奔流して荒れ川をなすため本縣ではその治水工事に莫大の費用を投じてゐる。排水良好な壤土よりなる吳羽丘陵には茶畑、桃畑、野菜畑があつてこれ等は多く富山に於て朝市をなし賣買される。西に面する緩斜を利用して冬はスキーをなし、春は花見に、富山市民にとつて吳羽山は重大な役割を演じてゐる。山麓は礪波山麓地帯と不可分の養蠶地帯で八尾は蠶都である。四方、岩瀬の漁師町でとれた新鮮な魚は電車によつて富山市に供給される。賣薬と言へば直ぐ富山を想起する。それ程本地區は富山市を中心として水橋、五百石、上市、四方の各地に産出され逐年増加しつゝある。これは自然地理に原因すること少く全く歴史的發達に起因するものである。郡邑は四方、岩瀬、水橋、滑川、上市、五百石、上瀧、笹津、八



尾、吳羽等が富山市を中心として畧同心圓に配列されてゐるのは、東京市を中心同心圓に從屬してゐる關東地方の都邑のそれを思はせる。

## 2、立山山列區

神通川上流の山地部も含ませて立山山列區と名づけた。スキーマンの喜ぶ彌陀ヶ原の舌狀熔岩臺地は平均約六度のスロップをなしてゐる。こゝを通過して五個のカールを有する雄山、壯年期の劍山等を究め富士岩の裂隙より湧出する立山硫黄泉に一浴するのも愉快である。地獄谷の硫黄が實際に利用されるのも近い將來と信ずる。

## 四、黒部川流域地帯

元政治區域の下新川郡の全域を指す。然し郡境界は仙人湯附近で峽谷を二分するのは不自然だから私は峽谷全體をこの地帯とした。

### 1、黒部扇狀地帯

黒部川が愛本のギャップを出るところで大きなファンを作り泊、生地、三門市、舟見等はこの周邊部に發達した。この地帯は有名な黒部西瓜の出どころである。なぜ良質の西瓜ができるか？此の研究は本地域を特色づけるものとなつた。なぜ良質の西瓜が出来るかの詮議の前に西瓜栽培の條件をと

り出すことが大切である。澤山の條件のうち西瓜は透水よき砂質壤土又は砂土に適し、成熟期に日射強きことが須重なものである。本地域は黒部川のファンで砂質壤土よりなり氣候溫暖、成熟期の七月は晴天つき日射量多きことによつて解決されるやうである。右條件の外に本地域の人が西瓜改良に力を注いでゐることが附け加へられる。これ等は入善、生地、三門市の諸驛より東京、北海道、長野、大阪、金澤等に輸送される。古い村落は八の字形の斷層崖下に立脈な街村として發達してゐるが後から出來た新しい村落はファンの上に不規則に散ばつてゐる。郡邑は前述した如くファンの周邊部に畧々三角に配列してゐるが、魚津町のみは少し離れて片貝川と早月川のつくつたコンバウンドファンの交點に存在してゐる。北陸街道は昔は黒部の荒れ川を横ぎることは出來ず愛本の狹隘まで迂回してこゝに日本の三奇橋、愛本橋をつくつたが現在では道路の第一條件たる最短距離の法則によつて三門市から泊へ一直線に走つてゐる。このため舟見町は老年期の都邑としてとり残された状態にある。これも自然と人文の面白い地理的景觀である。

### 2、黒部峽谷地

飛驒山脈の中央を流れて日本海に注ぐ黒部川は一つの縦谷

をなして日本に於ける最も深い峽谷として、若い谷の特徴を發揮してゐる。即ちV字形をなしてゐる。黒部別山附近に於て地形圖上で傾斜を測定して見ると三十五度乃至四十度をなし所謂下廊下をなしてゐる。花崗岩類の岩石を貫いて流れ、成因當時の大地裂を盛んに侵蝕しつゝある。この地裂線上に無數に湧出する温泉は探勝者を驚喜せしめてゐる。庄川、神通川と共に發電工事が進捗しつゝある。

### 富山縣の地理區結言

以上淺薄な智識を以て本縣の地理區設定を試み、概説をなしたが直截明瞭たらしむべく左に各區の統一性を掲げやう。

## 西礪波郡津澤區域研究會

北蟹谷校 山田茂七郎

この問答は全く生國を異にする所謂知らぬ者同志の三人が各郷國の環境を楯にとつて、太陽の出没をいひ争つてゐる一つの笑話であるが、この問答は彼等が日夕親しく直觀してゐる郷土を背景としての素直な判斷で、即ち尊き經驗的認識に基いてそれ／＼辨明してゐるのである。吾人はこの判斷を飽

東京の宿屋で山國のものと島國のものがおちあつて、山國のものが、「日は山から出て、山へはいる。」といへば島國の者が「いや、海から出て海へはいる。」といつてあらそつてゐた、そこへ宿屋のていしゆが来て、「へええ、日は屋根から出て屋根へはいるものでございませぬか。」といつた。



までも尊重し、その真意の存する所を眞面目に考慮してやらねばならない。この問答たるや極めて單純な一笑話に過ぎないが、この中には動もすれば郷人の陥り易い偏見固陋な心理を最も適切に表現して居ると思ふ。

かやうに郷土は吾人の意識界に強度の色眼鏡となつて汎く吾々の想像判断推理即ち思想に特色を與へ常に異郷の想像類推にそれぞれ制限を加へて居る。吾人はかやうな根柢の堅い郷土の暈誼の上に生長し且生活を營むが故に、其の思想感情の多くは郷土の風物風土に左右され、不斷この狭苦しい郷土の殻から脱し得悪いのである。従つて郷人の思想、感情は概して偏狭なるを免れない。又吾々が屢々見る夢について考へるならば、眞に想ひ起すことであらう。現時の心的活動が過去の故郷と結合し、一つの事件と背景を具へた夢として再現するのである。吾人の精神界は常にこの郷土から離れ儘としても離れることの出来ない程、堅く吾人の生活につき纏つて居る。

一面「郷土は自己」と言はれて居る様に、郷土の一切は時間的にも空間的にも寔に明瞭に覺知されて居る。例へば郷土に於ける役所とか學校とか寺院等の位置から、道路の方向、長短、河川の曲折及郷土の人事上の出来事に至るまで、手にと

ことが出来るから理解は極めて容易である。これがすべての學習基礎になつて發展する。又私共の實際生活の方面から言つても最も深い關係を持つて居るものである。

吾々は不斷不息郷土から深い印象と強い直觀とを受けて居る。幼い時に得た郷土の印象と、環境が與へた根強い潜在意識として吾人の意識界を支配し吾人の生活につき纏つて居る。

かくの如く郷土を理解し、郷土から受けて居る恩恵がわかつてくると郷土に對する愛郷心が起つてくる、この愛郷心はやがて國を愛する愛國心となるのである。この愛郷心を起すことに盡すには郷土地理教授の力に俟つこと多大である。

小學校地理科の活きた直觀材料はと考へると、それは甚だ少ないものであると思ふ。自然に接し人文方面を目前に觀ることを得るのは極く狭い範圍に及ぶだけである。材料として用ふることの出来るのは郷土のみといつてよいと思はれる。

外面的讀圖、内面的讀圖を徹底させ、地圖と實地とを比較することによつて描圖の根本を知らせ、實習をませて地圖を理解させる。郷土地理を研究的に學習させ、興味を以つて理法を探究し類推を働かす様に學習態度を養成したい。

地人關係について研究させる場合に、私は常にまづ警戒す

る如く想起して指摘することが出来る。かくまで吾人の經驗生活は郷土と緊密に結びついて郷土即自己、自己即郷土の境地に進んで居るのである。如何程生長後長く住居した土地でも、その意識の明瞭の度に於ては到底郷土の知覺には及ばない。

以上の事は世人周知の平凡な事實であるが、未見未踏の地を想像し各地各國の地理を類推して、人類活動の舞臺並に其の活動狀況を知らうとする地理教授から見ると、寔に有意義なもので、何れも無限の妙味を含有して居る。

地理科は郷土以外は残らず想像類推によつて學習する學科であつて、この類推の對象となる觀念は直觀より得たる觀念、即ち郷土的材料の既得觀念に外ならぬ。この基礎がなくては未見未踏の地誌を推測することは不可能である。

故に茲に郷土地理教授の必要が叫ばれて居るのである。郷土地理は極めて立派な直觀地理で、直觀地理の中核をなすものである。郷土地理教授に於て、郷土地理を地理學習の基礎と見る立場と、郷土そのものを理解せしむる立場とある。私共の生活に關係をもつて居る郷土といふ環境を理解することによつて、すべての學習の根柢をなすものではなからうか。

郷土の事柄は直觀することが出来る、實地に踏査し考察する

ることは從來の地理的理法と言はれて居るものが、果して眞の理法と言ひ得るか否かといふ事を嚴正に批判して若しそれが理法としてとるに足らないものである場合には全然之に拘束されないといふことである。例へば「平地に産業が發達する。ここは平地である。故に此處は産業が發達してゐるといふ様な論法は、正當な三段論法かの様に見ゆるけれども、少しく設索するならば、第一の前提は疑はざるを得ない、平地に産業の發達してゐる處もあり然らざる處もある。平地に産業が發達するといふことを、無條件に一つの地理的理法とし、之によつて演繹的に各地を一概に律することが無理なのである。郷土地理を取扱ふ初に於て、よく心すべき事である。

郷土地理が地理教育の出發點たるべき理由については、一列舉するまでもないが、地理教授は兒童に地理的材料を探索させながら、彼等の郷土關係をはやくつかむ様な習慣をつくる様にするのでなければ意味がない。地理的觀念は兒童に直接交渉ある郷土環境からして、最良の表示を見出し得るものである。郷土地理は兒童が世界の地理を理解する唯一の標準であり、兒童が他の土地を圖るに用ひるべき唯一の標準である。郷土地域はそれを目安として他のものを圖り得る尺度を與へるものである。



村にしても、町にしても、市にしても、縣にしても、郷土地理を兒童に實習することは、當を得たものであらうが、その前には二つの豫備が必要であると思はれる。單純な兒童の心理は文化民族の生活を理解するには幾多の豫備知識を要する。自然民族のそれは文化民族のよりは遙かに單一であるだけに、兒童は理解し易く、殊に好奇心に富んでゐる彼等は、一層喜んでそれを知らうとするものである。自然民族に關する智識を基礎とし、自然民族の郷土の自然的特質と生活様式の特徴、自然對生活の交渉、母國からするこれら自然民族の郷土への距離この様な實習をなせば如何だらうか。次に定住の起原即ち一軒屋とその周圍についての知識も必要であらう山の麓や野の中や、岬の先などにある一軒屋と其の周圍に就て郷土といふ觀念の根源を考へさす實習を行ふことは必要である。一つの民家とその利用する周圍の土地これが郷土を意識する豫備實習でなければならぬ。郷土地理の基本觀念としては、先づその居住地の附近でのなるべく人里離れた一軒屋とその周圍の觀察を實習しなければならぬ。兒童の眼前に展開してゐる郷土が如何なる地方的進化を経て今日に至つたかを學習することも必要だ。これには文献よりは繪畫や地圖によつてその地方的進化を直觀さすべきである。郷土地

理への創作的實習は、よく兒童の天分ともいふべき創作力と手工的技術の表現に適ひ、それによつて我が郷土の地理的環境と生活の關係がはつきり目得されるから、最も理想的な地理實習である。

郷土の模型をあるがまゝに自然的條件、人文的條件までつくりあげる。單につくりあげただけではない、それによつて、彼等は眞に郷土地理を理解すると共に、他の學科の精神をも會得することが出来る。郷土地理へのこの創作的實習が今日の程度まで實行されてゐるであらうか。兒童の共働的作業として試むる事は最も適切である。

然らば郷土地理學習の時期は？の問題にうつる。尋四以下の學年に於て、教科として地母が特設されるまでの間に郷土地理の學習をさせる。國語讀本中には郷土地理的材料と一般地理的材料とある。國語讀本中の前者は是非直觀に訴へて地理の基本觀念を養成し、郷土を母解させねばならぬ。後者は又一般地理に關する臨廓を得させることに注意すべきである。

然し地理の基本觀念を悉く讀本の郷土地理的材料に結びつけて指導することは出来ない。寧ろ郷土に於ける兒童の生活の整理、生活の發展といふ生活指導から讀本材料にそれを

關聯させて行くといふ様に學習させるがよいと思ふ。

郷土としての富山縣、地理教育上の富山縣は郷土地理教育上地理の基本觀念を養成するに最も好都合のものと思はれる。私は富山縣の郷土地理の目的を、地理の基本觀念の養成を先にし郷土の理解と愛郷心の養成を第二としたい。

地理科基本觀念養成の資料は、山あり川あり平野あり、海あり、灣あり、港あり、直觀によつて理解し得る幾多の直觀材料がある。日本全圖及び地方別地圖によつて富山縣の位置及び四圍の縣との關係的位置を學習させねばならぬ。日本海方面の海岸線短かき地方に於て、將來充分發展の餘地ある否現に發展しつ、ある港伏木は裏日本の大阪港たらんとしてゐる事面積及び人口については日本の各地方各府縣及び都邑學習の基礎になるものであるから數量を記憶しておく必要がある。

地勢の明瞭な地圖や模型によつて、地勢の學習を中心として富山縣の現在將來の發展を想像させ地勢の影響の重大なる事を研究させたい。自然と人文との關係を充分に知らせたいのである。北には北海道の炭田あり南には九州の炭田ありて工業の原動力を供給してゐるに對し、その中間に位置する富山縣は礦産的原動力には恵まれないが、黒部、神通、庄川等

の水力によつて起される白炭水力電氣は全國にその覇を唱えんとする事は將來の電化事業を思ひ起させるに足るのであらう。

吳山によつて東西に分たれた風俗習慣の相違は實地に見聞する事によつて地理的基本觀念の一部分を充分に味合ふことが出来る。富山市を中心とした吳山以東の風俗習慣人情、高岡市を中心とした吳山以西の地理的事項、隣縣金澤市の人情風俗の侵入による吳山以西の風俗等は趣味ある研究である。

交通の發達は近時長足の發展をしてきたことの理由原因を探究することは地理教育上有意義のものたるは疑はない所である。黒部鐵道の敷設發展の理由、富山鐵道、立山鐵道の價値は如何なる原因によるか。縣下に通ずる公私鐵道を研究する事によつて兒童のうなづく地理的條件の含まれてゐることが尊い資料なのではなからうか。

將來富山縣發展の中心は何處になるか。等の事は右の事情を研究することによつて想像することが出来るのである。出来る様に指導しなければならぬ。將來富山市が如何に發展するか。高岡市の工業が如何程に旺になり又富山市を凌ぐ様になるか。高岡市と伏木港の關係は如何。如何なる地理的條件のもとに伏木港が發展して行くか、等の事柄を推理して行



くことも必要な事ではなからうか。

越中平野の産業状態よりして河川と平野との産業に關聯する條件吳山以西以東に於ける河川の影響等は毎年之を實際に目にし耳にする事である。

富山縣の形それが既にカウモリのとびたつ形をなしてゐる。富山縣の郷土地理を取扱ひつゝ、ある中に、充分に地理的基礎觀念を養成する事が出來人相關の理法を發見することが出來ること、信するのである。

列舉し來れば有限の紙數を以つて盡くされぬ。

自己の郷土に於ける事件を觀察推理するときは一小事件の中にもそれぞれ天意の存することであるから十分研究をし周到な注意を以つて其の間に伏在する地理的理法を研究して吟味し堅實なる基礎觀念の培養に努むべきである。模型といふ様な代用品を以つて示すことも或程度まで理解を助けるものであるが到底有力な基礎觀念とはいふことが出來ない。苟も生々した地理を教授するにあつて、牽強附會な事例とか、形式的な模型などに甘んずることなく、飽までも廣く實地實物について直觀、觀察せしめる用意がなくてはならない。單

なる書籍なり、説話なりによる學習の弊風を打破りて實地見學による動的修練を興へねばならない。こは一片の理想論として等閑に附すべき問題ではない。宜しく山間僻陬の兒童には數日を費しても都會地を訪ね、都會地の兒童には山村旅行なり、海濱旅行なりを行はしめなければならぬ。地理の基礎觀念を養成する郷土地理の學習は、一時的のものに終つては到底十分な效果をもたらすことは出來ない。

地理的現象は實に複雑なものであつて、其の基礎觀念は一時的に指導し様と思つてもむつかしい深みがつくと共に次第に擴張されて行かねばならぬ。繼續的に指導し機會ある毎に學習を指導する様に心がけねばならない。郷土地理を一時的に取扱つてしまつて教科書にうつつて、あとを顧みないのは學問的科學的論理的の考へ方で、絶えず郷土をふりかへつて見ることが大切である。郷土地理の取扱ひは日本地理教授と共に終り世界地理教授と共に終りを告げなければならぬものではなからうか、教科地理教授の終るまで郷土地理を取扱つて行かねばならないものと信する。

### 西礪波郡戸出區域研究會

醍醐校 高井正夫

#### 第一 教授の目的

我が國の小學校令では尋常五年から地理といふ一つの教科を設けて地理教育を施すことに定められてゐるが、未だ地理を學んだことのない兒童に對して直ちに教科書に入り地圖によつて地理的用語を用ひて地理的事項を授けても理解し得らるゝものでないことは今更言ふまでもない。殊に地理は空間的の教科であるから豫め地理的基礎觀念が養成されてゐると同時に、讀圖に必要な基礎的事項に關する觀念が明瞭になつて居らなければ複雑なる人間の生活を自然的環境との關係の上に眞に理解して行くことは出來ないのである。これ等のことよりして、日本地理を學ぶ前に先づ郷土を學んで地理の基礎觀念を養成し未見未踏の地と雖もよく類推想像し得る様にしなければならぬと思ふ。

郷土地理を學ぶについて私は更に次の如きことを考へたい即ち從來の郷土地理は所謂基礎觀念の養成のみの解釋に終つてゐた様である。勿論この基礎教育は生活的事實を立體的に

眺めさす準備であるから必要なことには相違ないが又眞に郷土を理解すると言ふことも地理教育上大そう大切なことであると思ふ。

#### 第二 教授の時期

然らば其の教材を如何なる時期に於て教授するかの問題であるが、次に私の考へを表解して見よう。

- 基礎觀念の養成
  - 1、尋常四年以下の他教科に現はれたる地理的教材の取扱ひ
  - 2、校外教授、遠足の際を利用する
  - 3、五年の初めに特に數時間の特設して授く

愛郷心の涵養  
觀察眼の養成

- 學習の歸結
  - 1、尋常五年以上の地理教授に活用する
  - 2、他教授の際にも利用する
  - 3、尋常六年の最終に於て總括的に取扱ふ

基礎的知識とか學習能力の養成は各地方によつて地理的環境



境が異なるのであるから一時に全部に亘ることは不可能で其の都度漸次指導して行かなければならぬし此處に於ては單に教科書に入る前の一部分の取扱ひに止めることにしたのである。

### 第三 教材選擇の方針

#### 一、學習態度を養成するに必要な教材

地理を教授する當つて地理は如何なる教材であるか又何故に研究する必要であるか其の目的を明かにし更に進んで學習せんとする態度を養ひ且つ研究の方法を授けて置く必要があるからである。

#### 二、地圖の性質を知らしむるに必要な教材

地理科に於ては其の研究の對象となるものは地球であるから地圖を中心として進まなければならぬ。然るに地圖は地球表面の複雑なる状態を平面上に縮寫して總べての要素を一種の符號によつて表はしたものであるから確實に地圖を讀み且活用し得る能力がなければ自然と人文との關係を眞に理解して行くことは出来ない。

従つて郷土に於て實地踏査によつて得たる經驗事項を基礎として地理的要素を地圖の上に結合することによつて初めて實際を想像し理解して生命ある知識となるのである。

#### 三、なるべく模式的教材を選ぶこと

地理教授は地人相關の原理を系統的に研究し實生活との交渉を明かにしなければならぬのであるからこれまでの兒童の經驗なり知識を整理し統一して自然と人文との密接なる關係を了解せしむるのである。即ち地理的要素をして其の目的性質を明瞭に表はせるものを採用する事が便利である。

#### 第四 教材の範圍及び取扱ひの程度

##### 一、居住町村の研究

- 1、位置面積及び地勢
- 2、戸數及び人口並に職業
- 3、居住町村民の經濟的方面の觀察

- A、生産的方面より
- B、消費的方面より

##### 他町村との移出入の關係

##### C、自然と人文との關係

##### 二、富山縣の取扱ひ

富山縣の取扱ひ上左の四つの地理的區域に分けるが便利であると思ふ。

- 1、平野地帯（特に庄川、小矢部川流域）
- 2、海岸地帯

### 3、山嶽地帯

### 4、文化地帯

而して大部分は兒童の直観しない地方であるから其の取扱ひの方法としてもなるべく模型或は各分布圖にあり具體的に直観的又は作業的に研究させたいと思ふ。

#### 1、教材と取扱ひの程度

##### イ、位置境界及び區分について

##### ロ、山脈 高さ、方向、幅、分水嶺、氣候との關係

温泉、交通との關係、山地と産業

##### ハ、河川 方向及び長さ、本支流、水量と灌漑

運輸、發電との關係

##### ニ、平野 分布の状態と廣さ、水利と農業

其他商工業との關係

##### ホ、氣候 温度、産業との關係、山脈との關係

文化との關係

##### ヘ、産業 氣候との關係、地勢との關係

歴史との關係、主産物（消費と販路）

##### ト、交通 分布の狀況、起點終點及び其の價值影響

分岐點

##### チ、都邑 産業政治宗教交通等の關係、分布の状態

#### 2、分布圖

##### イ、人口及び都邑

##### ロ、地勢 平野、河川、雨量と發電所

##### ハ、産業 主要産物と工場

##### ニ、交通 交通網

#### 第五 教材取扱ひ上の注意

一、兒童の能力に應じて取扱ひを參酌する  
所謂地理の頭が出来てゐない時代に於て兒童の能力を考慮することなく一時に多くの教材を取扱ひ或は濫りに枝葉にわたる事項まで取扱ふことになると、兒童の負擔が重くなり或は價値の少い細事に捉はれて肝要な事項の收得を失する事になると思ふ。

#### 二、直観方便物の利用よろしきを得ること

富山縣の取扱ひに於ては、直観し得ざる場合が多いから特に直観方便物の利用に努むべきである。

#### 三、地理教室の設備を完成すること

#### 四、地人相關を明かにし趣味的に取扱ふこと

各事項が有機的關係を離れ機械的羅列的に取扱はる、ことになると兒童は興味も起らず徒らに記載的の事項を記憶しなければならぬ苦しい立場に陥る爲地理を好まぬ様になつて來



くことも必要な事ではなからうか。

越中平野の産業状態よりして河川と平野との産業に關聯する條件吳山以西以東に於ける河川の影響等は毎年之を實際に目にし耳にする事である。

富山縣の形それが既にカウモリのとびたつ形をなしてゐる。富山縣の郷土地理を取扱ひつゝ、ある中に、充分に地理的基礎觀念を養成する事が出來人相關の理法を發見することが出來ること、信するるのである。

列學し來れば有限の紙數を以つて盡くされぬ。

自己の郷土に於ける事件を觀察推理するときは、一小事の中にもそれぞれ天意の存することであるから十分研究をし周到な注意を以つて其の間に伏在する地理的理法を研究して吟味し堅實なる基礎觀念の培養に努むべきである。模型といふ様な代用品を以つて示すことも或程度まで理解を助けるものであるが到底有力な基礎觀念とはいふことが出來ない。苟も生々した地理を教授するにあつて、牽強附會な事例とか、形式的な模型などに甘んずることなく、飽までも廣く實地實物について直觀、觀察せしめる用意がなくてはならない。單

なる書籍なり、説話なりによる學習の弊風を打破りて實地見學による動的修練を興へねばならない。こは一片の理想論として等閑に附すべき問題ではない。宜しく山間僻陬の兒童には數日を費しても都會地を訪ね、都會地の兒童には山村旅行なり、海濱旅行なりを行はしめなければならぬ。地理の基礎觀念を養成する郷土地理の學習は、一時的のものに終つては到底十分な效果をもたらすことは出來ない。

地理的現象は實に複雑なものであつて、其の基礎觀念は一時的に指導し様と思つてもむつかしい深みがつくと共に次第に擴張されて行かねばならぬ。繼續的に指導し機會ある毎に學習を指導する様に心がけねばならない。郷土地理を一時的に取扱つてしまつて教科書にうつつて、あとを顧みないのは學問的科學的論理的の考へ方で、絶えず郷土をふりかへつて見ることが大切である。郷土地理の取扱ひは日本地理教授と共に終り世界地理教授と共に終りを告げなければならぬものではなからうか、教科地理教授の終るまで郷土地理を取扱つて行かねばならないものと信する。

### 西礪波郡戸出區域研究會

醍醐校 高井正夫

#### 第一 教授の目的

我が國の小學校令では尋常五年から地理といふ一つの教科を設けて地理教育を施すことに定められてゐるが、未だ地理を學んだことのない兒童に對して直ちに教科書に入り地圖によつて地理的用語を用ひて地理的事項を授けても理解し得らるゝものでないことは今更言ふまでもない。殊に地理は空間的の教科であるから豫め地理的基礎觀念が養成されてゐると同時に、讀圖に必要な基礎的事項に關する觀念が明瞭になつて居らなければ複雑なる人間の生活を自然的環境との關係の上に眞に理解して行くことは出來ないのである。これ等のことよりして、日本地理を學ぶ前に先づ郷土を學んで地理の基礎觀念を養成し未見未踏の地と雖もよく類推想像し得る様にしなければならぬと思ふ。

郷土地理を學ぶについて私は更に次の如きことを考へたい即ち從來の郷土地理は所謂基礎觀念の養成のみの解釋に終つてゐた様である。勿論この基礎教育は生活的事實を立體的に

眺めさせ準備であるから必要なことには相違ないが又眞に郷土を理解すると言ふことも地理教育上大そつ大切なことであると思ふ。

#### 第二 教授の時期

然らば其の教材を如何なる時期に於て教授するかの問題であるが、次に私の考へを表解して見よう。

- 基礎觀念の養成
  - 1、尋常四年以下の他教科に現はれたる地理的教材の取扱ひ
  - 2、校外教授、遠足の際を利用する
  - 3、五年の初めに特に數時間を持設して授く

愛郷心の涵養  
觀察眼の養成

- 學習の歸結
  - 1、尋常五年以上の地理教授に活用する
  - 2、他教授の際にも利用する
  - 3、尋常六年の最終に於て總括的に取扱ふ

基礎的知識とか學習能力の養成は各地方によつて地理的環



境が異なるのであるから一時に全部に亘ることは不可能で其の都度漸次指導して行かなければならない此處に於ては單に教科書に入る前の一部分の取扱ひに止めることとしたのである。

### 第三 教材選擇の方針

一、學習態度を養成するに必要な教材  
地理を教授する當つて地理は如何なる教材であるか又何故に研究する必要であるか其の目的を明かにし更に進んで學習せんとする態度を養ひ且つ研究の方法を授けて置く必要があるからである。

二、地圖の性質を知らしむるに必要な教材

地理科に於ては其の研究の對象となるものは地球であるから地圖を中心として進まなければならぬ。然るに地圖は地球表面の複雑なる状態を平面上に縮寫して總べての要素を一種の符號によつて表はしたものであるから確實に地圖を読み且活用し得る能力がなければ自然と人文との關係を眞に理解して行くことは出来ない。

従つて郷土に於て實地踏査によつて得たる經驗事項を基礎として地理的要素を地圖の上に結合することによつて初めて實際を想像し理解して生命ある知識となるのである。

三、なるべく模式的教材を選ぶこと

地理教授は地人相關の原理を系統的に研究し實生活との交渉を明かにしなければならぬのであるからこれまでの兒童の經驗なり知識を整理し統一して自然と人文との密接なる關係を了解せしむるのである。即ち地理的要素をして其の目的性質を明瞭に表はせるものを採用する事が便利である。

### 第四 教材の範圍及び取扱ひの程度

一、居住町村の研究

1、位置面積及び地勢

2、戸數及び人口並に職業

3、居住町村の經濟的方面の觀察

A、生産的方面より

B、消費的方面より

他町村との移出入の關係

C、自然と人文との關係

二、富山縣の取扱ひ

富山縣の取扱ひ上左の四つの地理的區域に分ける方便であると思ふ。

1、平野地帯(特に庄川、小矢部川流域)

2、海岸地帯

### 2、分布圖

1、人口及び都邑

ロ、地勢 平野、河川、雨量と發電所

ハ、産業 主要産物と工場

ニ、交通 交通網

### 第五 教材取扱ひ上の注意

一、兒童の能力に應じて取扱ひを參酌する  
所謂地理の頭が出来てゐない時代に於て兒童の能力を考慮することなく一時に多くの教材を取扱ひ或は濫りに枝葉にわたる事項まで取扱ふことになると、兒童の負擔が重くなり或は價値の少い細事に捉はれて肝要な事項の取得を失する事になると思ふ。

二、直觀方便物の利用よろしきを得ること

富山縣の取扱ひに於ては、直觀し得ざる場合が多いから特に直觀方便物の利用に努むべきである。

三、地理教室の設備を完成すること

四、地人相關を明かにし趣味的に取扱ふこと

各事項が有機的關係を離れ機械的羅列的に取扱はる、ことになると兒童は興味も起らず徒らに記載的の事項を記憶しなければならぬ苦しい立場に陥る爲地理を好まぬ様になつて來

### 3、山嶽地帯 4、文化地帯

而して大部分は兒童の直觀しない地方であるから其の取扱ひの方法としてもなるべく模型或は各分布圖にあり具體的に直觀的又は作業的に研究させたいと思ふ。

### 1、教材と取扱ひの程度

1、位置境界及び區分について

ロ、山脈 高さ、方向、幅、分水嶺、氣候との關係

温泉、交通との關係、山地と産業

ハ、河川 方向及び長さ、本支流、水量と灌漑

運輸、發電との關係

ニ、平野 分布の状態と廣さ、水利と農業

其他商工業との關係

ホ、氣候 温度、産業との關係、山脈との關係

文化との關係

ヘ、産業 氣候との關係、地勢との關係

歴史との關係、主産物(消費と販路)

ト、交通 分布の狀況、起點終點及び其の價値影響

分岐點

チ、都邑 産業政治宗教交通等の關係、分布の狀態



るのであるから此の點に對しては教授者に於て大なる工夫と努力とを要するものである。

五、なるべく作業的實習的取扱ひをなすこと  
實習の必要なることは今更言ふまでもないことで知識の收

得能力の陶冶の上にも大切である。即ち自學自習の習慣も養はれ實習したことはよく記憶され運用されるものである。又觀察能力を増すばかりでなく兒童の興味を引き起し努力心も養ひ得らる、からである。

### 富山市區域研究會

吳羽校 中 林 重 治

#### 一、緒 言

地理教育上郷土としての本縣地理に對して特殊に研究し、特別なる考察を以て指導する事は最も緊要な事である。蓋し地理は實地を對象として研究を進むべき學科であり乍、事實郷土以外は未見未踏といふてもよく僅かに地圖模型文章により想像を以て學習する架空的教科である。故に之が理解を求め上基礎となる兒童の直觀範圍に屬する郷土から誘導するの必要な事は、多言を要しない所である。殊に兒童の多數は彼等の生れ故郷たる郷土に止まつて郷土民としての生活を送るものであるから、實際に生活する環境を正確に理解せしめて、兒童の今後の生活を開拓する其の發展經營を企劃せし

める事は現代地理科の使命であり、教育歸結點である。之即ち「地理教授は須く郷土に始つて郷土に歸れ」と云ふ所以で私は此の主張を以て其の根本となすものである。  
本縣地理を授くるに大畧二つの方法による。即ち一は部分的斷片的に教授するもので、一は系統的一般的に授けるものである。部分的に授けるのは本縣地理教授の準備的基礎的教授となり、尙又補足的教授である。即ち尋四以下の主として讀本に現はれたる地理的材料及修學旅行等によつて連絡すべく尙尋五以上の一般地理教授と連絡して外面的に補足するものである。他は尋五の最初に授ける本縣地理教授の一般的取扱で主要なる指導である事は云ふまでもない尙尋六最終に於

て總括的取扱をなすのである。

#### 二、本縣地理教授の系統的段階

本縣地理教授は部分的教授及系統的即ち一般的教授の二方法によることは緒言で論じたが是によつて次の如き配當になるのであるが、教授の實際は之から案出さる、のである。

本縣地理教授の系統的段階	部分的 尋四以下の讀本に附帶し、 （の指導、修學旅行を利用し、 用しての取扱） 本縣地理教授の準備、基礎觀念養成	一般的 尋五の一般地理に移る迄、 に於ての指導 本縣地理大要の指導、基礎觀念の整理、郷土地理の建設	部分的 尋五以上の一般地理教授と連絡しての指導及修學旅行を利用しての取扱 本縣地理の補足、郷土地理の養成、愛郷心涵養	尋六最終の總括的取扱
--------------	--	--	--	------------

地理科に對する基本觀念を賦與して其學習的態度を作るを目的として、先づ尋四以下に於て主として讀本に附帶して斷片的に授け或は旅行を利用して臨時の指導を行ふて部分的に兒童の朝な夕な仰いでゐる高山峻嶺、常に出かける河流、さては郷土に於ける生活様式の觀察等兒童が兒童期の大部分を其處に費し之によつて多くの客觀的印象を受けつ、ある直接觀察の及ぶ範圍である本縣の或部分或る地理的事項を授ける事は本縣地理の準備教授となり又一般地理の基礎教授となる

のである。

更に尋五地理科に於て授くるは本縣地理教授の最も主要なもので本縣一般地理を授くる任務を荷ふものであるが「近より遠」直觀より想像へ」即富山市を中心として本縣に及び更に本縣の屬する中部地方へと即ち郷土を中心として發展擴張するのである。

次に尋五以上に於ける本縣地理教授であるが一般地理を學習させるには郷土材料を類推の基礎たらしめるのである。即ち郷土が他の理解の方便に利用さる、と共に、常に郷土其ものに就いても如何に發展せしむべきか開拓すべきかを暗示する様に取扱ふ事が大切である。尙又本縣に關係深きものに就いては敷衍もし附加もする。要するに比較して兩々相俟つて各々を明にする様にして其間に郷土の識見と愛郷心の涵養を計らうと云ふのであるが、勿論其取扱には眞に兒童の解し得る程度に止め低學年に於ける卑近な説話から次第に高學年に至るに隨つて比較的詳細なる指示を加へ卒業の頃迄には一通り郷土の全般を知らせ度いと思ふのである。即ち郷土地理は單に或る定つた時期と限るのではなくして全地理教科の終るまで總し郷土を背景として進み、そうして郷土の擴張を計りたいのである。かうして六年最終に郷土をふりかへつて、さ



て如何に搖籃の地を發展せしめるかに及び、延いては祖國日本を思ふと云ふ事に至らしめ度と思ふ。

### 三、本縣地理の部分的教授事項

#### 1、尋四以下の讀本に連絡すべきもの

尋四以下の讀本に附帶しての指導については、卷一ハコニハ、ホシノウタ卷三 右ト左、四方、私ノ村、富士の山卷四 私どもの町、汽車のたび卷五 大日本、遠足、雨、日本三景、峠から町へ、郵便函、東京停車場卷六 日本の高山、賀茂川卷七 世界、横濱、大阪、大連たより、航海の話、海の産物卷八 揚子江、朝鮮人藝、アメリカダヨリ、名古屋等で其中には基本觀念としての材料が多く包含せられて居る。随つて郷土としての本縣と連絡すべき地理的事項多々あつて、少し心ある教授者はとて見逃す事の出来ない好地理的材料である。尙讀圖の基本觀念養成上、鳥瞰圖、參謀本部地圖の利用された初歩の地圖、側面圖、市街圖、メルカートル法の世界全圖等があるが、紙面の關係上郷土との連絡資料等省く。

#### 2、修學旅行と連絡すべき事項

口舌による千百の説明よりは實地を踏み實際を目睹したる直觀が遙に効果ある事は、百聞一見に如かずである。修學旅行と本縣地理教授最も努むべき方法利用すべき事柄であるが

必ずや一定の方案を繞らして自信ある學をなさねばならぬ。總て實地指導には、出發前の豫備的智識、目的地の實地指導歸校後の整理の三階段を経て意義ある實行に努め度い。例へば觀察すべき地理的事項によつて畧圖を配布し讀圖方の基礎を養ふ事最も肝要でなるべく煩雜な文句文章を省いて平易に具體的に納得させれば本縣を容易に理解するのみならず一般地理學習上に好結果を齎す事大であると信じてゐる。我富山市では既に旅行實施案をつくつてそれによつてゐる。

#### 四、本縣地理の一般的取扱

##### 1、教授の時期

地理科に於て本縣地理を授けるのは主要事業で、是に對し劈頭に起るは時期の問題である。之に就ては、五年の最初一般地理に移る前約十時間を課し、六年の最終一般地理終つて約三時間課したい。而して尋四の第三學期位に地理科を特設せよと云ふ意見を持つ人があるやうに思はれる。之は現今法規では許容せられて居ないのみならず又郷土の資料に對して如何なる點に深く注意すべきか又如何様にすべきかを研究したならば、特別の一科を設けなくとも、他教科と連絡して基礎づけて置けば地理教授全般から見ても大なる効果を齎し得る。

#### 2、教授の出發としての本市の取扱

『易より難に』『簡より繁に』『具體より抽象』『近より遠に』と言へる教の原則に倣ひ先づ本市か出發して、郷土を中心にして擴張發展を計り度い。地圖の基本學習によつて讀圖方の指導及び靜に自己をみつめ周圍を眺めて平易な地理的事實及現象を取扱つて『何の爲に地理學習をするのであるか』と云ふ事を知らせるのである。

先づ兒童に本市街地圖を一部づつ、配布する。兒童は直に地圖を視ながら『僕の町が此にある』『吳羽山はこんな所にある』『神通川は是だ』と口々に叫ぶその子供の騒然たる状態から案に入つて讀圖の基礎をつくつて行く。第一記號『何々はどこにあるか』によつて範例により知らず知らずの裡に記號を知る。第二方位、『富山停車場はどこにあるか』……によつて方位の見方、讀方を知らせる。第三縮尺、『縣廳から學校迄いくらかあるか』等によつて兒童自らスケールにあてる事により縮尺觀念を得させる。第四高低、色別により垂直的觀念を得させて、不完全ながら讀圖力の扶養をなすのであるからして人類活動狀態を知らせる事に及ぶ。先職業方面より導く『一體富山の人はどんな仕事に従事して生活してゐる』……あまり問題が大きいから兒童は奇怪な顔をする。そこで問題を小さく

して『先づ自分の家はどんな職業に従事して生活してゐるか』との自家の生活を中心にして、我が富山市の産業經濟活動状態から政治、文化方面迄考察せしめる。方法は勿論『政府はなぜ樂專を我本市に設置したか』と地理的識見の芽生えを培つて行くのである。

##### 3、本縣地理教授の順序

本市を中心にして地理科に對する興味を振興せしめて本縣に續くのであるが、縣の單位は一般地理學習の要素で尺度となるのである。即ち自己存在の地を尺度として本縣の想像或は理解に導き是を又尺度として中部地方へと發展擴張し漸次他地方へと移るのである。是即ち近きより遠きへの發展であり、兒童の直觀に基礎を置いた直觀教育より想像教育への過程であることは前述した所である。

先尋五の初に於て本市を終つたら本縣地圖を兒童に與へて地圖の綜合的觀察指導として其の指導の模式的場所である吳羽山上へ遠足させて、縣地勢の大觀をさせるのである。其指導要項は、1、縣の周圍、東西南の山脈、北部の富山灣 2、吳羽山を中心以東以西に分け、更に海岸區、山岳區とに區分して指摘し是を通覽させる 3、常願寺、神通の南方山地より流れ来る所及び下流の富山灣に注ぐ所 4、川の流域に



平野のあること其の中に町村の發達せる事 5、伏木、岩瀬遠く能登半島 6、其他交通線等取扱つて實際と地圖と對照して綜合指導をやるのである。本縣は最も基礎觀念を養ふ自然地理區をなし、山川により交通状態が左右せられてゐる模式的な人文地理區である。實に基礎觀念養成上好適地である。前述の如き遠足を終へて指導事項を整理して大體、本縣の地形地勢の大要を得しめて、本市は吳山以東の中心にし、吳山以西の中心は高岡なる所以に及び産業交通が自然と如何なる關係あるか究めて學問的に考察せしめる様にしたい。

4、産業經濟方面の重視

教授すべき事項によつて取扱に輕重の差あるは勿論であるが、就中産業經濟方面に對しては大に意を用ひねばならぬ。人類活動の原動力は經濟活動である。人間個人の生活それは先づ生きてかゝらねばならぬ。現今の思想國難も經濟國難打破によつてかたづけられるのではないかと今將に識者の考慮してゐる處である。『どこに如何なる工業がなせ生じたか』『電力の需要先はどこか』『あまつた米はどこへ』『移入されるものは何か』と物資物産の産業的知識によつて經濟價値の認識養成を以て中心的取扱にせねばならぬ。

5、因果的法則の問題

で教師の説明の勞を省き且つ記憶理解を容易ならしめる上に甚だ有効である。是は素より教師の手によつて作るべき事論を俟たない。

五、本縣地理教授の實際案

教授事項は精選に精選を加へ、地理教授の型となるもの、能く兒童の能力を計つて程度分量を定め、教授事項は自己在住附近即ち兒童の直觀し得るものを基にして取捨選擇する。而して地理教科書の教材配列の順序に従つて置く

一、位置、日本地圖によつて本縣の位置

本縣の周圍 東Ⅱ 西Ⅱ 南Ⅱ 北(海)Ⅱ

二、面積

面積、二七六方里(四四一六方里)

東西、九〇里 南北 八二里

三、地勢、(畧圖ヲ描カシム)

山脈東西南の三面山岳重疊飛驒山脈立山三一〇〇米  
 河流北流急流(讀圖ニヨリ流ノ急緩ヲ知ラセル)豊富な水量、天與の勾配落差——發電事業——大工業各所に勃興を促す

神通、常願寺、黒部(峽谷) 庄、小矢部

〔川と人生について考察、上流——發電水車(發電能力

一、産業は只生ずるにあらず必らずやその土地、氣候、即ち自然が生み出した文化活動である事は云ふまでもない。越中平野と諸川との關係、越中平野と富山、高岡との關係如何等推究的教授を行ひ、自然現象が人文に如何なる關係あるか考察せしめ會得させたい。此の地人相關をねらふ所に現代地理の使命があるのである。

6、圖解及び地圖繪畫標本の利用

本市の商品が村落に賣出され、米穀野菜が絶えず市に流入する關係、當地方の雜貨は阪神、京濱より來り富山などより附近に卸小賣せらるゝ状態、伏木港に於ける米の集散及び木材、魚肥の移入する状態、富山と岩瀬、高岡と伏木との地理狀態等の圖解の應用は、兒童に理解を容易ならしめる上に於て有効な方法である。

富山縣全圖は教授の中心となつて行くものであるから最も選ばねばならぬ。之に對しては教師はその勞力に訴へて繁簡宜しきを得て製作する方最もよい。繪畫標本は努めて準備し手近いか見馴れてゐるからと云ふ成人本位をすて、蒐集せねばならぬ。兒童は是によつてどの位理解を助け記憶を確實にし是によつて聯想することもあらうから努めて利用の必要がある。尙本縣物産比較圖、郡邑の分布圖、氣溫圖等の準備

百二十萬馬力、現在三十二萬馬力)中流下流——灌溉、舟便(郡邑ガ出來ル)

平野 越中平野 全面積四分の一(出來タワケ)

海岸 北、日本海富山灣 海岸線 九二・三里

(海岸ニ郡邑ノ多イワケ——交通産業名所等ニヨツテ)

四、氣候温暖、雨量多、冬季積雪多し(附圖第二圖ニヨリ雨量、氣溫ヲ知ラシム) 測候所——伏木

〔氣候と人生について考察

五、住民 八十三萬(人口分布圖ニヨリ多少ノ理由)

一方里・一七〇人 出稼者——約一萬 二市八郡區劃

六、産業 農業越中平野——米一六五萬石(餘米移出狀態)

林業 杉植林(木材移入——伏木港——製材製紙業)

養蠶業 山地——繭——生糸工業

工業 賣藥——富山、銅鐵器——高岡(沿革產出狀態)

本縣工業地帶——高岡伏木間——製紙肥料製鐵業

礪波平野——紡績機械業 富山市東部——機械業

水産業 富山灣——帶鰯水見鮪鱒魚津鯛(遠洋漁業)

七、交通(鐵道の北部發達した理由及各線の使命)

鐵道 北陸線、飛越線、富山輕便、縣營、富山、越中、

中越、黒部等



海上 航路、小樽、大泊、元山、清津、浦鹽、伏木、岩瀬築港

八、都邑（吳山以東の部）

富山市 縣内政治、教育、經濟の中心地 八萬三千  
賣藥（内地八四〇萬圓輸出二〇萬圓）

□大都會の出來る理由考察（地勢上—大平野河川、交通、灌溉に便する所、産業上—生産物集散地、交通上、政治、軍事、教育等の中心地 名勝の地其他史的關係）  
東岩瀬運河計劃、富山市との關係（圖解ニヨリ）

神通改修工事による築港

八尾 南部の都邑として、養蠶地

笹津 飛驒との關係

滑川 魚津 漁港として

宇奈月 名勝の地 急速に發展した都邑として

（吳山以西の部）

高岡 四萬六千 米取引盛大 商業盛—高商校

銅鐵器二五〇萬圓 公園—史的關係

伏木 小矢部川口 貿易港 高岡との關係

米輸出盛工業地として、勝興寺の巨刹

雨晴 島尾 名勝の地 海水浴場

新湊 一萬八千 漁業盛 出漁多し

水見 一萬四千 漁港として、水産物—販路

石動 俱利伽羅古戰場

□ 尋六最終に於ての取扱

最後に總括的取扱をなす事は、郷土を知り日本を知り、更に世界の大勢を知つて、更に郷土を顧みるは、包判の見地から郷土に對して正鵠を得たる判斷を下し得るからである。かうして始めて、眞に郷土を知れりと云ふ事も出來やうし人間活動の舞臺を何れに求めんかも知る事が出來るのである。

六、結 論

「如何に活きんか如何によりよく活きんか」とあこがれて日に又月に時の歩みと共に人類文化創造てふ深刻な足跡を印して、一步一步向上の一路へと辿りつ、ある、之が現時の世相と云ふべきである。……この世相の把握、この向上の足並に加入すべき、加入せしむべき努力こそ本縣地理教育の目標であるまいか。須く各科と共に連關して郷土地理の目的の遂行に努め郷土の爲に努力一番よりよき文化開發發展に努力する使命ある事を自覺せしむべきである。

高岡市區域研究會

平米町校 林 與 作

圓は或一點から出發して其の一點に歸つて始めて完結されるものである。擴がらんとして擴がり得ず、絶えず中心に交渉しつ、進行を續け、何處に凹凸もなく其の目的に到達すると同様に、地理教育は郷土より出發して再び郷土に歸り、其の間常に郷土に交渉しつ、進行を續くべきである。言換ふれば先づ郷土の自然と人文とに對して心眼を開かしめ、之を基礎として更に廣く且つ深く自然と人文との理解に入らしめんとする意味である。併し其の理解が如何に廣く且つ深くなつても常に其の出發點である郷土との關係に留意せしめねばならぬ。其處で便宜上郷土地理教授を四段の過程に分けて考へて見たと思ふ。

一、直観圈内の郷土地理

郷土は實地を對象とし、現存する實際の現象を理解し、以て人生の幸福増進に貢献するを目的とする教科であるが、之れを一々實際について踏査し研究することは殆ど不可能のことであるから、止むを得ず地圖或は模型を方便として教授を

進めてゐるが、兒童に取つて見ると、郷土以外の地理は全く想像に生きるより仕方がない。而して其の想像を常に正確ならしむる唯一の方法は、兒童が常に見、常に聞、常に體得せる郷土を基礎觀念とすることである。

鑑るに兒童は相當過去に於て既習智識を持つてゐる。然しながら其れ等は断片的のもので、世界を理解する唯一の標準となり、尺度となるにはあまりにも輕薄過ぎる。然し其れを組織的に指導をなす時期は、法規によると第五學年の始めに於てなされるべきであるが、其れでは時間が不足し、且つよりよい出發點を得ることが困難であると思はれ、せめて第四學年の第三學期とも考へて見たが、北陸地方の氣候の關係上第二學期が最も適した時期であらう。然し第二學期は色々の行事多く、其れに遠足や旅行が第一學期に行ふことが多いから、結局第四學年の全般に亘つて其の機會を捉ふべきである。

イ、讀圖力の養成

これが出來れば地理教授は全部徹底したものと言つてもよ



い。修學旅行、遠足其他利用すべき機会が非常に多くあるが、特別に其の機会を設けるもよい。今其の一例を擧げて見れば、私達の附近に二上山があり、高岡を中心とした地勢がよく展開されるので、絶好の場所と考へる。そして私達は度々其の絶頂に登る機会を持つてゐるのであるから、児童にあらかじめ高岡を中心とした畧圖を與へ、其の位置、方位、距離等の平面的讀圖法を児童に會得させる。二上山下を流れ去る小矢部本支流の關係、延々の銀蛇の如き上にかゝる鐵橋、黒煙を吐いて走る汽車、其の河口には伏木港、大小汽船が遠く地平線の彼方に没する。目のあたり生けるパノラマの出現を見たる彼等は、恍惚としてあくなく眺め、遂に紙一枚にでも偉大なる自然と人文の現象が織り出されてゐることを知りて、地圖を探究したきやるせない心が可憐な児童の腦裡に、ほつかり浮んで來るのである。

次に垂直的立體的な讀圖力である。此れも前同様に二上山上に於ける研究で出來るだらう。先づ児童に其の附近の山の高さ並に眼下に見ゆる平野を眺めさせ、教師が其の目的に適當したる畧圖に等高線を記入したものを與へ、現實のパノラマを見て、着色せしめることである。此處で児童は濃淡の度合によりて、高低を表すことを知り、平面的讀圖力と相俟つ

て、遂に現今普通にある地圖を直觀して、地勢の大畧を知り而して自然と人文の相關的理法を考究することになる。單に地勢の讀圖力を養成するにも、上述の如き簡單な方法を以て完結すべきものではなく、其の間常に工夫に工夫を凝らして理解を計るべきは當然のことであるが、紙數に限りあることなれば、遺憾ながら今度も亦一例を以て示すことにする。

加越能を書いた畧圖に、加賀より來る俱利伽羅街道、能登より來る氷見街道及び伏木街道、富山より來る富山街道等を記入し、其の交通上最も集約點たるは何處か。其の集約點たる高岡市を發見せしめ、慶長の昔前田利長公が高岡に大規模な城を構へて、加越能三國を治めんと志し、諸所より職業を有する人達の移住を求めて築き上げた城下町としての繁盛は、その廢城以後、衰微又は滅亡すべき筈なのに、却つて今日の體面を保ち得たる原因を推斷せしめ、遂に自然によりて人文を左右し、且つ又人文によりて自然を或程度まで征服出來るものであると言ふ。即ち地人相關の理法にまで到達せしめ、一軒の家、一市町村は勿論、其他微細なるものに到るまで、何れも過去より現在に、且將來にまでも因りて來る所があるものなりと言ふ確信を與へることが最も大切である。

ロ、類化對比の基準體得

讀圖力の養成に最も重要な素材となるものは、日頃児童の直觀せる郷土教材である。即ち郷土の地勢、氣候、風土、産業、交通、住民、都邑並に其等の發達又は衰微の理由等其の他種々な地理的事項を理解せしめ、之れを基本として各種の地圖なり、或は参考書、旅行記、統計表等の如きものを用ひて、既知の事實と比較對象し、遠く海波萬里の異郷にある地理的事項を各自の腦裡に描現し推究せしめ得るのである。例へば河川を取扱ふ時に、高岡に住する人達の常に直觀せる小矢部川を取り、その本流が飛騨北麓山帯より源を發し、東岸に庄川の分流を受け、西岸は直ちに二上山斷崖を仰ぎ、福岡、立野、高岡の西部を流れ、水量多く常に漫々と流れてゐる様は、縣下に於て見るを得ざる情景にして、高岡市と伏木港との航程約八軒、舟運の便が非常に大である。故に支流(庄川の分流)千保川の沿岸には、河運を目的とする商家、倉庫等が發達し、道路は必ず河岸に派出されてゐる様を見ても類化對比の基礎觀念たる資格は充分である。又高岡の東端附近を流れる庄川は、雨が降れば濁水みなぎり、晴天續けは水量激減する、所謂急流性を帯びた河川で、青島村附近で平野に出た後は、無数の分流と網流とを作り、加ふるに河底の高さを利用せる用水と共に、高岡を中心にする耕地の大部を灌

溉せる有様、又青島村より約四軒東湯谷の大堰堤が、丁度高岡より尋四位の生徒が旅行するに都合よい場所だから、其れを見せると、児童は急流を利用せる發電のことにも想到するに到る。斯様に實際の場所があるのだから、尙更興味を感じるであらう。此の兩特徴を有する兩河川を理解し基礎觀念として、他を類推的に考へて行けば、實際に近き觀念を得ること、左程困難なことではなからう。

ハ、地圖上に表れた符號の解釋  
讀圖に對して何等の基本知識を有せない児童に對して、突然地圖を與へても、到底地圖を讀むことは出來ないが故に、地圖上に表れた符號は、特別機會を作らなくとも、其の都度児童に把住せしむべきである。

ニ、直觀的基礎觀念の整理  
児童は尋四迄の間に、家庭に備へられた地圖、兄弟友人達の使用せる地圖等を見てゐる内に不知不識地圖に對する知識を收得してゐるだらうし、又教科書に表れた地理的教材、其他旅行、遠足、校外教授等の機會に、児童は妙なからず地理的知識を收得してゐるものである。尙特別に其の機會を作り、特に其のための方法として營まれる處の郷土地理の教授は、児童に地理的知識を與へること大なるものである。然し



獨立學科の如く特に時間を與へられてゐるわけでないから、完全なシステムを辿ることの不可能な場合が多く、断片的になり易いから、直観圏内に於ける基礎觀念を最後に整理しなくてはならぬ。唯雜然たるものを兒童が持つてゐても、整理せられてゐない既有觀念はいざ鎌倉の場合に直ちに出勤することは困難である。其處で今まで兒童が既有觀念とした所の知識を更に復演的に確認せしめるのである。此れには政治、地形、或は産業等の地理的區劃を考へることなく、唯二上山上の俯瞰的觀念が直ちに彼等の住む高岡を中心に四方に擴がるのと、彼等の既習知識及び體得知識とが、打つて一丸となる所を圏内とすればよい。

## 二、地理區としての富山縣

直観圏内を蝸牛の觸角の様に進行せしめたならば、色々の問題に遭遇するだらう。例へば地勢を眺めた時に氣に懸るは吳羽山體（飛騨高原北縁帶の山地が、俄然富山平原に陥落して障壁となし、山岳重疊、而も整然たる山脈をなさずして多くの河川の爲に切断せられ、南北に縦走するが如き山地を少くとも六條發見するが、中最も顯著なるは、山田川と其の西なる利賀川との間の山陵にして、水無山の北方に起りて長澤村と中田町との間を走り、小杉町の南に終る。此の山體を

便宜上吳羽山體と言ふ）である。此れを境にし、吳東、吳西兩平野に別けるか、さもなくは吳羽山體を問題にせず越中平野と呼ぶか。成程低くとも山背は山背だから地文人文に影響することもある。且つ富山と高岡の對立を説明するに都合よく、高岡は伏木港を我物顔にして吳西平野に君臨し、富山は吳東平野に威風を示せるも港に不足を感じ、岩瀬に目をつけ、各獨立競争の態度で都市計劃を進めてゐる。然しながら（一）吳羽山體は他の縦谷山背より一寸延び過ぎたるだけのこと。（二）山背は丘陵性にして地文人文に左程影響を與へざること。（三）北部を交通に自由開放す。（四）政治上同一地理區をなす。（五）古來よりの慣習。（六）富山と高岡は外觀的には競争にも見えやうが内部には兩立し得る特長を有すること。（七）伏木港は小センターラードに満足せずして今や世界的のものたること。及び其の他の理由に依つて必ずしも以東以西に分ける必要がないと考へる。こうなつて來ると當然來るべき問題は富山、高岡兩都市の經濟的立脚點を探究することである。之れによつて都市には其れ／＼特長なり基準なりを有するものなることを知り、引いては將來の發展、改善を考究することになる。斯の如くして地理科學を推行せしめ其の都度益々讀圖力を養成し、類化對比の基準を收得し、且

つ術語の研究等をも加へつ、遂に一地理區としての富山縣を過去、現在及び將來にまでも及ばしめたる基礎觀念たらしむるのである。

## 三、各府縣と對等としての富山縣

前述の準備的富山縣は、地理學習の基準たると共に、地理區としての統一もせられてゐるが、教科書をたどれば必ず來る所の富山縣を如何に取扱ふか。顧るに實際小學校の兒童の多數は彼等の生れた地にて郷土民としての生涯を送るもの故に、他日彼等に没交渉な空漠な知識よりも、實際生活する周圍を正確に理解せしめる方が得策と考へる。而して最早兒童の基礎觀念は、郷土のみに止まらなないのである。其れに富山縣を理解するに富山縣内の尺度を以てすることは、自己撞着に陥る恐れがあるから、既習府縣を基礎觀念として類推對比的に進め、以て郷土理解の檢算をなすべきである。斯の如く表から眺めた富山縣を再び裏から眺めることによりて、一層確實なる理解を得ることになるのである。

## 四、總括より見たる富山縣

郷土を理解せしむる着眼點は、其の自然と人文及び其の自然と人文とが錯綜して今日の現實の生活を織り出してゐる地人相關の點であるが、それには無論其の現實を如何に向上せ

しめて行くべきかの理想を作らしむることが大切である。即ち日本總論及び世界を眺めた時に取扱ふもので、之れが産業の開發、生活の改善、海外發展等に形を取つて來ねばならぬものである。然れども此處に始めて此の理想を目的とする教授を行ふものにあらずして、前述の如く單に一教材についても、必ず究極の目的を此處に置くものであるから、其の理想を作らすべき根底は充分に過去に於て把持されてゐなければならぬ善である。此の根底が出来て居らねば、自治體の發達も近來盛に叫ばれる産業の開發も、社會の改善も出來る譯はない。農村荒廢、愛市の精神の不足等の批難は、此處に起因することが大であらう。例へば、現今世界の趨勢が、石炭、石油時代を正に去らんとし、電化時代の風雲急であるから、治水工事に膨大なる經費を要する富山縣が、却つて次に來るべき文化にめぐまれてゐるのである。毒も用ひ様によりて藥になる。今日各所に大堰堤を設け、發電所の多く出來たのを表面から見れば郷土發展とも見えるだらうが、裏面より其の主腦者、企劃業者、並に引用場所を知つたならば、金、銀、石炭、石油、鐵等の文明世界に必要な財寶を先進國にまかせ残骸のみ見守つてゐる未開國の有様と少しも變らないのである。今日富山縣に最も堅實に發展し且つ誇りとするものは



自然……平野、氣候、地味

人力……灌溉(廣田用水)、肥料、耕作 米……農業

富山市を附近に控へてゐる關係上、花卉類蔬菜類の栽培盛にして、青物市場が出現し兒童の如きも朝夕に花賣として活動するの特質を表す。又近來郊外の住宅地として新築されて行く是等の事象を考察し、都市と附近の農村の關係を明らかにしむ。

### ○ 吳羽山近傍

要旨 地形及地質と産業との關係、地形と交通の關係を有機的に研究し併せて地形の成因地圖との對照に及ぶ。

準備 二萬五千分の一地形圖、二十萬分の一帝國地圖、地質圖(四十萬分の一)、震災豫防調査會報告第百號乙

- 要項
- 1、地形 傾斜地塊、神通川の流路
  - 2、地質 洪積層
  - 3、蜆森(北代) 原住民族の遺趾
  - 4、産業 茶、桑、蔬菜、果樹 (蔬菜栽培と富山市)
  - 5、交通 山と鐵道及び道路、峠……茶屋
  - 6、富山平野の展望 地圖との對照、三角點(吳羽山、五福)

吳羽山近傍の地理は本校の定期遠足の時實地觀察せしめ整理するものである。

準備 各自に二萬五千分一地形圖を與へ著色せしむ。

鳥瞰圖と比較し乍ら順路の記入、着眼點の指導

順路 本校―五福―神通大橋―牛ヶ首用水―御廟―蜆森―北代―吳羽山―五福―聯隊橋―招魂社―本校

磯部にて神通川を觀察せしめて川と交通産業の關係をとき足下なる堤防に依り人の自然征服の姿を認識せしめると共に大正三年の洪水、その昔の舟橋に及ぶ。川原に推積せる運搬物の景況より川と平野の關係を明にし、吳羽山城山南方の飛驒高地東方の立山連山等を比較し、丘陵山脈山の差異を知らしむ。牛ヶ首用水に沿つて下る時吳羽山テルテツトブロック斷層崖とその利用度を觀察なさしめ蜆森に至る。此處に於て神社境内に貝殻の散亂せるを目撃せしめ、こは地質時代の洪積期に於ける原住民族の生活せし跡にして彼等が海濱に漁りして貝を食し、その貝殻が現在も尙残れる事をとき海岸線の變動及地形と人文との關係に及ぶ。更に北代を経て西側より吳羽山頂に到る間に於て緩傾斜地帯を觀察し桑畑、果樹、茶畑

に留意しつ、頂上に来りて地圖と照合し以て讀圖力の發展に資す。地形圖及地質圖と山の兩斜面の地形を照合考察し更に震災豫防調査會報告第百號乙山崎直方博士の關東地方の地形學的考察中の第十八の圖版瀧川斷層の模型的なテルテツトブ

ロツクの寫眞を示し吳羽山の成因及地體構造に及ぶ。南方の鞍部に北陸街道通じ追分、中、峠茶屋の聚落あり山と交通路山麓と聚落との關係を考察するに足る。その他兒童の個々の問題をノートせしめ整理學習の發展に資す。

### ○ 富山市

要旨 富山縣の政治經濟文化の中心にして早晚我が堀川村の併合さるべき富山市の職能及特異性を知らしむ。

準備 富山縣地圖、富山市街圖、富山市戸口職業別グラフ、主要産物比較表、富山驛及び市附近各驛の貨物統計、都市計畫圖、縣下主要驛貨物集散旅客乗降狀況比較表

- 要項
- 1、位置
  - 2、人口及戸數
  - 3、職業別戸數……職能
  - 4、政治、教育、軍事、交通、經濟の中心
  - 5、賣藥とその沿革及販路、國際製藥株式會社の創立

- 6、機械工業の發達と工場地帯
- 7、沿革、都市計畫

### ○ 職業別戸口(昭和二年度調)

農	六二二	水	一〇七	礦	三	工	四一一	計	一七六五二
商	五三一九	交	六七八	公	二三八七	他	三二五八		

商工業の數の多いは商工的色彩の濃厚なるを立證し公務自由業の多いは諸官衙、學校等ありて政治軍事教育の中心地である爲である。縣下主要驛の貨物集散旅客乗降の狀況を比較し富山より四方に放出してゐる各鐵道、乗合自動車、貨物自動車等を考察すれば交通の中心たるや躍如としてゐる。富山驛及び市の周圍の各驛の發着貨物の品目を調査研究すれば市の商工業の特異性が明となる。又會社、銀行、手形交換所、米穀取引所、魚市、八百物市場の所在を知られば商業經濟の中心たるを把握出来る。

### 主要工産物(昭和二年度調)

賣藥	八、六三三、〇八四圓	清酒	四六六、八三〇圓
絹織物	一、七〇一、六三七	印刷物	三二〇、七〇〇
羅紗製品	五七一、〇〇〇	菓子	三〇五、〇〇〇

富山縣だと云へばすぐ藥屋さんですかと他府縣人が云ふ。



賣藥である。其の製藥株式會社なるもの、發展は實にめざましきものである。此の賣藥の根底は、自然的條件を殆ど有せず人爲の努力が斯なせるものである。自然的條件を有せざる賣藥に於てすら斯程の發展を來せるに、まして自然的條件を多分に有せるものに於ては一層發展すべき筈である。教師た

るもの常に兒童の心眼を開かしのめ、眞に郷土を理解せしむべきである。眞に理解して始め、美しい愛郷心の涵養となり、更に愛國心の源泉となるものである。唯徒らに郷土を盲愛する人には、産業の開發、生活の改善、異郷發展等の壯圖は望まれない。

三四四

### 富山縣女子師範附屬小學校

宮川金次郎

我校に於ては次の系統案に依りて實施する。

- 一、地理科以前に於ける郷土教授
- 二、日本地理學習の基礎としての郷土地理
  - 1、學校附近（堀川村）
  - 2、吳羽山方面
  - 3、富山市
  - 4、笹津、上蘆、八尾方面
  - 5、東岩瀬町方面
  - 6、富山縣
- 三、中部地方指導に際して
  - 1、黒部峡谷
  - 2、伏木港及び高岡
  - 四、日本の總説學習後に於ける郷土地理
    - 1、富山縣
    - 2、米作とその將來
    - 3、水電事業と工業
    - 4、伏木港及び其附近の工業
    - 5、飛越線と富岩運河
  - 五、補習地理教授に附帶して
    - 1、學校附近（堀川村）

要旨 學校附近の地理的事象の觀察をなすの、地理學習の基礎觀念を體得せしむ。

準備 富山縣地圖、堀川村地圖、二萬五千分の一地形圖、堀川村勢一覽、堀川新驛貨物統計、方眼紙

7、其他 無  
かくして完成せるグラフにつきて、停車場附近の交通業を對象とする様式と學校直前に於ける學用品店の集れるタイプとの地理的研究をなすしめる。富山市の南の玄關であるから裏町もなく米穀商、飲食店菓子店の多い事も好研究事業である。

- 要項
- 1、實地踏査、小泉村及び大町の一部
  - 2、描圖
  - 3、地理的理法の發見歸納
  - 4、自然景觀の觀察及び産業
    - イ、地形、地質
    - ロ、氣候 雨量、氣温
    - ハ、廣田用水……灌溉
    - ニ、地形圖の觀察
    - ホ、産業 農、商
  - 5、堀川村勢一覽及堀川新驛貨物統計グラフに依る研究

- 更に堀川村の研究としては
- 1、兒童の觀察經驗
  - 2、二萬五千分の一地形圖（田畑桑畑草地を彩色せるもの）
  - 3、堀川村勢一覽
  - 4、堀川新驛に於ける發着貨物統計（昭和三年度調）

全級兒童を四組に分け更に調査區域を五區とし各組の兒童を各區域に配當調査せしめ、描圖には先づ本校制定の方眼ノートを各組毎に調査せる所を綜合描圖せしめる。

- 1、學用品店 赤
- 2、飲食物菓子店 黄
- 3、運送店 綠
- 4、銀行 藍
- 5、米屋及雜穀店 青
- 6、倉庫 紫

米	六四一〇	肥料	四一七四
藥及藥製品	七三六	木材	一〇七四
其他	七七五	其他	四七八一
計	七九二一	計	一〇〇二九

以上米及び肥料の壓倒的數値を示せる論證的グラフ等に顯現する表象によつて、農業を主とする村民の活動様式を地形氣候の上から推究せしめる。



自然……平野、氣候、地味

人力……灌溉(廣田用水)、肥料、耕作 米……農業

富山市を附近に控へてゐる關係上、花卉類蔬菜類の栽培盛にして、青物市場が出現し兒童の如きも朝夕に花賣として活動するの特異相を表す。又近來郊外の住宅地として新築されて行く是等の事象を考察し、都市と附近の農村の關係を明らかにしむ。

### ○ 吳羽山近傍

要旨 地形及地質と産業との關係、地形と交通の關係を有機的に研究し併せて地形の成因地圖との對照に及ぶ。

準備 二萬五千分の一地形圖、二十萬分の一帝國地圖、地質圖(四十萬分の一)、震災豫防調査會報告第百號乙

- 要項
- 1、地形 傾斜地塊、神通川の流路
  - 2、地質 洪積層
  - 3、蜆森(北代) 原住民族の遺趾
  - 4、産業 茶、桑、蔬菜、果樹 (蔬菜栽培と富山市)
  - 5、交通 山と鐵道及び道路、峠……茶屋
  - 6、富山平野の展望 地圖との對照、三角點(吳羽山、五福)

吳羽山近傍の地理は本校の定期遠足の時實地觀察せしめ整理するものである。

實地踏査

準備 各自に二萬五千分一地形圖を與へ著色せしむ。

鳥瞰圖と比較し乍ら順路の記入、着眼點の指導

順路 本校―五福―神通大橋―牛ヶ首用水―御廟―蜆森―北代―吳羽山―五福―聯隊橋―招魂社―本校

磯部にて神通川を觀察せしめて川と交通産業の關係をとき足下なる堤防に依り人の自然征服の姿を認識せしめると共に大正三年の洪水、その昔の舟橋に及ぶ。川原に推積せる運搬物の景況より川と平野の關係を明にし、吳羽山城山南方の飛驒高地東方の立山連山等々比較し、丘陵山脈山の差異を知らしむ。牛ヶ首用水に沿つて下る時吳羽山テルテツトブロッツク斷層崖とその利用度を觀察なさしめ、蜆森に至る。此處に於て神社境内に貝殻の散亂せるを目撃せしめ、こは地質時代の洪積期に於ける原住民族の生活せし跡にして彼等が海濱に漁りして貝を食し、その貝殻が現在も尙残れる事とき海岸線の變動及地形と人文との關係に及ぶ。更に北代を経て西側より吳羽山頂に到る間に於て緩傾斜地帯を觀察し桑畑、果樹、茶畑

に留意しつゝ、頂上に来りて地圖と照合し以て讀圖力の發展に資す。地形圖及地質圖と山の兩斜面の地形を照合考察し更に

震災豫防調査會報告第百號乙山崎直方博士の關東地方の地形學的考察中の第十八の圖版瀧川斷層の模型的なテルテツトブロッツクの寫眞を示し吳羽山の成因及地體構造に及ぶ。南方の鞍部に北陸街道通じ追分、中、峠茶屋の聚落あり山と交通路山麓と聚落との關係を考察するに足る。その他兒童の個々の問題をノートせしめ整理學習の發展に資す。

### ○ 富山市

要旨 富山縣の政治經濟文化の中心にして早晚我が堀川村の併合さるべき富山市の職能及特異性を知らしむ。

準備 富山縣地圖、富山市街圖、富山市戸口職業別グラフ、主要産物比較表、富山驛及び市附近各驛の貨物統計、都市計畫圖、縣下主要驛貨物集散旅客乗降狀況比較表

- 要項
- 1、位置
  - 2、人口及戸數
  - 3、職業別戸數……職能
  - 4、政治、教育、軍事、交通、經濟の中心
  - 5、賣藥とその沿革及販路、國際製藥株式會社の創立

6、機械工業の發達と工場地帯

7、沿革、都市計畫

職業別戸口(昭和二年度調)

計 一七六五二

農 六二二 水 一〇七 礦 三 工 四一四

商 五三一 交 六七八 公 二三八七 他 三二五八

商工業の數の多いは商工業的色彩の濃厚なるを立證し公務自由業の多いは諸官衙、學校等ありて政治軍事教育の中心地である爲である。縣下主要驛の貨物集散旅客乗降の狀況を比較し富山より四方に放出してゐる各鐵道、乗合自動車、貨物自動車等を考察すれば交通の中心たるや躍如としてゐる。富山驛及び市の周圍の各驛の發着貨物の品目を調査研究すれば市の商工業の特異性が明となる。又會社、銀行、手形交換所、米穀取引所、魚市、八百物市場の所在を知られば商業經濟の中心たるを把握出来る。

主要工産物(昭和二年度調) 三十萬圓以上

賣藥 八、六三三、〇八四圓 清酒 四六六、八三〇圓

絹織物 一、七〇一、六三七 印刷物 三二〇、七〇〇

羅紗製品 五七一、〇〇〇 菓子 三〇五、〇〇〇

富山縣たと云へばすぐ藥屋さんですかと他府縣人が云ふ。



是程全國的になつた賣藥の起源は藩王前田正甫公の時にあり、藩王の奨励と各人の努力に依りて發達し、今や國際製藥株式會社も創立されて海外雄飛を期し、漸次世界的とならんとしてゐる。絹織物は明治三十八年始めて輸出され印度に於て歐米諸國品と競争し遂に勝を制して更に歐洲濠洲南洋に販路を擴張した。その他の機械工業も發達し工場も市内にて八十一を數ふるに至つた。

市内及び附近に於ける工場(職工四〇人以上)分布

富山縣織物模範工場	輸出絹織物	大泉町	四二一人
株式會社廣貫堂	賣藥製造	梅澤町	二七六
株式會社師天堂	同	荒町	六一
第一ラミー株式會社	ラミー紡績	山室村	六六五
大正製麻株式會社富山工場	麻絲麻織物	奥田村	四五七
東洋絹織物株式會社工場	絹織物	同	一六五
佐藤鐵工所	鐵工業	山室村	六二
金山電化工業所	黃磷製造	同	五八
日本曹達富山工場	ソーダ製造	同	四一

工場は大低かくの如く富山驛—南富山に至る電車線路の東部にあり、特に市外東部東北部に發展性あるは風向、飲料水交通の關係ならん。富山は年中西或は南に偏した風多く東北

風は六・七・八月にあるに過ぎず。煤煙や操音の害あるは東或は北である。飲料水は常願寺の影響にて好く大泉町清水町泉町の地名にても知られる。稻荷、山室の驛あり運河間鑿後、更に交通に便にして將來の工場地帯として恰好の所である。而して南部西南部が住宅地帯として發展性あるに對比すれば好研究事象たるを失はないのである。

○ 笹津、上瀧、八尾方面

要旨 平野と山地との接觸地帯にあつて交通上産業上のローカルカラーを持つ是等の聚落の普遍性と特殊相を知らしめんとす。

要項

- 1、笹津方面
  - イ、山麓都市の發生
  - ロ、ヒンターランド
  - ハ、店に賣るもの、交通機關、荷馬車、自動車
  - ニ、笹津驛に於ける發送到着貨物の景況
  - ホ、笹津の職能
  - ヘ、地質及田園景の觀察
  - ト、發電所
  - チ、種畜場
- リ、平野と小盆地における住居形式に顯現せられたる富の状態

2、上瀧方面

- イ、後背地域と上瀧町
- ロ、町の特徴
  - a、宿屋の盛衰
  - b、石灰の産出と町の盛衰
- ハ、蠶と住宅の特殊形
- ニ、蠶業試験場
- ホ、人口密度と開墾

本校定期の秋季遠足に行く所である。故に觀察せしものを地理に再現し検討するも價值ある事と思ふ。

山地と平野との接觸地帯には産業の差異と交通上の關係で聚落の發達する事は多分の普遍性を有するも、都市の盛衰は山間の谿谷平野なるヒンターランドの廣狹、交通系の變化に依りて幾多の特殊性を發揮する。その例として此等の聚落の研究は意義がある。

○ 笹津は神通川の上流にある船津、古川、高山の町及岡鐵神

山等のヒンターランドを持ち、これらの都邑から送り出さるる物貨は此處に集り是等の溪谷平原に送らる、物貨はこの關門を経て流動するが故に交通の要衝として可なり活氣を呈してゐる。まだ飛越線の成らざるため貨物は荷馬車、自動車に依るためなるも今後飛越線の開通が如何に影響するかは好研究問題である。

上瀧は同じく山麓都市として發生せるも笹津に比してヒンターランドが狭く且無人の境地たる立山山脈中に極まる故活氣なく、且つ立山登山者のため宿場町的に發達せるも交通の進歩に依りその職能を失ひ老年期の都市となつた。

八尾は所謂谷尾なるべく久婦須川、別莊川、室牧川の合流點にあり、各河流の流域をヒンターランドとなし、産業に於て特殊相を表し、生絲に於て縣下第一の名を得蠶業試験場あるは尤の事である。飛越線の開通と共に以上以上の發展を期してゐる。故に是等の聚落を研究することに依つて後背地の人類活動に及ぼす影響を知らしめる事が出来る。

○ 東岩瀨近傍

要旨 海濱特に東岩瀨を研究することに依つて海運と富、港水産業の概念を與へんとす。



準備 富山縣地圖 東岩瀨町地圖 富の分布圖 漁船分布圖  
東岩瀨港及東岩瀨驛に於ける輸移入貨物統計  
要項

- 1、神通川と住居聚團
- 日本海に於ける港の形式
- 東岩瀨町における富の分布と倉庫の分布
- 2、帆船時代 北海道、樺太對岸貿易
- 3、築港 富山市との關係
- 4、溺没谷と漁業 1、近海漁業、大陸架、出稼漁夫

富山縣の富は岩瀨にあり岩瀨の富は馬場にありといはれる而して其れ等の富は東岩瀨港即ち舊神通川河口に沿ふて分布し大厦、大倉庫が軒を並べてゐる。これは帆船船路時代に町の先覺者が盛んに日本海を跳梁し各地に通商して得た巨萬の富がこゝに蓄積されたのである日本海市の特色た港る河口を利用した岩瀨港も帆船時代には壯年期にありしが、大船巨舶時代の今日に入つて老衰萎靡その極に達した。近時築港をなし富岩運河の實現となり再び壯年期の域に達せんとしてゐる。更に海岸に於ける漁船の分布圖を見るに殆んど百尋線の中のみ配列せられてゐる。これはこゝに産する魚族の關係で

ある。主なるもの、一は鼈甲、海老、太刀魚である。過去に日本海を通商せし地理習慣性に依り尙も遠洋漁業が盛である。

富山縣

要旨 兒童の郷土として比較的擴充されたる富山縣につきて學習せしめ、特に地形氣候の自然景相と經濟相との有機的研究をなさしめ、模式的なる産業教授をなし、併せて一等地誌の學習態度を養ひたい。

準備 日本全圖、中部地方圖、富山縣地圖、人口分布圖  
雨量及び氣温グラフ、各種産業分布圖、地質圖、交通圖、伏木及熊本の快晴日數、降水日數等グラフ

- 要項
- 1、位置、面積
  - 2、人口、人口數、人口分布
  - 3、地形、地質
  - 吳羽山以西……地體構造に依る平野
  - 吳羽山以東……ケスタの地形 立山
  - 黑部川三角州……扇狀地様三角州
  - 4、氣候 雨量とその各月分布 フォーン風と米作
  - 5、産業

イ、農業

扇狀地と農業(特に米作) 扇狀地と灌溉設備 及び土壤の物理的化學的性質、射水郡北部の溝渠 新潟、石川兩縣に於ける排水と米作、米、西瓜、茶黒部川沿岸に於ける西瓜と地質と氣候

- ロ、工業
- 賣藥 機業 分布狀態の考察  
藩政と賣藥及機業 其他
- ハ、水産業
- 近海漁業 漁獲物と海の景況との考察  
遠洋漁業 水産製造 水産講習所(滑川)
- 6、交通 交通と地形 氣候 産業 聚落との關係

富山縣は由來越中米の産地として名高く殊に移出能力に於ては收穫高に對する率多く又、段當り收穫高も左の如き地位にある。

本邦府縣に於ける米の移出力(五ヶ年平均一〇—一四)

收穫高	移出高	收穫高	移出高
新潟 三一一九千石	一〇三二千石	秋田 一九一九	八五七
山形 一九九五	八三〇	富山 一五七七	七二五

石川 一一〇八 二五七

段當り收穫高

筑紫平野 一・三九石 越後平野 一・七〇 富山平野 二・一七  
秋田平野 一・九八 仙石平野 一・九〇 石川平野 二・〇三

之は庄川、常願寺川の各河川の作れる扇狀地は地味肥沃にして排水の便空氣の流通等の理學的性質佳良にして稻の生育を助くる事が大きい。殊に夏季に於ける所謂フォーン風に依り氣温著しく高騰するため結實に好影響を興ふるためである然し本縣の收穫は時恰かも季節風の交代するため、雨量大となり乾燥に於て缺け、軟質米として聲價をあげ得ない。けれども縣民はこの自然に順應して火力乾燥機を利用して米質の向上に努力しつゝある。

西瓜の生産地帯が黒部の流域に集まれるは山地より洪瀨地に出てたる黒部川の海に入るまでの距離が短かく、ために扇狀地を構成する土壤が砂質となり排水に便で更に、フォーン風そのものに依る高温とがその原因と思はれる。十五年前始めて秋生村に栽培されてそれが今日あるは驚くべき發展である。本縣に於ける賣藥と機業の各分布を觀察すると、そこに全く反するものがある。賣藥は富山を中心として新川方面に、機業は礪波を中心としてゐる。之は各々富山藩と金澤藩の治



下にありて各その獎勵に依つて、特殊相を示すものであるが兩者共に積雪多く家内工業發達を促がす氣候の影響に依る事は勿論である。

水産業は海岸線短きも深海の灣入ありて漁族に富み近海漁業盛に行はれ、近年遠洋漁業も漸次盛となり、水産製造物も急に多くなつた。氷見魚津の漁港の完成と共に一段の躍進が行はれることだらう。

黒部峡谷

黒部は日本に於ける最も深い峡谷として若い谷の特徴を發揮してゐる。全長五十軒、年中消ゆるなき萬年雪の下から産聲をあけて、白樺や榊や榎の下蔭を潜りて、主として花崗岩類の岩石を貫いて流れ、岩に唸りて石に激し、河原も局部的に存在するに過ぎず。全く幼年期の峡谷にして、コロラドのグランド、キャノンと共通する點さへあると云はれる、この偉大な自然を知らしめ人文景の進展へと考察を進めしむ。

伏木及び高岡

要旨 日本海沿岸に於ける港の模式的なものとして、その特殊性を知らしめ、伏木と高岡との關係及び港としての重大

性を明ならしむ。

準備 日本全圖、中部地方圖、伏木町地圖、伏木港一覽、高岡市街圖、地形圖(二萬五千)日本海岸各港の貿易狀況比較表、伏木港及伏木驛輸移出入貨物統計、高岡伏木間移出入貨物調(川船に依るもの)高岡市統計書

要項

- 1、伏木港と小矢部川
- 2、伏木港の地位
- 港としての設備……人工的方面
- 貿易狀況……港の輸出入貨物統計に依る研究
- 3、築港
- 4、高岡との連絡及び相互關係
- 5、高岡市 商工業及び交通の中心……經濟的都市、工場地帯と千保川、銅器とその沿革及び販路
- 沿革 都市計畫

伏木港は小矢部川の河口を利用して發達せし地にして、その位置重要な地點にあるため海運業の發達に伴ひて發展し今や日本海に面する港灣中小樽に次いで輸移入貨物の集散をなす。

船舶に依る貨物及出入汽船統計(昭和三年)

貨物總噸	一、二四〇、〇二二	昭和二年度全國的地位、一八
入貨	九五九、三三九	
出貨	二八〇、六八二	
此の價格八三、九八六、五四八	同	二三
汽船 入港	九七九	
出港	九八二	
此の總噸數二、七七八、四一八	同	三八

内外貿易累年比較

大正七年	二八〇、一九八噸	四二、一〇五、〇五五圓
同 十年	六九八、九三〇	五九、〇四一、六二五
同 十三年	九三七、四六六	八三、一一三、〇三九
同 十四年	一、〇六一、七五三	九〇、三四六、一一二
同 十五年	一、二四〇、三七〇	九一、三一八、二五七
昭和二年	一、二二五、七三二	八七、六五二、四八三

(昭和二年以下小矢部の水運を利用しての貨物集散を除く)  
現勢ある伏木は往昔より開け、聖武天皇御代大平四年國府を置かれ越中の中心となる。その後變遷あるも、水運の便と肥沃の大耕地をヒンターランドとなして發展し、漸次港灣の眞價を認められ船舶の出入頻繁となる。明治三十三年政府直

轄工事で修築され、更に大正十五年六月十五日の起工に基く修築が行はれつゝある。然し統計も明かなる如く日進の盛運に向ひ物資の集散頓に増加し現在の工程に於ては、使命を果すに缺くる所ありとし二ヶ年繰上げ昭和八年に完成する。防波堤の擴築、横棧橋の増設、船渠の新設、浚渫、埋立等の完了後は面目を一新し、六千噸級、二隻、三千噸級、五隻、二千噸級、二隻、を繋船し一ヶ年間荷役能率百五十一萬六千五百噸に及ぶ。又工業用物資並に動力の供給製品の移出に於て極めて至便なる故各種工業の勃興や目覺し。

高岡は此の伏木を玄關口として發達した經濟的都市である。川船、鐵道、自動車等交通至つて良く、將來伏木の發展と共に益々活動するだらう。

伏木港の移出入品種別貨物統計(昭和二年度調)

移入	海産肥料 九九六萬圓	石 岩 四三八萬圓
木 材	三三三	セメント 三三三
乾 魚	二九二	和洋紙 一七五
バルブ	一四八	大豆 一八二
生 魚	一四四	昆布海藻類 一〇三
移出	米 六二二	綿織物 三四五
綿	二六八	麻織物、同製品 二二六



鑛 石 一九九  
藥製品 一四八

陶磁器 一六〇  
賣藥、藥品 一三六

(百萬圓以上)

高岡市職業別戸口 計九〇五五(和昭二年度)

農 三五三 水 一二二 公一〇二八 交一三〇

工 三三九五 商二四七二 鑛 一 其他一六七四

重要工産物(昭和二年度調)三十萬圓以上

綿絲紡績 二、五七三、九〇一 銅 器 二、一七二、一二八

製 綿 一、三七九、〇〇四 漆 器 五六〇、七六四

新毛斯友禪 四八三、八七三 建具機械 三三七、八一六

鉄鐵器 三二二、九〇〇 清 酒 三〇六、五五七

高岡市に於ける貨物移出入

鐵道に依るもの 移出 一八〇一六噸 移入 五一四八三噸

川船に依るもの 移出 三三四一五 移入 二〇八五四

以上の統計を検討する事に依り高岡及〓木の獨自性と港々

商工業地の關係の普遍性を了解せしめる事が出来る。

○

### 富山縣

要旨 日本の各地方を調べたる事に依つて、形勢なり地と人

との關係がおほろげながら理解せられたから、茲に他山の

石もて自己を磨く態度で今一度縣勢を検討し眞の富山縣を知り、縣民としての覺悟を確立せしめたい。

準備 日本人口分布圖、各縣人口密度比較、一人當り耕地、面積比較、海外發展、移住民比較、米の移出高累年比較、水力發電所分布圖、發電能力比較、主要産物比較、要項表、日本全圖

要項

1、日本に於ける富山縣の地位

2、富山縣の現在及將來

イ、農業、米作とその將來、移出能力、米質、火力乾燥機、灌漑の完成、農村の副業問題

ロ、水電事業と工業

水力電氣(地形、地質、雨量)

鐵礦精鍊、日本人造肥料(速星村)窒素肥料

紡績業(吳羽、井波その他)化學工業、その他

ハ、伏木港、高伏自動車道路、高伏一帯の工業貿易

ニ、飛越線と富岩運河

3、我等縣民の覺悟

地形的に更に氣候的に恵まれた富山縣、即ち冬季對島海流上の濕氣の季節風に送られて降る連日の大雪は、北日本アル

プス中に積りて夏季他地方に於て湯水に苦しむ時も尙灌漑に水運に天與の利便を興へられてゐる。吳山以西の礪波、氷見の一部に於て灌漑法を考慮するの必要あるもその非他常に良好なり。茲に於て縣民は米作と水電を利用して生産業を營み文化生活を創造すると共に富山縣なるこの自然景觀に偉大なる文化景觀を産み出す用意について深い省察をなさしめる。尙近世の如く時々刻々に反動する相場取引の時代にあつては僅少なる運賃の差異よりも寧ろ輸送期間の長短遅速如何は

取引上その遂行發展に甚大の關係と意義を有するこの意味に於て日本海港市中、原料の生産地として將來世界の寶庫たるべきシベリヤ北滿州北鮮一帯より大工業地なる京阪東海地方への最捷路たる絶對的優逸地點にある伏木、又石炭の有限り白炭の無限へと進展する今日に於て日本の十分の一を發電し得る我が縣の優越など此等の偉大なる地位を護り立つべき縣民としての覺悟に及びたい。

### 富山縣師範學校附屬小學校

梅崎 三郎

地理教育上に於ける郷土の教育的價值は、ルツソーが「郷土を以て地理教授の出發點となすべし」と叫んで以來、「郷土に出發して郷土に歸るべし」と事新しく云ふ今日に到るまで、

年と共に其のことが鮮明にされて來ました。

従つて今此處に殊更に其のことを彼此と論議することは如何かと思ひますので、總てを肯定した意味に於て直に實際案に移ることにします。

では私は地理教育上郷土としての富山縣を次のやうに取扱ひたいと思ひます。

一、形式的陶冶材としての富山縣

A、讀圖の基本的指導

先づ郷土の直觀と符號的約束との關係を一致させ、具體の内容を持つ記號の指導から出發しなくてはなりません。

家から學校までの通學路を描かせます。電車が通つてゐる



と云ふことは、電車の一般的記號を要求してゐます。汽車で歸ると云ふ子供には、鐵道の記號が必要となつて來ます。そこで西田地方校があると云へば「文」の記號を知らせ、郵便局があると云へば「丁」を約束し、其他、正、行、等と平易な子供と親み多いものから初め、漸次一般的な記號へと指導するのが自然であつて、其處に本當に内容の盛られた基本が出來て來ます。

富山縣の地圖を前にして其の中に描かれてある各種記號を吟味して見ることも必要であります。何時かの時間に俱利伽羅にある古戦場の記號を見て、義仲の戦法に花が咲き、地理か國史かと疑はるゝ曖昧な數分間が續きました。山の頂上は尖つてゐるから「▲」此んな符號がついてゐると自慢らしく云ふ傍から、温泉は湯気が上つてゐるから「☁」だと叫ぶ。結局同點だと云つて仲直りをしてゐる子供もありました。○と◎の都邑の區別がつかぬので停電してゐる子供もありました。親不知の「」の符號を見て汽車旅行を思ひ出し、細い眼をしてゐる者。トンネルを見て「今は山中今は畑」を口走り級友から痛い注意を受けてゐる罪の無い脱線屋もありました。機械的に強制せられた形式から流れ出るものは、又一個の型に過ぎません。私達が具體の盛られた形式即ち記號を共々

に生活することは、今に初まる地理學習を最も意義あらしめます。此の意味に於て今其の指導の一方法を次に掲げます。

- 1、學校から自宅までの略圖を描かせて。
  - 2、富山市の地圖を見て。
  - 3、富山縣地圖を見て。
  - 4、平面圖について。
  - 5、縮尺について。
  - 6、方位について。
- 立山と吳羽山を基にしての東西南北。自分の家の東西南北。富山縣の東西南北。御大典、御遷宮の遙拜式と京都伊勢の位置。

御大典と東京の位置。

- 7、等高線、等深線について。
- 8、雨量圖、等温線圖について。
- 9、海流について。
- 10、暈滯、曲線圖、ケバ曲線圖、ボカシ圖について。

### B、内面的讀圖の基礎的指導

斯くして得た地理的な記號や用語等の規約は、愈々讀圖の際に各々其の機能を内面的に働かし、各地各所の地理的現象を如實に掴み得るものにまで延長されなくてはなりません。種々の記號を一々地圖に求め海があつた、都邑があつた、鐵道があつた等と喜ぶ子供のあることは望ましいことではありません。其處には何等の本質的な働きがなく、何の關係をも認めやうとしない形式的な形骸があるのみであります。そして其の事は、電信符號を暗記して高田の夕、名古屋のナ、と機械的に羅列するのと同じの心理過程を辿つてゐるに過ぎないのであります。

富山市地圖を擴げて見ると、大正製麻、東洋絹織物、模範

工場、ラミー、廣貫堂等の各工場が郊外に或は郊外近くに其の位置を占め、しかも市の北から東に渡つてゐます。十二銀行、富山銀行、四十七銀行を初め北陸汽船、日本海電氣等の會社は市の樞要な地に建てられてゐます。是等の事實は會社工場と位置、交通、地價、住宅、其他の環境等の地理的な機能や物語つてゐるのであります。富山灣の定置漁場の分布圖を擴げますと、漁業と深さ、海流、潮流、時期との關係を充分に窺ふことが出來ます。

内面的な讀圖所謂地と人の相關關係は、遠く中國と中國山脈、大阪平野と淀川等にのみ意味されてゐるものではありません。極言するなら近い私達を繞る環境の總てが其の支配下にあると云ふことも出來ます。

隨つて内面的な讀圖の指導は直觀界をスタートとすべきものであります。

- 1、雨天の日の校庭について。
  - 2、神通川原で。
- 堤防。橋。其處を通る舟の各種考察。砂利採。砂探。廢川地の利用。水泳場。用水。支流としての熊野川、井田川。中流を意味する礫石。七軒町の漁業組合。上流の發電事業。飛越線と神



通川。川原に小川を作つて其處に現はれた川の三作用。

3、吳羽山へ登つて。

平地と山地との生活様式の相異。畑地の作物。山にある木、山の道の特徴。峠にある白壁茶屋。花見、月見、紅葉狩と吳羽山。山上から見た富山市、神通川、常願寺川、聯隊、耕地の状況、富山灣、吳東と吳西の相異點等。

4、立山を見て。

境界線としての立山。立山の經濟的關係。登山と立山山脈と人との關係。

5、上瀧千垣方面へ行き。

富山との高度の比較。階段狀の田園。用水の取入口。上瀧發電所。山間を流る、常願寺川と神通川の比較。千垣の取入口。貯水池。和田、中地山の住民の生活様式。自然を征伏しつゝある人間の威力。

6、東岩瀬へ行き。

濱街道の松並木。濱の生活様式。海水浴場と富岩電車。築港と富岩運河。濱と私達との關係。

7、富山市地圖を擧げ。

八尾行き、四方行き、笹津上流行き、山室行き、新庄行き、東岩瀬行きの各道路と略一致して町が其の方向へ延びてゐること。要所々に交番所があること。富山市が神通川に沿つてゐること。

8、其他。

長柄町の米屋、駄菓子屋に依つて田園と都市の有機的な經濟的

關係。

縣下の發電所の分布と河川の關係。

磯波の孤立莊宅により、土地に依つて人類の聚落様式が相異すること。

高岡市と伏木との關係や、伏木の工業地帯の地理的な考察。

C、地理學習態度の指導

受動的な他から強ひられた地理學習は、地理教育からは勿論、時代の教育思潮からも當然相容れられない多くの點のあることを痛感するのであります。つまり私達は現象そのものに積極的に親しまふとする子供をより多く望んでゐます。そして此の望みは直觀の固き礎の上に築かる、ことに依つてのみ願望な且伸展性のある成長を見ることが出来るのであります。そして郷土から受けた第一の印象が其の陶冶の可能性を過分に齎すのであります。

勿論斯る指導は特設された時間内に行はるべきものではなくして、前に述べた基本的な指導をなしてゐる際、自然に培れてゐるのであります。

川中島の古戦場の記號を見て、俱利伽羅の義仲を思ひ出し、此處にも戦ひのあつたことを察知してそれを究めやうとするのであります。

利根川が子供の中樞を刺戟した時、嘗つて遊びの中に善導された神通川に想ひをいたし、何かを調べようと焦るゝありませう。

輪島に漆器を産する。此の事實を知つた子供は其處に何等かの疑問を生まなくてはなりません。なぜならば、正甫公の努力に依つて特殊な賣藥業が本縣に植ゑ付けられ、年額二十萬圓と云ふ破格な産額を占めてゐる事實を知つてゐるからであります。

是等は一例に過ぎません。つまり郷土に依つて指導された尊い形式的な或るものが、幹となり肉となつて新しい事實に對し、「知りたい」「調べよう」とする自學的な態度を醸成してゐるのであります。

D、地理學習に對する趣味の涵養

六年になつて初めて鐵道の記號をしつて喜んでゐる子供や中部地方を學習する際、佐渡が大波のため凌はれはしないかと心竊に憂ひてゐる子供には、地理を學習する眞の喜びがあるか乃至あつたかを疑ふのであります。

現象に親しむことの喜び、眞理を究めることの誇りは決して空虚な概念の世界からは生れてきません。對象の飛躍からも生れさうではありません。

雨のため活動を制限されてゐる子供等が窓側に集つて、校庭に出來た小川を凝視し、其處に現れた地理的な現象の説明に耳を傾けて其のことを無下に喜んでゐます。更に此の小川の水が日本海と握手してゐることを囁きながら遙かの彼方へと憧れの視線を送つてゐます。

本縣の等雨線圖、等温線圖及び地勢圖とを綜合して、夏毎に起る早魃の争ひの當然であることをしり、造化の神のつもりで下界の人間の或る愚かさを嘲笑してゐます。そして地理學習そのものに、より多くの親しみと眞摯な態度とを持つてきます。

地理學習に對する趣味は斯くして培れなくてはなりません。即ち郷土を對象として、直觀を對象として長養された趣味は今に地圖を開くことの喜びを感じ、現象に親しむことの尊さを體得するのであります。換言すれば郷土こそ地理學習の趣味を助長する唯一の陶冶材なのであります。

郷土を對象としての知ることの喜び、思索することの喜び其處に云へぬ尊いものがあります。

二、郷土誌の對象としての富山縣

「我疑ふ、故に我あり。」とりわけ子供は眼に映するもの、耳に聴くもの、總てに疑問を抱きます。即ちしらうとする倦ま



ざる努力は絶えず彼等を啓培しつゝ、あります。従つて直接彼等を繞る郷土に對しては、常に彼等の求知心が働いて、細大を論ぜず、輕重を考へずして詮索を仕始めます。そして自己の擴充を計りつゝ、より良き生活へと足並を揃へてゐます。

此の汽車は何處へ行くのですか。此の道は何處へ。此の電信はどこへ。今鐵橋で渡つた川は何川。あの學校はどここの學校。あの煙突は何するの等とひつきりなしに訪ねます。總して彼等の知りたいたいと云ふ心の連續であります。

然し此の疑問を地理的な理法發見と無關係であると云つて敢て反省もせず打捨てることは妥當性を缺いてゐます。教育を否定してゐます。つまり環境に對して相當にせらるゝと云ふことは大きな、しかも必要な教育的な仕事であります。斯うした意味から當然郷土としての富山縣を知らせなくてはなりません。

更に私達は富山縣人であります。子供も。隨つて富山縣人なるが故に立山も知らねばなりません。黒部西谷も、賣薬も蟹島賊も、黒部峽谷も。即ち富山縣それ自體を目的として其の理解を計り、より一層彼等を彼等にまで導くことを必要とするのであります。

此處にも郷土としての富山縣を知らせることの意味づけを

してゐます。

要は富山縣それ自體をしるために、地勢、産業、交通、都邑、名勝舊蹟等を適宜に配當して、地理的に本縣の實相を掴ませなくてはなりません。此の意味に於て、私は少くとも次の事項だけは知らせなくてはならぬと思ひます。

- 1、位置
  - a 相對的位置……富山縣の隣縣。富山縣の四周。日本に於ける富山縣の位置。
  - b 實用的位置……東京へは下り列車で行く。京都、大阪へは上り列車で行く。
- 2、面積……四四一六方呎(約二七六方里)。三府四十三縣中第三十二位。東西九〇呎、南北八二呎。
- 3、區分……二市八郡。吳東吳西。二市卅二町。二百卅一ヶ村。一方呎の密度百八十八人。
- 4、人口……八十三萬人。
- 5、地勢
  - a 山脈……白馬岳。鐘岳。劍岳。立山。藥師嶽。飛驒山脈。寶達山脈。城山。吳羽山。日本アルプス。立山二九九二米。
  - b 河川……黒部川。片貝川。早月川。常願寺川。神通川。庄川。小矢部川の七六河川。黒部峽谷。本縣

8、交通

- a 道路……国道。縣道。市町村道。
- b 鐵道、電車……北陸線。飛越線。中越線。富山線。縣營鐵道。立山線。加越線。富岩、越中、黒部鐵道。市内電車。
- c 乘合自動車……市内、富山中心。高岡中心。其他
- d 電信、電話……金澤、大阪、東京等へ、J O A K 等。
- e 海上の交通……伏木(北海道、樺太、北鮮) 東岩瀬の築港。

- 9、都邑……富山市。高岡市。水見町。島尾。伏木町。新湊町。石動町。供利伽羅。福野町。城端町。立野原。五箇山。井波町。高瀬神社。出町。戸出町。八尾町。小杉町。笹津。大岩。滑川町。魚津町。三日市。泊町。愛本橋。宇奈月温泉。鐘釣温泉。
- 10、水力電氣……縣下の發電力。送電。黒部川。庄川。神通川の發電。水電と工業。

三、他と關係する富山縣

孤立した個人のある得やう筈がありません。同様に孤立した縣も許さないのであります。即ち或は恵みつゝ、或は恵まれつゝ、必然的に偶發的に協調扶助し、以てより良き生活へと歩み續けてゐるのが現實の世相であります。殊に交通機關の

6、氣候

- a 氣温……最近十ヶ年間の平均十三度一、八月最も暑く、二月最も寒い。
- b 雨量……二二七〇耗。本縣と積雪。
- c 風向……四季を通して北東の風多い。強風は四・五・六・七月の南西の風。伏木の測候所。

7、産業

- a 農業……越中米(三十萬軒)百六十五萬石) 黒部西瓜。野菜。果物。山手及び島尾附近の養蠶業。
- b 牧畜……割合に振つてゐない。
- c 林業……山地が多いから有望。模範林。
- d 水産業……氷見海岸の鮭、鱒。岩瀬海岸の鱒。魚津の鯛。滑川の蝨烏賊。富山灣一帯の鱒。滑川の水産講習所。遠洋漁業。
- e 鑛業……殆んどされないと云つてもよい。
- f 工業……本縣産業中最も大切なものであること。賣薬(國際製藥會社)。織物。紡績。肥料。伏木の工業地帯。高岡の銅器、漆器。



限らない進展は、二點間の距離を時間的に限りなく短縮しつつある今日、我々の活動舞臺は愈々望み多く展開され、他との交渉は日一日とその複雑性を加へてゐます。

此處に於て郷土を唯一の殿堂と心得、郷土そのもののみを研究の對象としてゐることは、多くの缺陷を招く結果に陥ります。他と交渉する政治、經濟、交通、文化の諸關係を如實に眺めることに依つてのみ眞の富山縣を理解することが出来るのであります。そしてそのことはとりもなほさず自己の意味を擴充し、自己をより良く價値の世界へと導いてゐることになります。

然るに他と關係する富山縣を更に吟味して見ますと、一は他と交渉する場合、一は他と對比する場合との二つに分けることが出来ると思ひます。

A、他と交渉してゐる富山縣

東京芋は焼芋屋を通じて女學生を喜ばせてゐます。秩父銘仙は岡部のウインドーに飾られ、道行く人の足を止めてゐます。今の醤油は臺所の必需品となつてゐます。又若人は我も我もと笈を負ふて東京へ走ります。更に國際製藥會社はメキシコへと其の販路を擴めてゐます。

斯く觀じて來ますと、他と交渉してゐる部面は實に多方面

に互つてゐます。殊に經濟的關係に至つては國境を超越し、縣境を超越して總しが交渉し採長補短其の宜しきを得て、私達の生活をより價値多いものにと働きかけてゐます。

尙私の云ふ「他と交渉する富山縣」の内容を分類して見ますと或は經濟的關係、文化的な關係、交通的な關係等とも分けることが出来ますし、或は能動的な關係、受動的な關係とも分けることが出来ます。然し今は其等を綜合した見方で進みたいと思ひます。で此の見解の下に教科書を通覽して見ますと、

1、關東地方

伊勢崎銘仙。秩父銘仙。東京の書籍。淺草苔。東京芋。野田の醤油。銚子の醤油。大島の椿油。JOAK。東京へ勉強に行く。越中米の販路。富山縣を通る上野行急行。品川と米の相場等。

2、奥羽地方

弘前の苹果。秋田杉。櫻桃。南部馬。南部鐵瓶。富山を通る青森行きの急行。本縣戸出耕の販賣地等。

3、中部地方

新潟の石油。高田のスキー。新潟の梨。青海の石灰石。長野の寒天。岐阜提灯。瀬戸物。七寶燒。濱松の樂器。静岡の茶と蜜柑。王子製紙のノート。甲州葡萄。水島。濃尾産の野菜。輪島塗。九谷燒。岡谷。上諏訪。岡崎木ノ本。製紙工場と本縣の女工。針木越え。金澤の中繼所。JOCK等。

4、近畿地方

大阪の綿布綿糸。仁丹、アイフ等の藥品。西陣織。友禪染。丹後縮緬。神戸のマッチ。神戸屋。灘酒。紀州ネル。紀州蜜柑。志摩の眞珠。近江の蚊帳。京都の木山、所謂上參り。桑名と米の相場。JOBK。明石の中央標準時。水見の餅の供給地等。

5、中國地方

疊表。花筵。鹽。花崗岩。小野セメント。廣島の牡蠣等。

6、四國地方

鹽。伊豫餅。土佐半紙。土佐節。沖島の珊瑚等。

7、九州地方

淺野セメント。旭硝子。久留米餅。小倉織。博多織。有田燒。

8、臺灣地方

薩摩餅等。

9、北海道地方

樟腦。砂糖。バナナ。パイナップル。落花生。ウーロン茶。阿里山の檜。夏帽子等。

10、樺太地方

昆布。鹽鮭。鹽鱒。鱒及製品。片栗粉。りんご。大豆。ビール。石炭。蝦夷松。落葉松。苦小牧の新聞用紙。越中米の供給地。富山縣の移民。伏木と小樽。函館等。

11、朝鮮地方

朝鮮人參。大豆。鴨綠江松。富山縣へ移民。北陸汽船の北鮮航

路。本縣の水電と朝鮮人等。

12、關東州

旅順と第九師團。豆粕。鹽等。

13、世界・富山縣

アンガウル島の燐礦。滿洲、支那、南洋及メキシコ賣藥。沿海州、カムチャッカ沿岸と本縣の出稼。ブラジルと富山村。伏木と浦鹽斯德。其他米松。パーミンガム製ペン先、メンソレタム等の消耗品の關係。

B、他と對比する富山縣

比較地理の提唱されたことは、宏遠な地理的な理法の發見にあつたらうが、又一方自他をより多く理解することをも其の内容となすものと思ひます。想像、類推の地理も對比を他にしては成立しないのであります。即ち一つの地理的現象に對し、類似點、反對點、數量上、歴史上の對比をなす時、既知の事實を根據として其の理解徹底を計ることは、地理教育上重要な問題であります。殊に自己の大きな母體である郷土を基本として依つて具體的に研究を進めることは、心理的に云つても甚だ適切なことだと思ひます。

然し私達は、ともすると其れ自體の生命を忘却し、他のため的一方便としてなざる、對比のあることを警戒しなくてはなりません。新潟の米産額を取扱ふ際、富山のそれと對比す



328  
61

ることは、富山縣の米産の持つ地理的な意味を忘れ、單に數の上で何倍々々とするに目的があるのではありません。つまり大阪の藥品と富山の賣藥とを對比することに依つて、益々其れ自身の意味が明瞭にされて來る處に對比の特殊性があるのであります。自己のより良き擴充が教育であるとするれば、郷土のより良き擴充も又深遠な意味がある譯であります。

- a、地勢教材の對比。  
山脈、河川、平野、海岸線の長短、深淺、廣狹の對比。類似、反對の對比。
- b、氣候教材の對比。  
氣溫、雨量、氣壓の高低多寡の各對比。
- c、産業教材の對比。  
産額、生産狀況、消費狀況等の類似點、反對點、歴史上の對比。
- d、交通教材の對比。  
道路、鐵道、電車、航路等の類似、反對の對比。

紙面の都合上單に要項の要項に終りましたが、兎に角地理教育上對比としての富山縣を常に忘れたくないと思ひます。そしてその事が決して他の爲の方便であつてはならないと思ひます。

三六四

以上三項目に亘つて地理教育上郷土としての本縣の取扱ひを吟味して來ました。第一第二の基本觀念及び郷土誌としての取扱ひは、普通五年の初め等に可成り加味されてゐますが一通り其のことが終りますと、其後の地理の授業には、多くの場合郷土を忘れ勝ちであります。其の姿は、自己を忘れて他を知らうとしてゐるかの感が致します。

此處に於て私は特に第三の他と關係してゐる富山縣の取扱ひを重視し、地理教育全般に亘つて常に本縣を考慮することの緊要であることを聲を大にして叫ぶのであります。

昭和四年九月廿七日印刷  
昭和四年九月三十日發行

【非賣品】

編輯者 富山縣初等教育研究會

右代表者 冲田精一郎

印刷人 藤田政次郎

印刷所 藤田印刷所

富山市鶴岡町七番地

富山市彌生町七番地



